

# Palm Magazine

vol.1

パーム・マガジン

## CONTENTS

- 4 続々登場する日本語 Palm マシン
- 8 ソニー参戦で変わる Palm 勢力図

### 12 特集1 最新 Palm マシン一挙公開

Part.1	速報！これがソニーの Palm デバイスだ！	12
Part.2	拡張性に期待 戦略的な価格で Visor 日本語版登場！	14
Part.3	本家 パーム コンピューティング社のマシン	16
	初のカラー液晶搭載 Palm デバイス Palm c 日本語版！	16
	待ちかねたパーム社純正 Palm x 日本語版登場！	18
Part.4	即戦力の拡張性に期待の TRGpro 日本語版	20
Part.5	日本の Palm デバイス市場を切り開いてきた WorkPad にも新製品登場！	22

### 24 “シンプルさ”を実現する Palm OS

	より使いやすさを追求した Palm OS 3.5 日本語版	24
	英語版 Palm で日本語を使える J-OS	28
	カラー対応アプリケーションの世界	30

### 33 特集2 メールで広がる Palm の世界

Part.1	Palm でメールを使うには	34
Part.2	Palm でメールを持ち歩く	36
Part.3	Palm でメールをやり取りする	46
Part.4	お勧めメールソフトはこれだ	60

### 66 Palm 使いこなし術

Part.1	Palm の基本をマスターしよう	66
Part.2	追加アプリのインストール方法	74
Part.3	Palm と母艦の接続とデータ連動	78

### 90 メーカー各社に聞く

ハンドスプリング社	90
ハンドスプリング社の日本戦略	
パーム コンピューティング社	94
本家 Palm 社は SD スロットを採用	
日本 IBM	96
PC コンパニオンからネットワークコンパニオンへ	

### 116 厳選 おすすめパームウェア 4.0

130	オリジナルアプリを開発しよう
100	COMPUTEX TAIPEI 2000 レポート 台湾製 Palm 互換ハードウェアも登場！
104	サイボウズ Office 3 と サイボウズシンク 3 for Palm / WorkPad
106	Palm 強化大作戦 Palm 周辺機器ガイド
113	読者プレゼント
140	これだけは毎日チェックしたい Palm 関連サイト集

### 114 特別付録 CD-ROM 「厳選 おすすめパームウェア 4.0」の使い方



表紙の写真は試作機です。製品では仕様が変更される場合があります。

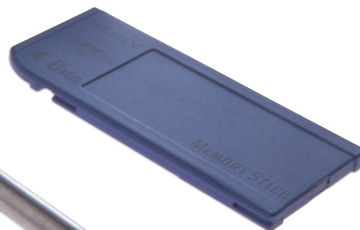
本誌の全部または一部を無断で複製(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本誌からの複写を希望される場合は、日本複写センター(TEL 03-3401-2382)にご連絡ください。本誌の中で紹介する製品などは、各メーカーの商標または登録商標です。

# ついに登場した注目のデバイス Palmとiigo名のエンターテインメント



## メモリスティックの採用で 大容量データの保存が可能

メモリスティックに対応したことで、最大64MB(標準は8MB)のデータの管理が可能に。付属ソフト「Memory Stick Gate」で、本体やメモリスティック内のデータの表示、移動、コピー、削除ができ、各種ソフトを楽しめる



2000年9月9日。  
この日、ついにソニー製Palm  
カラー液晶「PEG-S500C」と、  
モノクロ液晶「PEG-S300」が発売される。  
ソニーはこの2製品に  
どんな未来を込めたのだろう。



ソニー製Palmパーソナルエンターテインメントオーガナイザー」がとうとう発表された。

魅力的な点は多数あるが、特に注目はメモリスティック。メモリスティックは今後さらなる拡張を予定しており、「Memory Stick Expansion Modul (仮称)」として2001年内に商品化を目指す。具体的には、画像入力用カメラやGPS、Bluetoothなどの無線通信モジュールといった商品形態だ。著作権保護技術を搭載した「マジックゲートメモリスティック」にも対応を予定している。

また、製品のオフィシャルサイトのほかに、直販サイト「PDA Style (仮称)」で先行受注も実施する。限定期間内に予約すれば、発売日当日、製品が手元に届くはずだ。年内には、インターネット上に動画や静止画を保存し、ほしい画像をPalmやパソコンにダウンロードできるサービス「イメージ・ステーション」も始める予定になっている。

オフィシャルサイト

URL <http://www.sony.co.jp/peg>

TEL 0570-00-3311

直販サイト「PDA Style (仮称)」

URL <http://www.jp.sonystyle.com/peg>

ダイヤルを回してメニューや起動したいソフトを選択し、押す(クリック)ことで決定。基本操作のほとんどを左手だけで行え、スタイラス(ペン)を使う必要はない。ジョグダイヤルを操作しやすいように本体デザインはスリム

## ジョグダイヤルをクルクル回して 片手で快適操作



## パソコンとのデータ連動を スムーズにするさまざまな工夫

USB対応のクレードルを同梱しているので、ほとんどの最新パソコンとのデータ連動がスムーズ。付属の画像ファイル管理ソフトを使えば、パソコンに取り込んだ静止画や動画を転送してPalmで見ることも可能だ。もちろん、携帯電話やPHSと接続できるアダプター（同梱）と接続して、外出先でも電子メールやホームページの閲覧ができる

### Special Interview



## 石井隆雅氏

ソニースタイルドットコム・ジャパン㈱  
ネットワークマーケティング1グループ(兼) Webグループ グループ統括

## Palmというコミュニケーションを提案します

ただ製品を販売するだけでなく、eコマースの利点を生かして、ユーザーが関連製品の構成を選べるサービスなどを実践してきた直販サイト「ソニースタイル」。この度、Palm OS搭載の携帯端末をサポートする「PDA Style(仮称)」をオープン。同サイトの今後の展望をグループ統括の石井隆雅氏にインタビューした。

「PDA Style(仮称)」では具体的にどのような展開を考えていらっしゃいますか？

**石井氏** まず、ソニー製Palmの先行受注を行い、同時に商品情報をより速くお伝えするメールサービスも始めます。加えて、お客様のご要望に合わせて選択可能な商品構成

の提案も行います。例えばメモリースティックの容量を選んだり、お客様の携帯電話の機種対応のケーブルだけを購入するという具合ですね。

Palmを中心としたライフスタイルの提案をするサービスというのは考えていらっしゃいますか？

**石井氏** ソニーグループ全体でソニー製の端末だけでなく、Palm OS搭載機で閲覧するのに最適な形態でコンテンツを提供していく予定です。また、デベロッパー向けのサイトを提供し、そこで開発された周辺機器やユーティリティソフトを一般に販売できる体制も整えていきますよ。Palmというコミュニティ全体を盛り上げていきたいですね。

# 2000年は日本のPalm元年 日本語対応デバイスが続々登場。



## Palm Vx

もっともスリムなモノクロの純正Palmデバイス。日本IBMの「WorkPad c3」の本体デザインと同一だが、スタイリッシュなメタリックシルバーのボディカラーが人気。内蔵メモリー容量は8MBも積んでいるので、ビジネスでの使用にも十分耐えうる。18ページ参照

今年に入って  
各社から次々とリリースされる  
日本語対応Palmデバイス。  
ソニーのPalm市場参入で  
ますます活気を帯びてきた。  
カラー液晶の採用、新技術の搭載  
これからさらに進化を遂げる  
Palmから目が離せない。



本家パーム コンピューティング社が初めて発表したカラー液晶を搭載したモデル。ほかのPalmデバイスより一回り程大きいのが、Webサイトやゲーム、画像をカラーで楽しみたい場合は実力を発揮する。16ページ参照

## Palm IIIc

## Visor

ひと目で他製品と違う雰囲気のカラフルなボディーカラー5色( グラファイト、アイス、ブルー、グリーン、 オレンジ )をそろえたPalmデバイス。最大の特徴は、スプリングボードスロットによる拡張性。価格も他製品より格段に安い。14ページ参照



## PEG-S500C PEG-S300

ジョグダイヤル、メモリースティックといったソニー独自の技術のほか、「ATOK」を搭載して日本語変換の精度を上げるなどほかのPalmデバイスにはない仕様で、今一番注目を浴びている製品。カラー液晶を搭載した「PEG-S500C」( 左 )とモノクロ液晶を搭載した「PEG-S300」( 右 )の2機種を発売し、同時にPalm全般に渡るさまざまなサービスを展開。発売は今年の9月9日。12ページ参照



日本のPalm市場を開拓してきた日本IBMが今年4月に発売した新製品「WorkPad c3( 50J )」。Palm Vxをベースとしたデザインは今までと変わらないが、日本語Palm OSがバージョン3.5となり、製品仕様がパワーアップ。22ページ参照

## WorkPad c3

普及率の高いICFカード対応を採用した、拡張性が魅力の「TRGpro」日本語版が発売される予定。付属のソフトを使って、本体のメモリーとCFカードの間で任意のファイルのやり取りができる。周辺機器の通信モジュールなどを使ってモバイル通信が可能。20ページ参照

## TRGpro



# ソニー参戦で変わる Palm 勢力図

塩田紳二

今年に入ってから、各種メディアにPalmが登場する回数が増えてきた。その要因のひとつには国内での本格販売が始まり、Palmはどれを買うか選ぶ時代に入ったからでもある。ここでは、今までの国内でのPalmの動きを概観したうえで、今年の状況や今後の方向性などについて考えてみたい。

## 2000年以前

日本語版WorkPadで  
初めての公式日本語化

昨年の日本IBMによる日本語版「WorkPad」の発売は、英語版しかなかったPalmシリーズにとって、大きな出来事であった。それまで、3Com社経由の公式サイトによる製品は販売されていたものの、すべて米国で売られているものと同じで、いわゆる英語版のハードウェアしかなか

たからである。

Palmシリーズの第1号機である「Pilot 1000/5000」(1996年発売)以来、「Palm Pilot」、「Palm」とハードウェアは進化してきたのだが、日本語化には山田達司氏の作成した「J-OS」が必須であった。J-OSは製品化はされたが、PalmPilotの内蔵アプリケーションで日本語を使うには、J-OSのインストール作業が必要で、それにはどうしてもパソコンと接続しなければならない。もともとPalmは「PC Connected」という

コンセプトを持ち、パソコンと連携して使うものではあったが、買ってすぐ住所録やスケジュールを入力できる米国人に対し、国内ではJ-OSやデスクトップソフトウェアの日本語化などが必要で、広く一般ユーザーに使えるというものではなかった(もっとも、この時点では米国と日本の間のパソコンの所有率や店頭価格などの格差もあり、パソコンの普及率が今より低かったことにも一因はある)。

その点で、初期のころはPDAというカテ



昨年、日本IBMから発売された日本語版WorkPad



ハンドスプリング社のVisor



TRG社のTRGpro

表1 各社ハードウェアの概要

製品名	メーカー	概要
Palm / Franklin Planner Editon	Franklin Covey	専用ソフトとPalmを組み合わせた製品を出荷
Visor	ハンドスプリング社	Palm Computingの創業者らが集まる。Visorを出荷中
WorkPad	日本IBM	PalmシリーズのOEM版WorkPadを販売
-	Motorola	Palm OSのライセンス取得
-	Nokia	Epoc上にPalm OSのUIなどを使うためのライセンスを取得
Palm / /	パーム コンピューティング社	Palm OSのライセンス元。Palmシリーズ発売元で、初のカラー対応Palm cを投入
pdQ	京セラ(QualComm)	携帯電話とPalm OSを組み込んだpdQを開発(部門売却のため、現在は京セラ扱い)
Symbol 1700/1500	Symbol	Palm OSを採用し、バーコードリーダーを組み込んだマシンを販売中
TRGpro	TRG社	Palm用拡張メモリーなどを搭載したTRGpro。日本語版を7月下旬に投入予定
PEG-S500c/300	ソニー	9月に製品投入予定。メモリースティック、ジョグダイヤル対応

表2 ハードウェアの進化

筐体形状	機種名	発表	概要
Pilot型	Pilot 1000	1996	最初のPalmメモリ-128K
	Pilot 5000	1996	最初のPalmメモリ-512K
	PalmPilot Personal	1997	バックライトが付くメモリ-512K
	PalmPilot Professional	1997	TCP/IPに対応。メモリ-1M
Palm 型	Palm	1998	メモリが2Mに強化された
	Palm x	1999	メモリが4Mに強化された
	Palm e	1999	xの廉価版。マスクROM採用
	Palm c	2000	カラー版。メモリ-8M
Palm 型	Palm	1999	コンパクト化。Liイオン電池内蔵
	Palm x	2000	メモリ-8M
Palm 型	Palm	1999	無線通信機能付き

ゴリーに入る製品ではあったが、販売も秋葉原などごく一部の地域に限られており、地方では入手も困難で、国産のザウルス(シャープ)などとは違った扱いを受けていた。ある意味、日本語化という作業が必要な製品は、一般向けに販売することは困難と思われていたからである。

しかし、こうした中でも徐々にユーザーが増えるに従い、取り扱う店舗も増加していった。その一方で、まだまだ、ごく一部のユーザー向けのものという感覚は付いて回った。例えば、雑誌などで扱う場合に、コンピューター系の専門誌では取り上げても、携帯電話やザウルスなどを扱う一般寄りの「モノ」雑誌などではほとんど取り上げられることがなかった。

それが日本語化されたWorkPadの登場により、大きく変わることになる。少なくとも内蔵アプリケーションを使うだけなら、パソコンがなくとも利用できるようになったからである。このあたりから、Palmシリーズの一般への露出度が高くなったようだ。慣れたユーザーから見れば、日本語化など何の問題も感じない作業ではあるが、過去にどのプラットフォームでも日本語化が行われていないとなると、やはり“特殊”な商品というカテゴリーから出ることができなかった。これは、パソコンもそうだったし、Windows CEなどさまざまなプラットフォームが経験してきたことである。

日本IBMはWorkPad、WorkPad c3を1999年に国内に投入。交通広告(電車の車内吊り広告)なども行い、国内市場にも浸透させていく。しかし、一般向けと同時に企業向けの市場も立ち上げる予定であったが、日本語対応のSDKの遅れなどもあり、企業向けは当初の予想通りには立ち上がらなかったという経緯もある。米国ではPDA市場の70%を占めるまでになったPalmシリーズだが、3Comは同社の一部門であったPalm Computing Division(もともとはUS Robotics社の一部門であったが、3ComのUS Robotics社買収により同社傘下に入っ

た)を分社化することにした。大きくなってきたPalm市場をハンドリングするには、独立性の高い企業であることが有利だったためでもある。だが、Palm Computing社創業メンバーはそれ以前に3Comを辞し、Palm OSのライセンス権を持って、Handspring社を創業。1999年10月には、第1号機のオンライン販売を開始していた。

Palmシリーズの基本アーキテクチャー(Palm Computing Platform)は、以前より他社にライセンスされており、すでにさまざまな製品が登場している。また、サードパーティーによるソフトウェアや周辺機器、アクセサリ市場も米国ではすでに立ち上がっており、これをPalm, Inc.(2000年2月より社名変更)では、「Palm Economy」と呼ぶ。米国でも日本でも、普及率の高い製品にはサードパーティーが集まり、いろいろな製品が登場する。国内でも、ゲーム機

向けにさまざまな製品やソフト、出版物が登場しているのと同じである。逆にこうしたサードパーティーが集まることで、市場が活性化し、より大きくなるというのが通常である。PDA系では、シャープのザウルスがこうした状況を作り出していた。

昨年までのPalmの動きを話題性で見た場合、ソニーがPalmと提携し、Palm OSを採用したハンドヘルドデバイスを発売するというニュースが、まず挙げられるだろう。1999年の11月に行われたCOMDEXで発表されたものである。Palm OSのライセンスは、MotorolaやNokiaなどが受けているが、ハンドヘルドデバイスの開発を行うと表明したメーカーの中ではソニーが最大であった。

Palm以外に目を向ければ、1998年に登場したWindows CEのPalm-size Computer版(現在では、PocketPCと呼ばれる)だ。



パーム コンピューティング社のPalm c



パーム コンピューティング社のPalm x

当初の予想では、大きくシェアを広げるはずであったが、実際にはPhilipsなどの撤退もあり、シェア的にはそれほど大きな地位を占めることができなかった。原因はいろいろといわれているが、ひとつには、ハードウェアとソフトウェアのバランスがバッテリー駆動のPDAとうまく釣り合っていなかったということが挙げられる。NTベースの高度なカーネルを持つ「Windows CE」だが、ハードウェアに対する要求仕様が高く、Palmシリーズに比べると、高速のプロセッサならびに大容量のメモリーを必要とした。また、1999年にはカラー化にも対応したのだが、サイズ的な問題、バッテリー駆動時間といった問題があった。しかも、高性能なハードウェアによりコスト的に価格をあまり低く設定できないこともあり、Palmシリーズの普及を妨げるほどにはシェアの拡大はされていない。

## 2000年上半期

Palmの国内市場が  
立ち上がる

米国での分社を受け、日本でも3月にパームコンピューティング社が営業を開始した。最初の製品は、カラー化された「Palm c」と8Mメモリー化された「Palm x」どちらも日本語化された「Palm OS 3.5」を採用している。ある意味、本家であるパームコンピューティング社から国内向けに製品が販売されたことで、国内でもPalm市場が立ち上がることになった。BNC総研による4月のPDA販売調査によると、Palmシリーズが急速に売上げを伸ばしているという。

また、アスクも米国TRG社の「TRGpro」の国内での販売を開始した。これは、Palm xをベースにCFカードスロットを装備するマシン。ただし、この時点では英語版のままの販売であった。

日本IBMは、Palm x相当の「WorkPad c3」を販売。ただし、カラー化されたPalm c相当のWorkPadは見送られた。IBMは、

企業向けに力を入れるという話もあり、パームコンピューティング社製のPalmシリーズとWorkPadの棲み分けは、個人向けと企業向けといった発言もパームコンピューティング社側からは見られたが、現時点では、WorkPadシリーズの店頭販売も継続されている。IBMは、国内市場では米国ほど店頭と企業向けが分化していないことから、今後も店頭販売を続けるという。

6月に入って、今年初めより設立を準備してきた米Handspring社の日本法人ハンドスプリング社は、日本語化されたVisorの販売を開始した。これにより、パソコンショップなどではパームコンピューティング社、日本IBM、ハンドスプリング社の製品が並び、Palmシリーズにも「選択」の時代が始まった。すでに「Palmを買うかどうか」ではなく、「どのPalmを買うのか?」といった状況になったわけである。

国内市場においては、Palm以外にカシオ、HP、コンパックのWindows CE機、シャープの「ザウルス」がメジャーなところだが、Windows CEは「PocketPC」となる「Windows CE 3.0」マシンの国内市場への投入待ち(すでに米国では、今年4月に発表済み)で、ちょっと動きが止まっている状態。これに対して、シャープは新機種の投入はないものの、既存のザウルスシリーズの強化に乗り出している。MP3再生や会議録音機能などをオプションでそろえ、サードパーティーからではあるが、「Linux」の移植も行われている。コマーシャルなども少々派手に行われているようで、シャープはPalm対策を本気で始めたような感がある。電子手帳時代から、日本の習慣などを取り入れたPDAを手がけるシャープだが、ザウルスシリーズはどちらかというところろズドな製品で、サードパーティーによるソフトウェアなどが育ちにくい環境にあった。これには、PCとの接続を前提としていないため、ソフトウェア配布メディアがメモリーカードになってしまうといった問題もあった。また、専用機というイメージが強く、

コンピューター的なアーキテクチャー、コンパチビリティといったコンセプトが弱く、長期にわたって利用する企業向けのプラットフォームとしては、あまり好まれなかった部分もある。これは裏を返せば、パソコンがなくてもすべての機能が使え、必要なものはすべてメーカーが用意するといった「家電製品」の一般的な形態であり、電卓の特殊機能としてのPIM機能から始まり、電子手帳と呼ばれつつ成長したことを考えると無理もないであろう。ある意味、ザウルスとPalmの関係は、家電製品とパソコンの関係に近い。今でこそ家電製品のような顔をしているパソコンだが、数年前までは特殊な製品であり、家電店、ましてやスーパーなどでは扱えない商品だったのである。また、電子的な情報の管理を国内に普及させた功績は大きなものがあるし、これからもパソコンを使うことなく、それだけでほとんどをこなすというザウルスの存在価値が失われることはないと思われる。

## 2000年下半期

ソニー参入で  
国産化の時代へ?

ソニーは7月13日に、Palm Computing Platformを採用した「PEG-S500c/300」を発表した。これは、初めての「国産」Palm Computing Platformでもある。Palm x並みのコンパクトな筐体でカラー液晶、長時



Palm Computing Platformを採用したソニーのPEG-S500c



表3 各デバイスの特徴

デバイス	採用マシン	特 徴
CF(コンパクトフラッシュ)	TRGpro( TRG社)	PC用やデジカメ用としてすでに多数が使われている。標準規格に準拠
スプリングボード	Visor( ハンドスプリング社)	モジュール挿入でソフトの起動などが可能。さまざまなハードウェアを入れることができる
メモリースティック	PEG-S500c/300(ソニー)	すでにデジタルカメラなどに採用されている。この3つのなかで一番コンパクト

間の動作が可能なりチウムイオン電池、メモリースティックとジョグダイヤルといったハードウェアを持ち、カスタマイズした内蔵アプリケーション、連文節変換の可能な「ATOK Pocket」の採用など、ソフト面でも強化が図られている。携帯電話/PHSアダプター付きではあるものの、他のPCPよりも价格的に高価。もっとも、同社は昔から他社製品と比べると、初期は高性能ではあるが、高価な製品を作ることが多く、今回もそれに従ったのかもしれない。PCPを採用したどの会社よりも大きく知名度の高い同社は、このPEG-S500c/300を国内だけでなく、海外でも展開する予定。おそらく次は、米国での発表ということになるだろう。

ソニーの登場により、国内ですでに導入期を過ぎたPCPIは、1つのグループと見なされることになると思われる。また、これにともないPalmもより一般化していくことになるだろう。同社はハードウェアの差別化という部分もあり、サードパーティー支援、デベロッパー支援にも力をいれるという。これにより、国内でもPalm Computing Platformを対象とするデベロッパーがさらに増えることが期待される。

こうした動きに対してWindows CE 3.0の日本語版は、おそらく下期には登場するのではないと思われる。現在、Palm-size PCを発売しているカシオ計算機、コンパクト、HPといったメーカーから対応製品が登場することになるだろう。このCE 3.0には「Pocket Word」や「Excel」といったハンドヘルドCE機に搭載されていたアプリケーションが含まれ、また、単体でメールの送受信も可能になる(従来はデスクトップの「Outlook Express」とのシンクロのみ提供)。英語版では、電子書籍リーダーである「Microsoft Reader」が搭載されているが、

これがどうなるかはひとつのポイントだろう。CE機のほうが解像度が高く、こうした電子書籍には向いているからだ(この点、日本語で文章を表示する場合にPalmは解像度的に不利なところがある)。今年前半は、Palmの登場でかなり苦しい戦いを強いられているCE機陣営だが、下期にどう動くか? 国内導入されたPalmとの本格的な戦いは、ここから始まると思われる。

## 2001年 Palmはどちらに向かう?

Palm, Inc.は、すべての機種にワイヤレス通信機能を持たせる予定だという。日本でも、来年にはPalmを使ったワイヤレスサービスの開始を予定。このワイヤレス機能には、Palm自身が直接通信を行うPalmのようなものと、Bluetoothを使って外部の携帯電話と接続することで通信を行うものの2種になるといわれている。Palmは携帯電話ではなく、双方向ページャーなどに使われているインフラを利用しているが、国内ではおそらく携帯電話もしくはPHSのインフラを使ったものとなるだろう。だとすると、NTTドコモのiモードやツーカー、J-Phone系のEZ-Webなどとも競合することになる。この面での来年のライバルは、携帯電話そのものになるのではないか。また、PCPIに付けられた拡張メディアは、「Visor」の「バイザー」のスプリングボード、TRGproのCFスロット、そして、このPEG-S500c/300のメモリースティックと合計で3つになった。それぞれに互換性がなく、また、性格的にも違うものであり、これについては、標準が何であるかはまだまだ決まらない状態である。しかし、少なくともスプリングボード、メモリースティックは、それぞれの会社が開発した

技術であり、変更不可能なものでもある。このため、当面は複数の拡張メディアが並立するという状況は続くだろう。

Palm, Inc.は、SDメモリーカードを採用することのだが、実際の製品が出てみないどのような形で扱われるかは不明である。現状、Palm, Inc.自身がこうしたデバイスを採用していないため、メモリーカードの扱いがそれぞれのマシンで違っている。Palm OSには、メモリーカードを管理する機能はあるのだが、それをどう使うべきかについてはきちんとした指針がないのである。このため、TRGproやPEG-S500c/300では外部記憶のように扱い、必要なプログラムをメインメモリーにロードして動かすようにしている。これに対して、Visorではスプリングボードに装着されたメモリーをメモリーカードとして扱っており、直接実行が可能になっている。こうした違いは、デベロッパーに対して困った問題ともなり得る。このあたりは、Palm自身もメモリーカードスロットを採用したマシンでAPIをきちんと定義することになると思われるが、すでに先行しているVisorなどがどう動くかがポイントだろう。

Palm OS自体については国際化対応、ハードウェアからの独立性といった課題があり、さまざまな開発が進められているという。また、ARMを採用するNokiaなどは、「EPOC」(PSIONなどに採用されているOS)の上にPalmのユーザーインターフェースを載せるといった話も伝わってきている。ひとつには、現状の68000ベースのDragon Ballでは限界が見えてきていることもあり、大きなアーキテクチャー変更といったことも行われる可能性がある。その意味ではPalm自体、来年は大きく変わる時期なのかもしれない。

# 最新Palmマシを一挙公開

藤田 実 写真 / Kouichi Nakazawa ・ Yoshinori Tukidate

## Part. 1



### 速報! これがソニーの Palm デバイスだ!

1999年、PDA界にセンセーションを巻き起こしたソニーとパーム コンピューティング社の提携だが、ついにその全貌が明らかになった。2000年9月9日、メモリースティックスロット、ジョグダイヤルを備え、ATOK PocketやPictureGear Pocketなどの新しいアプリケーションもセットになった、コンパクトなソニー製Palmデバイスが登場する。

写真は試作機です。製品版とは仕様異なる場合があります。

#### 外観・ハードウェア

ひと目見て、直線的で非常にスリムな印象を受ける。実際に比較しても、もっともスリムなタイプの「Palm Vx」と比べ、ジョグダイヤルやメモリースティックの装備で厚さこそ5.2mm大きいものの、横では7.1mmも小さくなっている。さらに同じサイズでカラー液晶を搭載していることを考えると、「Palm c」と比較した場合、そのコンパクトさには本当に驚かされる。液晶のサイズもPalm系より若干コンパクトなものとなっている。

カラーモデルには、屋外でも表示力に優れたバックライト付き半透過型TFTカラー液晶が使われている。モノクロモデルにはほかのPalmデバイスと共通仕様の16階調モノクロ液晶が使用されているが、バックラ

イトの仕様で背景が光るようになっており、より自然な表現となった。

本体左側には、ソニーお家芸のジョグダイヤルが装備されており、本体を左手で持ったときに親指で操作できるようにレイアウトされているが、右手で持ったときには人さし指で操作することもできる。さらに特徴的なのが、本体上部にあるメモリースティックスロットだ。標準で8MBメモリースティックが同梱されており、すぐに利用することができる。もちろん別売のより大容量のメモリースティックを購入すれば、そのまま利用することができる。ジョグダイヤルもメモリースティックも、アプリケーション開発環境をオープンにするという話なので、対応オンラインアプリケーションがどんどん登場することに期待したい。

メモリースティックスロットの両脇には、

電源ボタンと赤外線ポートがある。この部分はPalmと同じようなレイアウトだ。ホットシンク HotSyncポートはほかのPalmデバイスとは違う形状であり、すでに発売されている各種Palmデバイス用周辺機器は利用できない。標準仕様もシリアルではなく、「Visor」<sup>バイザー</sup>同様USBに対応している。本体中央の上下スクロールボタンはコンパクトに収められており、Palm系で上下ボタンがカバーで押されてしまうという問題があった点も考慮されている。本体側面を裏から囲い込むようなデザインは、落下事故にも強そうに見えるが、これは筆者の気のせいかも(笑)。つついマルチメディア対応に期待してしまうソニー製Palmデバイスだが、残念ながらスピーカーは搭載されておらず、ピープ用ブザーが採用されている。

#### ソフトウェア・OS・アプリケーション

搭載されているOSは、「Palm OS 3.5日本語版」だが、メモリースティック対応、ジョグダイヤル対応となり、ソニー版としての機能が追加されている。内蔵のアプリケーション、同梱のアプリケーションのほとんどがジョグダイヤル対応版となっている。実際に触ってみると、ジョグダイヤルの操



本体上部。赤外線ポート、メモリースティックスロット、電源ボタンが見える



本体左側面のジョグダイヤル。上下回転とクリックが可能。左手でも右手でも操作できる



同梱の8MBメモリースティックを装着しているところ。別売の大容量メモリースティックも使用できる

作でメニューが画面左側にポップアップし、ダイヤルを操作するとスクロール、ダイヤルをクリックすると反応する。ポップアップさせてしばらくそのままにしておくと自動的に消えるという、なかなか考えられた仕様になっている。ホーム画面では、ミニアイコン付きのランチャーとして利用価値が高い。

今回、ソニー製Palmには、ジャストシステムの「ATOK Pocket」が内蔵されているが、これもジョグダイヤル対応バージョンとなっている。「ATOK」の名を冠するだけあり、驚くべき正確さで連文節一括変換が可能で、漢字変換へのストレスはほとんどない。もちろん、設定をオフにすることでPalm OS日本語版本来の日本語変換機能に切り替えることも可能だ。

同梱のWebブラウザ「Palmscape」、メールソフト「MultiMail」、画像表示ソフト「Picture Gear Pocket」もジョグダイヤル対応版だ。PC用アプリケーションとして、Picture Gear Pocket用に画像データを変換する機能が付いた「Picture Gear 4.2 Lite」も付属する。VAIOシリーズにプリインストールされ、人気の画像表示編集ユーティリティソフト「Picture Gear」のライト版だ。確認したところ、Picture Gear Pocketのデータは、Palmデバイス専用フォーマットのデータとなるらしい。「Memory Stick Gate」は、メモリスティックとソニー製Palmデバイス内部メモリーの間でファイルの転送を行うための専用ユーティリティだ。こちらもジョグダイヤルに対応している。残念ながら、現時点ではメモリスティックを本体メモリーイメージで利用することはできないが、TRG社がTRGpro用に準備している「AutoCF」のように、簡単に使えるユーティリティも準備したいという話だ。

### そのほかの付属品など

携帯アダプターとして、携帯電話用、PHS

用、DDI-P用の3種の接続ケーブルが標準で付属する。モバイルアクセスしたいユーザーには非常に便利だが、残念ながらcdmaOneには対応していない。携帯アダプターも本体同様たいへんコンパクト

なサイズになっている。付属のHotSync用クレードルもコンパクトだ。USB接続仕様となっており、PCとシリアルポート接続をしたい場合は、別売のシリアルクレードルを購入する必要がある。持ち歩きが可能なHotSync用コネクタと充電用コネクタがセットになったトラベルキットも別売となる。

### 選択のポイント

ほかのPalmデバイスと比較して実売価格がひと回り高いようだが、同梱のアプリケーション群、携帯電話アダプターとのセットであることを考えると、割安感が出てくる。手持ちの携帯電話と接続し、メールやWebアクセスをしたい場合は、良い選択肢といえるだろう。サイズが数あるPalmデバイスの中で、もっともコンパクトな点も魅力的だ。特にカラー液晶を搭載し、このサ



ほかと比べると、スリムさが際立つ(下段中央)

USB対応HotSyncクレードルが同梱されている

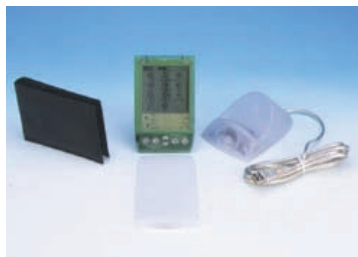
イズに収まっているのは驚異的といえる。メモリスティック対応の機器を所有しているユーザーにも、Palmデバイス側の将来的な対応も必要ではあるが、データ共用への夢が広がる。市販が待たれるATOK Pocketをいち早く利用できる点も、今までのPalmデバイスの日本語変換にいくらかの不満があった方にはお勧め。デジカメ画像との連携が強いのも魅力。持ち歩きたい画像データがたくさんある方は、大容量メモリスティックも準備するのがいいだろう。何といてもソニー製品が好きという方には速攻で購入をお勧めしたい。そういえば、ソニー製品の初期ロットは……という話もあるが、ソニーファンはそんなことを気にしてはいけない(笑)。そうそう、ロボット犬AIBOをお飼いの方にも、PalmデバイスでAIBOをコントロールできるパーム用アプリケーション「iCmd LE」とのセットでお勧め。

### 仕様

製品名	カラー：PEG-S500C / 白黒：PEG-S300
メーカー	ソニー株式会社
メモリー容量	8MB( RAM )/4MB( ROM )
ディスプレイ	160×160ドット(半透過型バックライト搭載TFTカラー液晶/バックライト搭載16階調モノクロ液晶)
CPU	CPU Motorola DragonBall EZ( 20MHz )
バッテリー/使用可能時間	リチウムイオン充電電池 / 通常使用で約15日
インターフェース	HotSyncポート(USB)、赤外線、メモリスティックスロット
OS	Palm OS 3.5日本語版
付属品	Palm Desktop日本語版(Windows版)、HotSyncクレードル(USB)、ACアダプター、カバー、スタイラスペン、携帯電話接続アダプター、携帯電話接続ケーブル(3種)、8MBメモリスティック
標準PIM以外の付属アプリケーション	PictureGear Pocket、Picture Gear 4.2 Lite、Memory Stick Gate、ATOK Pocket、PalmScape
外形寸法	(縦)114.7×(横)70.9×(奥行き)15.2mm
重量	120g
価格	オープンプライス(PEG-S500C / 実売 6万円前後、PEG-S300 / 5万5000円前後)
発売時期	2000年9月9日

URL <http://www.sony.co.jp/peg/>

## 拡張性に期待 戦略的な価格でVisor日本語版登場!



初代Palmデバイスを開発したメンバーが、当時Palmシリーズを製造販売していた3Com社をスピンアウトし、1998年に設立されたHandspring社。そして、より一層誰にでも使いやすいPalmデバイスをと、満を持して発売した製品がVisorシリーズである。現在のPalmデバイス中で最大のメモリ8MBを搭載し、拡張性、将来性にあふれるスペックにもかかわらず、2万9800円という戦略的な価格も魅力だ。

### 外観・ハードウェア

バイザー  
Visorはひと目見て、ほかのPalmデバイスとは違う印象を受ける。本体色に半透明をベースにしたアイス、ブルー、グリーン、オレンジ、グラファイトという5色が準備されており、たいへんファッショナブルだ。ユーザーは好みの色を選択して購入することができる。サイズは、WorkPad(30J)/Palm系とほぼ同じようなサイズだが、

縦に2mm長く横幅が6mm短くなっており、持ちやすさが向上している。

搭載されている液晶はモノクロ液晶である。視認性はWorkPad(30J)/Palm系と同等で、特に問題はない。内蔵メモリ容量は8MBである。メモリモジュールなどで簡単に増強できることも加え、特に困ることはないだろう。

HotSyncクレードルと接続される本体下部のポート形状は、今までのPalmシリー

ズ、WorkPadシリーズとは違い、Visorオリジナルである。このポートはUSB対応となっておりPalmシリーズ用の周辺機器は利用できないが、折り畳みキーボードなど、魅力的な製品の多くにVisor英語版対応バージョンが登場しているため、日本語版対応製品のリリースにも期待できる。USB直結となるHotSync動作も快適である。USBハブ経由で接続すれば、シリアルポートを占有せずにHotSyncが可能であり、PC側の環境も周辺機器接続の自由度が高くなる。

電源は、単4アルカリ電池2本だ。Palmデバイスの多くが乾電池から充電式に移行している中で、いぜん乾電池仕様を好むユーザーも多く、いざ電池切れのときに充電できずに困るといったことのない安心感には絶大なものがある。一般的な利用では電池交換後、1カ月以上もつのもPalmデバイスのうれしい伝統である。

赤外線ポートは、本体左側面に搭載されている。ただし、搭載されているPalm OS



急な電池切れにも安心の乾電池仕様

本体色は半透明をベースにした5色と、ファッショナブルなVisor(左上から、グラファイト、アイス、左下からブルー、グリーン、オレンジ)

### 期待の高まるスプリングボード

Visorのもっとも大きな特徴は、スプリングボードスロットと呼ばれるインターフェイスが搭載されている点にある。このスロットは、より一般的なCFカードスロットなどと違い、Visorオリジナル仕様だが、あえてオリジナルの仕様を選択したところにもHandspring社の使いやすさへのこだわりがある。真のプラグアンドプレーが実現されているのだ。このスロットに対応したスプリングボードと呼ばれる拡張機器は、ドライバーソフトをスプリングボード側で持っており、Visor本体が電源オン状態かどうかにかかわらず、Visorに装着したと同時にドライバーが本体に読み込まれ実行される。逆に抜き取ったときも、本体の動作状況にかかわらず、一切の障害なしにスプリングボードの機能を解除することができる。さらにスプリングボードには、そのボードに対応したアプリケーションを組み込んでおくこともでき、スロットに差し込むと

同時に対応アプリケーションをスタートさせるといった使い方もできる。大きく開いたスロットはスプリングボードに厚みなどの制限も与えず、さまざまな周辺機器が開発できるだろう。加えて、スプリングボードの仕様はHandspring社のWebサイトで公開されており、誰でも自由に周辺機器を開発、販売することが可能だ。すでにMDS(<http://www.mds2000.co.jp/>)から、MP3プレイヤーやボイスレコーダーなど、Visor用拡張スプリングボード製品6種類の発売がアナウンスされている。スプリングボードはこれからの発展がたいへん楽しみなプラットフォームである。

Visorの最大の特徴であるスプリングボード用スロット



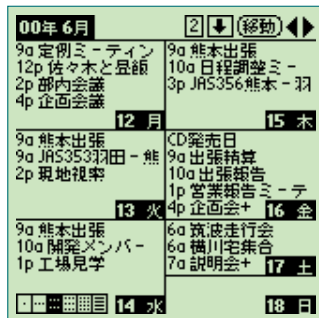
が3.1ベースであるため、Visorや他のPalmデバイスとのやり取りは問題ないが、PCとの赤外線HotSyncは標準のままではできない。PCとの赤外線HotSyncを行いたい場合は、「IrLink1.5」(<http://clhuang.iscomplete.com/IrLink/>)に含まれる「IrLink.prc」、「LicenseMgr.prc」および、「Enhanced Infrared Update」(<http://www.palm.com/custsupp/downloads/irenhanc.html>)に含まれている「SerIrCommLib.prc」が必要だ。そのほかのファイルをインストールすると、Visorとの相性の問題でハードリセットになるものもあるので、実施される方は慎重に行ってほしい。

付属の液晶カバーは、本体上下にガッチリはめ込むタイプになっている。しっかりと液晶を保護してくれるので、ほかの機種のようにカバンの中で転がって間に何か挟まってしまい、液晶を破損するという心配もなく安心感がある反面、取り外すのに少し手間取る。

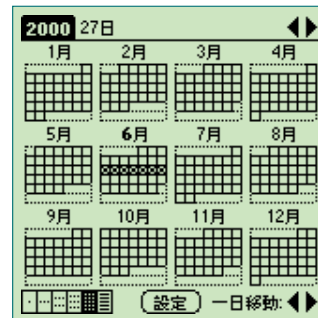
ただし、このカバーがユニークなのは、そのままひっくり返して本体後ろに取り付けられるという点だ。このカバーを一般的なケースや手帳カバーに取り付け、オリジナルカバーを作成するという手もある。パッケージにはソフトケースも付属しているので、使い分けのいいだろう。

本体裏面にある小さな穴がリセットボタンだ。スタイラスペンに内蔵されているピン部分を使って、リセット操作が可能である。ちなみに、パイロット社のベントピアも含めた、今までのPalmデバイス用スタイラスに付属のリセットピンは長さが足りず、Visorのリセットはできない。ところでVisor付属のスタイラスペンには、もうひとつドライバが組み込まれている。これはどういう意味だろう(笑)。

さらに、数あるPalmデバイスの中でVisorのみがもつユニークなインターフェースが、内蔵マイクである。本体正面左下の小さな穴がマイクになっており、スプリングボードスロット端子に直結されている。ただし、



週間表示で予定の内容がわかる「予定表+」。Visor以外のユーザーは「DateBK」というシェアウェアを利用することでこの機能が利用できるが、支払い手続きの手間がかかる



年間表示では予定の有無が確認できる。ほかに、すべての予定を一括表示する画面、2週間一括表示画面などがある

現在、この内蔵マイクを活かしたアプリケーションはひとつも存在しない。Visorらしさにあふれたアプリケーション、スプリングモジュールの登場に期待したい。

### ソフトウェア・OS・アプリケーション

Visorに搭載されているのは、「Palm OS 3.1 H2」という、Palm OS 3.1ベースのハンドスプリング社バージョンのOSである。スプリングボード、USBポート対応のみならず、内蔵PIMソフトの機能アップ、OS自体の動作速度のチューンナップなどが行われている。Palm xなどの新CPU、新OS搭載機種以上に快適な体感速度を誇るのには、ここに理由がある。

「予定表+」は、人気のシェアウェアスケジュールアプリケーション「DateBk3」をベ

ースに機能を若干絞ったVisorオリジナルPIMアプリケーションだ。2週間一括表示画面などを搭載しており、シェアウェア登録なしにこのアプリケーションが使える意義は大きい。

さらに世界地図をビジュアルに表示する「CityTime」もVisorオリジナルアプリケーションである。もちろん、Palmシリーズ日本語版に装備されている辞書アプリケーションなども搭載されている。

### そのほかの付属品

Visorには、「Palm Desktop日本語版」(Windows版)に加え、「Palm Desktop日本語版」(Macintosh版)が付属している。WindowsユーザーもMacintoshユーザーも、簡単にPCとのPIMデータ連携、Palm用

#### 仕様

製品名	Visor 日本語版
メーカー	ハンドスプリング社
メモリー容量	8MB( RAM )/4MB( マスクROM )
ディスプレイ	160 x 160ドットLCDモノクロ16階調
CPU	Motorola DragonBall EZ( 16MHz )
バッテリー	アルカリ単4乾電池 x 2本
インターフェース	USBポート、赤外線、スプリングボードスロット、内蔵マイク
OS	Palm OS 3.1 H2日本語版
付属品	Palm Desktop日本語版( Windows版 ) Palm Desktop日本語版( Macintosh版 ) HotSyncクレードル、カバー、ソフトケース
標準PIM以外の付属アプリケーション	予定表+( 内蔵 )、CityTime( 内蔵 )
外形寸法	( 縦 )122 x ( 横 )76 x ( 奥行き )18mm
重量	153g
価格	2万9800円
発売時期	2000年6月

URL <http://www.handspring.com/>

アプリケーションのインストールが可能である。ただし、付属のHotSyncクレードルがUSBポート対応であるため、シリアルポートしかもたないWindows、Macintoshユーザーは、別売のシリアルクレードルを購入する必要がある。

### 選択のポイント

まず第一に、スプリングボードによる拡張性に魅力を感じる方には絶対にお勧めである。すでにいろいろなスプリングボードの

発売がアナウンスされているが、これらを使った快適なPDA環境を得たい方にはベストなソリューションとなるだろう。

また、カラフルな本体もVisorならではのポイントとなる。ビジネスっぽくないPDAが好みの方にはお勧めだ。さらに、戦略的な低価格も選択のポイントとなる。オプションを加えても、ほかのPalmデバイス並みか、それ以下の予算で購入できる。

バックアップモジュールで簡単にバックアップできるという点から、日ごろPCとのHotSyncをあまりしないユーザーにも有力

な選択候補といえる。そして、何といてもPalmデバイスを開発したメンバーが新しいチャレンジをしているハンドスプリング社が好きという方は、Visorを買わずにはいられないだろう。

現在のVisorの弱点といえば、コンパクトに使える通信モジュールがないという点だ。Xircom社のモデムモジュールには携帯電話接続ケーブルのコンパクト化を期待したいし、SnapConnectモジュール試作機を公表しているアイ・オー・データ機器には早期リリースを期待したい。

## Part.3 本家パーム コンピューティング社のマシン1



### 初のカラー液晶搭載Palmデバイス Palm IIIc日本語版!



本家のパーム コンピューティング社が、Palmデバイスで初めてカラー液晶を搭載したモデルを発表した。Palm IIIcである。「シンプルさが特長のPalmデバイスにカラーは必要か」という議論まで生んだカラー化だが、実際にPalm IIIcが登場してからは特長あるカラー版アプリケーションも続々と登場しており、好調なすべりだした。特にWebブラウザ系、ゲーム系のアプリケーションの充実度には目を見張るものがある。

### 外観・ハードウェア

基本的なボディーデザインは従来からのPalmシリーズと共通だが、Palmブランドとしては初の黒いボディーを持つ。



黒いボディーとGraffitiエリアが、画面をより明るく見せる

Graffitiエリアも黒を基調としており、電源オン時に白地中心でデザインされているTFTカラー液晶画面が一層引き立って見える。本体サイズでは縦方向がPalm IIIcに比べ、8mmほど大きくなっている。そのほかのサイズは従来モデルと同等であり、ワイシャツのポケットにすっぽり収まるというコンパクトさは維持されているものの、やはりひと回り大きくなった印象は拭えない。重量も30gほど増えており、手にするとほかのPalmデバイスと比べ、若干重量感がある。Palm IIIcの特徴は、何といても256色表示TFTカラー液晶を搭載している点であり、電源を入れると非常に明るい印象だ。明るめのバックライトは屋外でも十分な視認性を発揮するが、直射日光下ではさすがに画面を読み取ることはできない。ただし、

現在発売されているほかのPalmデバイスのバックライト方式が、文字を光らせるという特殊な方式であるのに比べ、薄暗い部屋ではPalm IIIcの方が断然見やすい。

内蔵メモリー容量は8MBである。これだけの容量があれば、ほとんどメモリー不足で困ることはないと思われるが、カラー画像やメールを大量に取り込むと、少なく感じることもあるかもしれない。特にカラー画像については初めて実現したハードウェアでもあり、どのような使い方ができるのか未知数でもあるため、今後、このメモリー容量がどう捉えられるようになるのに興味深い点でもある。

クレードルと接続される本体下部のシリアルポート形状は、Palmシリーズ間で互換性があり、すでに登場している周辺機



標準でもっともカラーが使われているのは、アプリケーションアイコン一覧画面だ



電源ボタンを長押しすると、コントラスト調整パネルが現れる



情報画面。基本点に白地に黒と青を基調とした画面構成になっている

器の多くが利用できる。ただし、充電のための端子が新たに追加されるなど若干の仕様変更もあり、そのままでは利用できない周辺機器もある。携帯電話接続アダプターの「SnapConnect」などがそれに当たるが、Palm c対応が待たれるところだ。

電源は内蔵のリチウム充電電池であり、PCとのシンク用HotSyncクレードルに載せることで充電が可能だ。付属の充電用ACアダプターをHotSyncクレードルのPC側コネクタに接続して利用する。この方式だと、机の上にはクレードル用のケーブル1本だけが出てくるようになるため、たいへんすっきりしている。なお、開梱後はまず数時間の充電を行う必要があるが、一度満充電にすると、あとは毎日数分クレードルに載せておくだけで電池残量を気にする心配はほとんどない。充電中は本体上部のLEDが点灯し、充電状態であることを確認できる。いったん満充電になると、使い方にもよるが、一般的に数日以上は充電なしで利用可能である。

本体上部にあるのが赤外線ポートだ。Palmデバイス同士での名刺交換やデータ交換はもちろん、Palm OS 3.5は標準で赤外線HotSyncもサポートしており、多くの赤外線ポート付きのノートPCなどとのシンク口も可能である。

付属の液晶カバーは、Palm系で統一されている縦開きスタイルである。右利き、左利きのどちらでも快適に利用でき、本体を持っている手の人差し指で簡単に閉じら

れるのでたいへん使いやすい。少々長さが足りなくなるが、Palmシリーズ用に販売されているカラフルなカバーも取り付けることが可能だ。ボタンはきちんと隠れるので実用上の問題はない。

本体裏面にある小さな穴がリセットボタンだ。スタイラスペンに内蔵されているピン部分を使って、リセットが可能である。もっとも、不安定なソフトをインストールしない限り、ハングアップすることは滅多にない。

### ソフトウェア・OS・アプリケーション

Palm cに搭載されているOSのバージョンはPalm OS 3.5日本語版である。このバージョンの最大の特徴はカラー表示サポートであり、Palm OS 3.5のスペックをもっとも活かしたハードウェアがPalm cといえるだろう。その他のPalm OS 3.5の特徴とし

て、ドロップダウンメニュー、ショートカットコマンドアイコン表示、予定表でのプライベート項目マスク機能、予定一覧表示機能、辞書引き機能などがある。

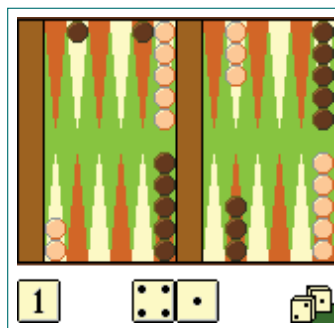
しかしながら、カラー化といっても標準搭載アプリでカラーを意識した部分はほとんどなく、白地に黒か青の表示が基本となっており、たいへんすっきりしている。カラー化したとはいえ、見やすく使いやすい画面とはどういうものかということがしっかりと考えられている。さらに、Palmユーザーの多くは白黒画面の機種を使っているため、ソフト側に不要なデザイン的負担を強い点には、たいへん好感が持てる。標準状態でもっともカラーらしい画面は、カラーアイコンが並ぶホーム(ソフト一覧)画面だろう。

同梱されているCD-ROMに収録されているカラー版ソフトがClubPhoto社の

#### 仕様

製品名	Palm c
メーカー	パーム コンピューティング社
メモリー容量	8MB( RAM )/4MB( ROM )
ディスプレイ	160×160ドット TFT256色カラーディスプレイ
CPU	Motorola DragonBall EZ( 20MHz )
バッテリー	充電式リチウムイオン電池内蔵型
インターフェース	シリアルポート、赤外線
OS	Palm OS 3.5日本語版
付属品	Palm Desktop日本語版( Windows版 )、Palm Connect日本語版( Macintosh版 )、HotSyncクレードル( 充電器兼用 )、Mac用シリアルアダプター、ACアダプター、カバー、スタイラスペン
標準PIM以外の付属アプリケーション	AlbumToGo、BackGammonなど
外形寸法	( 縦 )128×( 横 )80×( 奥行き )17mm
重量	193g
価格	4万9800円
発売時期	2000年4月

URL <http://www.palm-japan.com/>



添付CD-ROMにはBackGammonゲームも付属する。インストールが必要

同梱のAlbumToGoDesktopでデジカメ画像をPalm cデータに変換

(Windows版)に加え、Palm Connect日本語版(Macintosh版)とMac用シリアルケーブルが付属している。どちらのユーザーも大きな手間なくPCとのPIMデータ連携、Palmデバイス用アプリケーションのインストールが可能である。ただし、USBポートしかもたないMacintoshユーザーは、別途USB変換アダプタ付きのPalm Connectを購入する必要がある。

### 選択のポイント

まず第一の選択のポイントとしては、やはりPalm用カラーアプリケーションが使いたいかどうかにある。特に、いろいろなゲームをしたいという方には、強くお勧めしたい。PalmPixを使ったデジカメ機能も利用したいという方にも最適だろう。すでにWorkPadなどPalmタイプの周辺機器を所有しており、それらを共有したいという方にもよい選択になる。また、明るいバックライトはセミナー会場など、薄暗い場所での利用に最適といえる。

「AlbumToGo」と、Whitehorse社の「BackGammon」だ。AlbumToGoは、まずWindowsPCでカラー画像(JPEG)ファイルをPalm cに取り込めるデータに変換し、HotSyncによってPalm cに取り込んで表示させるソフトである。画像をPC用ソフト「AlbumToGoDesktop.exe」にドラッグ&ドロップすると、編集画面が立ち上がる。次にSend to HotSyncボタンからインストールするPalmデバイスを選択するだけで、インストールの準備が完了する。実際に転送し

たデータを表示させると、画面の精細度と色数の制限で決してきれいな画像とは言いきれないが、十分Palm cを持ち歩きの画像データビューワーとして活用することが可能になる。そのほかのカラー液晶の表現力を活かしたソフトの登場にも期待したい。

### そのほかの付属品

Palm cには、Palm Desktop日本語版

## Part.3 本家パーム コンピューティング社のマシン②



### 待ちかねたパーム社純正 Palm x日本語版登場!



Palm xは、もっともスリムなタイプのパーム コンピューティング社純正のPalmデバイスである。すでにPalm (英語版)をベースにしたWorkPad c3(日本語版)があったにもかかわらず、Palm のメタリックシルバーのスマートなボディーカラーが好評を博し、JOSで日本語化して使っているユーザーも多かった。そんなPalm ファンにとっても、今回のPalm xはまさしく待望の純正日本語版の登場といえるだろう。

### 外観・ハードウェア

昨年から発売されていたWorkPad c3(日本語版) Palm (英語版)の本体デザインと同一であり、特にPalm とは、外観からは xというロゴと日本語OSであるこ

とを表す変換ボタンのあるGraffitiエリアの違いくらいしかわからない。このモデルの最大の特徴は、そのスリムさにある。まさにワイシャツのポケットにすっぽり収まるデザインといえるだろう。メタリックシルバーのボディーカラーもカッコいい。

内蔵メモリー容量は、従来のモデルが2MBだったのに比べ、8MBへとアップした。2MBという容量は、PIM+ で使う場合には必要十分な容量といえるが、いくつかのソフトをインストールしたり、メールデータを大量に取り入れておきたい場合など





左右のスタイラスペン差込口には、付属のペンカバーを、どちらにでも取り付けることができる

には少なさを感じるがあった。しかしながら8MBとなったこの機種では、メモリー容量で困ることは減多なくなるだろう。なお、多くのユーザーがすでにショップ改造の8MBモデルを購入していたと思われるが、メーカーサポートがなくなる改造に比べ、最初から8MBメモリーがサポートされた意義は大きい。

クレードルとの接続部分の端子はPalm系のもので大きく異なり、互換性はない。Palm系のユーザーは別売のブリッジという変換アダプターが使えるものを除いて、このポートを使った周辺機器はすべて買い直しが必要となる。携帯電話接続アダプターSnapConnectなども専用デザインのものがありリリースされているが、新モデルの一部仕様変更により、そのままでは使えない製品もあるので要注意だ。

電源はPalm c同様、内蔵のリチウム充電電池であり、PCとのシンク口用のHotSyncクレードルに載せることで充電が可能だ。付属の充電用ACアダプターをHotSyncクレードルのPC側コネクタに接続して利用する。

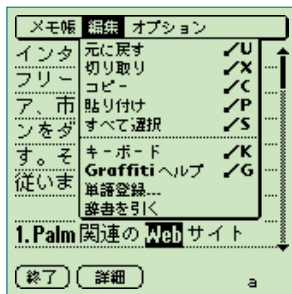
例によって開梱後は、まず数時間の充電を行う必要があるが、一度満充電にすると、そのあとは毎日数分クレードルに載せておくだけで電池残量を気にする心配はほとんどない。充電中はクレードル側のペン差し穴部分が光る。いったん満充電になると、使い方にもよるが一般的に数日以上は充電



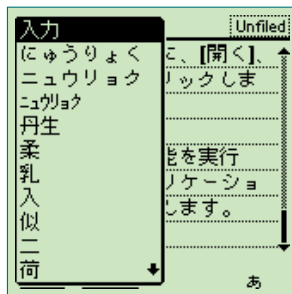
本体上部のコントラスト調整ボタンを押すと、調整パネルが現れる



Palm xには、Palm cと同じPalm OS3.5日本語版が搭載されている



メモ帳の機能から、辞書が検索できる



日本語入力



日本語キーボード

なしで利用可能である。画面上部に見えるのが、電源ボタン、コントラスト調整ボタン、そして赤外線ポートだ。Palm OS 3.5を搭載したPalm xは、標準で赤外線HotSyncもサポートしており、多くの赤外線ポート付きのノートPCなどと本体同士でのシンク口も可能である。

本体両脇のスタイラス格納スペースには購入当初、両方にスタイラスペンが挿入されているが、片方を外して同梱のカバーを取り付けることができる。このカバーも、裏表両面が共通デザインになっており、右

側、左側どちらにでも差し込むことが可能だ。右利き、左利きを問わず使いやすいデザインとなっている。この格納スペースを利用したハードカバーやファッショナブルなダブルアクションスタイラスなども発売されており、統一感のあるデザインでアクセサリー群を利用することもできる。

Palm xもやはり本体裏面にある小さな穴がりセットボタンだ。スタイラスペンに内蔵されているピン部分を使って、リセットが可能である。

仕様

製品名	Palm x
メーカー	パーム コンピューティング社
メモリー容量	8MB( RAM )/4MB( ROM )
ディスプレイ	160x160ドット LCDモノクロ16階調
CPU	Motorola DragonBall EZ( 20MHz )
バッテリー	充電式リチウムイオン電池内蔵型
インターフェース	シリアルポート、赤外線
OS	Palm OS 3.5日本語版
付属品	Palm Desktop日本語版( Windows版 )、Palm Connect日本語版( Macintosh版 )、HotSyncクレードル( 充電器兼用 )、Macintosh用シリアルアダプター、ACアダプター、革製カバー、スタイラスペン×2本
外形寸法	( 縦 )114x( 横 )78x( 奥行き )10mm
重量	113g
価格	4万1800円
発売時期	2000年4月

URL <http://www.palm-japan.com/>

## ソフトウェア・OS・アプリケーション

Palm xに搭載されているOSのバージョンはPalm cと同じPalm OS 3.5日本語版である。ただし、モノクロ液晶搭載のPalm xでは、当然カラー表示をすることはできない。しかしながら、ほとんどのアプリケーションはモノクロ表示を意識して作られており、カラーでなければというアプリケーション以外で、実用上大きく困ることはないだろう。そのほかのPalm OS 3.5の機能は同じように利用することができる。

## そのほかの付属品

Palm xには、Palm Desktop日本語版(Windows版)に加え、Palm Connect日本語版(Macintosh版)とMacintosh用シリアルケーブルが付属している。どちらのユーザーも大きな手間なくPCとのPIMデータ連携、Palm用アプリケーションのインストールが可能である。ただし、USBポートしかもたないMacintoshユーザーは、別途USB変換アダプタ付きのPalm Connectを購入する必要がある。

## 選択のポイント

とにかくスリム、軽量でスタイリッシュなPalmデバイスがほしい、モノクロアプリで十分という方には、断然Palm xをお勧めしたい。特に荷物を減らしたい夏のシーズンには最適かもしれない。アロハシャツの胸ポケットにもなんの負担もなく収まる。また、Palm xの特徴として、視認性抜群のハイコントラスト液晶を搭載している点も挙げられる。日中の屋外で使うことが多いという方にもよい選択肢といえるだろう。

## Part.4



## 即戦力の拡張性に期待の TRGpro日本語版



既存の周辺機器が多いCFスロットを搭載した、特長のあるPalmデバイスがTRGproだ。すでに一部のユーザーの間では、TRGpro英語版のCFスロットにP-in Comp@ctを接続し、快適モバイルアクセスを実現している。そんなTRGproの日本語版が、ついに発売開始となった。今回は、いち早く発売前の試作機に触ることができたTRGpro日本語版について、その魅力を紹介したい。

## 外観・ハードウェア

TRGpro日本語版の正面は、英語版と何ら変わりはない。Palm シリーズとも共通のデザインである。ボディーカラーまで

同じため、正面から見た場合はロゴマーク以外にPalm モノクロ液晶モデルとの区別はつかない。もっとも、Palm モノクロ液晶モデルには日本語OS搭載バージョンがないので、日本語(変換ボタン)版の

Graffitiエリアをもつグレーの本体の場合は、TRGpro日本語版ということになる。

本体裏面は、Palm のそれとは外観が一変する。CFスロットを挿入するため、上部が若干膨らんでいる。しかしながら、携



CFカードType 、 対応スロットを搭載



突然の電池切れにも安心の乾電池仕様



TDK、PanasonicなどのCFサイズ携帯電話アダプターも利用できる。



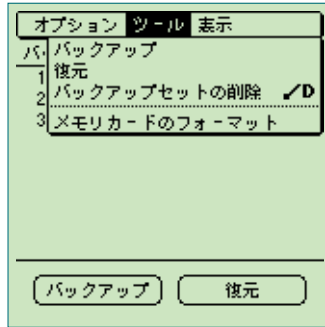
DoCoMoのPHS 611Sを挿入したところ



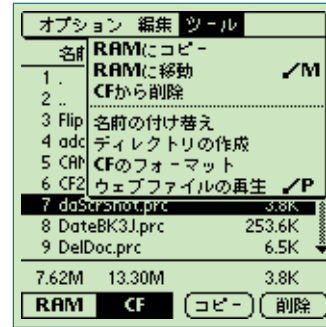
CF Type のP-in Comp@ctも利用できる



通信環境設定画面では、ほかのPalmデバイスにはないICFスロットを使った通信が選択できる



「CFBackup」を使うことによって、単体でいつでもどこでもバックアップが可能となる



「CFPro」は、Palm用アプリケーションやデータをTRGpro本体とCFメモリーカード間で相互にコピーすることが可能

帯性を損ねるというほどではない。赤外線ポートも兼ねるCFスロットカバーを開けると、CFカード挿入口が現れる。

現在、TRGproに正式に対応しているCFカードはTRG社のホームページで続々発表されているが、主にメモリーカード系はほとんどがそのまま利用できる。もっとも気になる通信系カードだが、こちらは国産メーカー製の製品対応の正式アナウンスは今のところない。ただし、通信設定を工夫することで「DoCoMo 611S」や「P-in comp @act」での接続が可能であり、成功事例がユーザー間でどんどん情報交換されている。

液晶はモノクロディスプレイである。Palm やWorkPad c3に搭載されているものより若干コントラストが甘いように見えるが、それでも視認性の高いものであり、実用上の問題はない。内蔵メモリー容量は8MBである。

クレードルと接続される本体下部のシリアルポート形状は、Palm シリーズと共通であり、すでに登場している周辺機器の多くが利用できる。CFスロットとあわせ、TRGproは利用できる周辺機器のもっとも多いPalmデバイスといえる。電源は、単4アルカリ電池2本だ。CFスロットを利用した通信や、マイクロドライブなどを利用すると、バッテリーの消耗も早くなる。いざバッテリー切れのときに即座に交換できる乾電池仕様は、TRGproにはうれしい限りだ。

赤外線ポートは、CFスロットのカバーの中にある。カバーそのものが赤外線を通す

素材で作られており、ほかのPalmデバイスとのやり取りが可能だ。Palm OS 3.5日本語版が搭載されているTRGpro日本語版では、標準でPCとのHotSyncを赤外線通信で行うことも可能である。

付属の液晶カバーは、Palm 系と同じ縦開きスタイルである。リセットボタンは、本体裏面にある小さな穴だ。

### ソフトウェア・OS・アプリケーション

TRGpro日本語版試作機に搭載されていたOSのバージョンは、Palm OS 3.5.1日本語版だった。現在市場に出ているPalm c、Palm xよりもマイナーバージョンアップされている。もちろん、カラー表示以外のPalm OS 3.5で提供された機能はすべて利用でき、さらに、TRGproに搭載されているバージョンは、CFスロットサポートがなされ

ている。また、「CFBackup」、「CFPro」という専用ユーティリティーも付属している。

TRGpro英語版には、フラッシュROMへのアプリケーションやデータの転送が可能な「FlashPro」というユーティリティーも付属していたが、日本語版では外されているようだ。未確認だが、Palm OS 3.5日本語版に含まれるほかのアプリケーションからの辞書引き機能がフラッシュROMを占有しており、FlashProの利用価値がないためだろうと思われる。搭載されているこの2つのユーティリティーが優れたものである。

CFProは、TRGproの内蔵メモリーとCFメモリーカードの間で、ファイルのやり取りをするユーティリティーだ。CFメモリーカードの画面に切り替えると、DOSのファイラーのような使い勝手にディレクトリを移動でき、内蔵メモリーとCFメモリーカード間で任意のファイルを相互にやり取りす

#### 仕様

製品名	TRGpro日本語版(予定)
メーカー	TRG
メモリー容量	8MB( RAM )/4MB( ROM )
ディスプレイ	160×160ドットLCDモノクロ16階調
CPU	Motorola DragonBall EZ 16MHz
バッテリー	アルカリ単4乾電池×2本
インターフェース	シリアルポート、赤外線、CFカードスロット(CompactFlash Type I/II)、オーディオアンプスピーカー
OS	Palm OS 3.5日本語版( CFスロットサポート拡張 )
付属品	Palm Desktop日本語版、カバー、スタイラスペン
標準PIM以外の付属アプリケーション	CFPro( 内蔵 )、CFBackup( 内蔵 )
外形寸法	( 縦 )121×( 横 )82×( 奥行き )20mm
重量	170g
価格	オープンプライス( 実売4万円前後 )
発売時期	2000年7月( 予定 )

URL <http://www.ask-corp.co.jp/>

ることができる。日本語版では、日本語のディレクトリの表示なども可能だ。CFProを使うと、CFメモリーカード経由で、HotSyncなしでアプリケーションのインストールや、任意のファイルのバックアップができる。

なお、TRGproにインストールされているそのほかのアプリケーションは、現在CFメモリーカード内部のファイルに直接アクセスすることができないため、いったん、このユーティリティーを使って本体メモリーに移しておく必要がある。近々、それを意識せずに使える「AutoCF」というユーティリティーがリリースされるという話もあるので、日本語版向けのリリースにも期待したい。

このCFProに搭載されているwaveファイル再生機能だけは、直接CFメモリーカードにあるファイルを利用することができる。ちなみに、メニューの「ウェブファイル」という表記には苦笑したが、正式版ではどうなっているだろうか。早速、いくつかの

waveファイルを再生してみたところ、思ったよりきれいに再生された。waveファイルはサイズが大きいに長時間の音楽をCFメモリーカードに入れて持ち歩くという使い方には無理もあるが、唯一、オーディオアンプスピーカーを搭載し、ほかのPalmデバイスよりクオリティーの高い音が出力できるTRGproの特長を生かした専用アプリケーションの登場が楽しみだ。

### そのほかの付属品

原稿執筆時点で正式なパッケージを見ないの、一部変更になる可能性があるが、TRGproには、Palm Desktop日本語版(Windows版)が付属する。Macintoshユーザーは、別途Palm Connectを購入することでMacとの連携が可能になる。ただし、PCカードスロットを備えたPowerBookなどの場合は、CFメモリーカード経由でファイルのやり取りをすることも可能だ。

### 選択のポイント

何とんでも、DoCoMoのP-in comp@actや611SといったCFスロット対応PHSを使い、ケーブルレススマートアクセスをしたいという方にお勧め。筆者はまだ611SのみでP-in comp@actを所有していないが、知人の使っている様子を見ると、現在もっとも強力なPalmデバイスでのモバイルアクセス環境といえる。ノートPCを中心に使っており、HotSyncよりもCFメモリーカード経由でのやり取りの方が使い勝手がよいという方にも勧めたい。CFメモリーカード内のテキストファイルをPalmデバイスで読めるDOC形式と相互変換するツール「CF2DOC」、TRGproのスピーカーを利用してオートダイヤルができるツール「DTMF Keypad」などもリリースされている。「CFBackup」を使えば、HotSyncなしでどこでも簡単にバックアップ、リストアも可能で、PCなしで長期間出張する際も安心である。

## Part.5



WorkPad c3(50J)

## 日本のPalm デバイス市場を切り開いてきた WorkPadにも新製品登場!



1999年2月、Palm OS日本語版搭載モデルとして華々しく登場したIBM社のWorkPad(30J)。以来、WorkPadが日本のPDA市場に果たした役割は大きい。パーム コンピューティング社やハンドスプリング社の日本市場参入、TRG社の日本語OS採用、ソニーのPalm デバイス発売予定と、市場拡大が続く中、WorkPadにも新製品が登場した。Palm xと共通仕様のWorkPad c3(50J)だ。

### 外観・ハードウェア

「WorkPad c3(50J)」の外観は、1999年5月に登場したPalm ベースの「WorkPad c3(40J)」とまったく変わらない。外見からだけではこの2機種は区別がつかないほどである。

しかしながら、その中身は大きく成長し

ている。RAMメモリー容量が2MBから8MBへ増強され、従来ショップ改造などに頼っていた8MB化が標準でサポートされているのだ。

また、フラッシュROMメモリーも2MBから4MBへ増設されているが、これは日本語OSのバージョンが3.5になり、2MBでは容量不足になるという理由が大きい。

### ソフトウェア・OS・アプリケーション

搭載されているOS、アプリケーションは、Palm xと同等である。

### そのほかの付属品

同等のモデルであるPalm xとの大きな

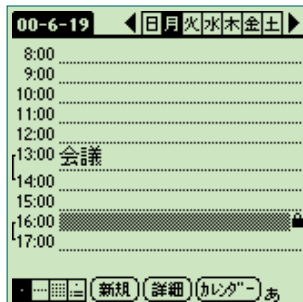
違いは、Palm xには同梱されているMacintosh用シンクロソフトPalm Connectが同梱されていないという点にある。ただし、その分2000円ほど実売価格も低めに設定されており、Windows PCユーザーには価格的なメリットもある。もし、後からMacintoshとのシンクロも行いたいということになっても、Palm社が発売しているPalm Connectを購入すればよい。

### 選択のポイント

Palm xとの比較になるが、MacintoshとのHotSyncを行わず、その分安い価格で購入したいという方にはお勧めだ。また、真っ黒な金属ボディーは精悍さも備え、これが好きでWorkPad c3を選択するというユーザーも多い。旧モデルとなったWorkPad c3(40J)は、あまり市場に残っていないかも知れないが、低価格で売られていたら、大きなデータを取り扱わないPIM中心の使い方である場合には、お買い得といえるだろう。「WorkPad(30J)」についても、同じことがいえそうだ。



WorkPad c3(50J)にはPalm OS 3.5日本語版が採用されている



予定表でマスク表示をしたところ



4MBメモリ内蔵のWorkPad(30J)。乾電池仕様だ

#### 仕様 [WorkPad (30J)]

製品名	WorkPad(30J)
メーカー	日本IBM
メモリー容量	4MB( RAM )/2MB( ROM )
ディスプレイ	160×160ドットLCDモノクロ16階調
CPU	CPU Motorola DragonBall EZ( 16MHz )
バッテリー	アルカリ単4乾電池×2本
インターフェース	シリアルポート、赤外線、オープン拡張スロットコネクタ
OS	Palm OS 3.1日本語版
付属品	Palm Desktop日本語版( Windows版 )、HotSyncクレードル、ACアダプター、カバー、スタイラスペン
標準PIM以外の付属アプリケーション	Lotus EasySync( Notes用 )
外形寸法	( 縦 )120×( 横 )82×( 奥行き )18mm
重量	162g
価格	オープンプライス( 実売 2万9800円前後 )
発売時期	1999年2月

#### 仕様 [WorkPad c3(40J)]

製品名	WorkPad c3(40J)
メーカー	日本IBM
メモリー容量	2MB( RAM )/2MB( ROM )
ディスプレイ	160×160ドットLCDモノクロ16階調
CPU	CPU Motorola DragonBall EZ( 16MHz )
バッテリー	充電式リチウムイオン電池内蔵型
インターフェース	シリアルポート、赤外線
OS	Palm OS 3.1日本語版
付属品	Palm Desktop日本語版( Windows版 )、HotSyncクレードル( 充電器兼用 )、ACアダプター、革製カバー、スタイラスペン×2本
標準PIM以外の付属アプリケーション	Lotus EasySync( Notes用 )
外形寸法	( 縦 )116×( 横 )79×( 奥行き )11mm
重量	119g
価格	オープンプライス( 実売 3万4800円前後 )
発売時期	1999年5月

#### 仕様 [WorkPad c3(50J)]

製品名	WorkPad c3(50J)
メーカー	日本IBM
メモリー容量	8MB( RAM )/4MB( ROM )
ディスプレイ	160×160ドットLCDモノクロ16階調
CPU	CPU Motorola DragonBall EZ( 20MHz )
バッテリー	充電式リチウムイオン電池内蔵型
インターフェース	シリアルポート、赤外線
OS	Palm OS 3.5日本語版
付属品	Palm Desktop日本語版( Windows版 )、HotSyncクレードル( 充電器兼用 )、ACアダプター、革製カバー、スタイラスペン×2本
標準PIM以外の付属アプリケーション	Lotus EasySync( Notes用 )、WebSkechなど
外形寸法	( 縦 )116×( 横 )79×( 奥行き )11mm
重量	119g
価格	オープンプライス( 実売 3万9800円前後 )
発売時期	2000年4月

URL <http://www.ibm.co.jp/>

# “シンプルさ”を実現する Palm OS

M.Hirose

Palm cや x、Visor、そして待望のソニー製 Palm デバイスなど、今年になって続々と登場した Palmファミリー これら Palmマシンの特徴である“シンプルさ”を実現しているのが、Palm OSだ。ここでは、最新バージョンである Palm OS 3.5 日本語版の、基本的な機能や新機能を紹介する。また、いち早くカラー化に取り組んだ「J-OS」の動向や、現時点で入手できる代表的なカラー対応アプリケーションについても見てみよう。

## より使いやすさを追求した Palm OS 3.5 日本語版

### 携帯端末専用として誕生した Palm OS

OS(オペレーティング・システム)とは、システム全体の総合的な制御や管理を行うソフトウェアのことだ。いわば、システム全体の管理人のようなもので、人間がマシンとやり取りする際の窓口の役目も果たしている。マシンの根幹にかかわるこのソフトウェアの出来不出来によって、そのパソコンやPDAの使い勝手が決まってしまうといっても過言ではない。

ご存知のように、WindowsやMac OS、LinuxなどはすべてOSの名称で、これらがパソコンの裏側で動作することによって、はじめてワープロなどのアプリケーションを使うことができる。そして、PalmシリーズやWorkPad、Visor、ソニー製PalmなどのPalmマシンも例外ではなく、いずれのマシンにもPalm OSが搭載されている。

このPalm OSは、世界で初めて携帯端末専用のOSとして設計された。というよりも、“実用的に使えるモバイル専用OSを世界で初めて完成させた”というほうが、正しい言い方かもしれない。

Palm OSが世に出る前にも、いわゆるPDAという情報携帯端末があり、その中には当然ながらモバイル用と銘打ったOSが搭載されていた。しかし、これらモバイル用OSのほとんどは、携帯情報端末に必要な最低条件を満たしてはいなかった。それらのOSが搭載された携帯情報端末の多くは、外に持ち出す機器としては高価なうえ、大きすぎ、重すぎ、バッテリーはすぐ底をつき、入力したデータをバックアップするための方法すら、非常に面倒な手順を踏まなくてはならなかったからだ。

Palm OSを開発したPalm Computing社(現在のPalm, Inc.)は、もともとは他社製OS上で動作するソフトウェアの開発を行っていた会社だったが、これらの不満を一気に解消するためにOSとマシンをそっくり自らが開発することを選択したのである。

では、携帯情報端末として必要な要素とは、どのようなものがあるのだろうか。

胸ポケットへも入れておけるくらいの大きさ、重さ  
交換や充電時期を意識する必要がないくらいのバッテリー寿命  
必要な情報がすぐに呼び出せる軽快な動作  
簡単にパソコンとシンクロ/バックアップできる機能

これらの要素を実現するためには、それまでの「より多くのメモリと、より速いプロセッサ」というパソコン的開発思想を捨て、効率的で省電力設計のOSを一から開発しなくてはならなかった。そして完成したのが、Palm OSなのだ。

Palm OSは、初代機Pilot(1996年)に搭載された1.0より、バージョンを重ねるごとに着実に進化してきた。昨年にはPalm OS 3.1日本語版が発表され、そのOSを搭載したIBM WorkPadシリーズは、日本市場へ向けた初めての純正日本語版Palm OSマシンとして発売された。そして、その約1年後の今年3月に満を持して発表されたのが、カラー対応の最新バージョンであるPalm OS 3.5日本語版だ。

### Palm OS 3.5 日本語版の基本的な機能

まず、「Palm OS 3.5日本語版」の基本的な機能を見ていこう。

“シンプルさ”が特徴であるPalm OSは、使い勝手も至ってシンプルだ。分厚いマニュアルを読むよりも、実際に触ったり、画面の

いろいろなところを勤でタップしていただくだけで、ほとんどの機能は覚えられるだろう。誰もが直感的に使いこなせるというのが、Palmの魅力でもある。

## ボタンに割り当てられた標準搭載アプリケーション

4つのハードウェアボタンには、それぞれ予定表、アドレス、ToDo、メモ帳という標準搭載アプリケーションが割り当てられている。電源オフの状態からそれぞれのボタンを押すだけで、見たい情報を探せるわけだ。さらに、同じボタンを押すとカテゴリーを変えて項目表示する。項目のタイトルを参照するだけなら、スタイラスペンを抜き出す必要もないのである。

例えば、誰かの電話番号を調べたいときは、アドレスボタンを押して該当するカテゴリーを表示させる。項目が多くて画面内に見当たらない場合は、Graffitiエリアに探している項目のはじめの文字を書いてみよう。すると、当てはまる項目が反転表示されるはずだ。1文字だけでは目的のデータにたどり着けない場合には、2文字目、3文字目を書き込むことによって、該当するデータを絞り込んでいくことができる。

このインクリメンタルサーチ機能は、分厚いシステム手帳のアドレス帳を何回もめくって電話番号を探すことに比べると、とてもスマートで実用的だ。

アドレスで「j」を入力し、当てはまる項目が表示されているところ



## Graffiti

優れたデータ検索機能があっても、検索対象となるデータ自体がなければ意味がない。データ入力、これまでPDAを使いこなすうえでの、大きな障壁のひとつだったのである。しかし、Palmの場合には、データを入力する方法が複数用意されており、データの種類や状況に応じて使い分けが可能だ。つまり、データ入力のストレスをかなりの部分省くことができるのである。

ひとつは、Palm上でGraffitiを使って入力する方法だ。そしてもうひとつは、パソコン上でデータを作り、HotSyncでPalmに転送する方法だ。また、周辺機器としてPalm専用のキーボードなども市販されており、これらを使って入力することもできる。

スタイラスペンで文字を書いて入力するGraffitiは、「効率的」という意味で、極めてPalm的な考えに基づいて開発された入力方法だ。シルクスクリーン上でアルファベットと数字を別々のエリアに記入す

ることで、簡単なペンアクションの認識率を高めている。

アルファベット、数字ともにひと筆書き形式が基本で、一日も触っていれば、ほとんどの文字のアクションを覚えることができるだろう。もし、書き順を忘れても、マニュアルを開く必要はない。Graffitiエリアの一番下から、画面上部に向かって1本線を引くと、Graffitiの書き順を示したヘルプが表示されるのである。



Graffitiの書き順を示したヘルプが表示された。下矢印をタップすると、記号などの入力方法も確認できる

## 大量のデータを転送できるHotSync

Graffitiがいかにか効率的で優れた方法であっても、何十何百というアドレスデータやスケジュール、長文などを入力するのは至難の業だ。たくさんのデータを一度に転送する場合には、添付のCD-ROMに入っているPalm Desktopを使おう。

あらかじめ、自宅のパソコンにPalm Desktopをインストールしておけば、使い慣れたパソコンを使ってデータ入力することができる。また、パソコン上で利用していたアドレスなどの既存のデータを、コンバートして取り込むことも可能だ。HotSyncでPalmに転送すれば、一瞬にして、パソコン上で活用していたデータをポケットに入れて持ち出せるようになるわけだ。

今まで、ほんの少しの小さな、しかし重要な情報のために、重くて高価なノートブックを持ち歩き、神経をすり減らしたことはないだろうか？ Palmを使いこなせば、そんな無駄な場面は格段に少なくなるはずだ。

自宅では、パソコン上で入力してHotSync。出先では、Graffitiで電話番号を書き換えたり、アドレスデータの追加やスケジュールの入力などを行い、帰宅後にパソコンとHotSync。これで、常に最新の情報が、パソコンとPalmの両方に蓄えられることになる。

Palmで持ち出せるデータは、それだけではない。インターネットで見つけた情報なども、その場でコピーしてPalm Desktopのメモとして保存しておけば、次回HotSync時にはPalmに転送される。いちいちホームページを印刷したり、画面を見ながらメモを取ったりする必要はなくなるのである。1次情報をそのまま持ち出せるので、間違いも少なくなるだろう。

# “シンプルさ”を実現する Palm OS

これまでパソコンの中であって、持ち出せたらいいなと思っていた情報のほとんどは、PalmとHotSyncを利用することで、手軽に携帯することが可能になる。今までスタンドアロンで使っていたパソコンが、Palmと併用することにより、何倍もの利用価値を發揮するようになるのである。

最後にHotSyncした記録も表示される。万が一のことを考え、まめにHotSyncするようにしよう



## 自由度の高い カスタマイズ機能

Palm OSの大きな特徴のひとつは、ユーザーが自由にカスタマイズできること。ひと通り標準搭載されているアプリケーションを使

い終わったら、自分のマシンをより使いやすいようにカスタマイズすることをお勧めする。

標準搭載のアプリケーションでは物足りない、あるいは不便だなと思ったことはないだろうか？ ここがもう少しこうなっていればと思うことは、誰にでもあるはずだ。そんなときは、好みの機能を実現しているPalmware( Palm用ソフトウェアの総称 )がないかを探してみよう。

Palmの世界では、初代機のころから開発環境が整備され、Palm, Inc.自身もデベロッパーのサポートを率先して行ってきた。そのため、現在では7000を超えるソフトウェアが、コマーシャルベースはもちろん、シェアウェアやフリーウェアなど、さまざまなかたちで公開されている。そのほとんどは、インターネット上で情報を得られ、パソコンにダウンロードして、HotSyncを介してPalmマシンにインストールすることができる。まずは、本誌付録のCD-ROMに収録されているソフトウェアを手始めに、自分だけのPalmに仕立て上げる第一歩を踏み出してみよう。

愛機に好みの機能を搭載し、自分だけのマシンにしていくカスタマイズこそ、パーソナルな道具である携帯情報端末に欠かせない機能であり、Palmを使うときの最大の楽しみのひとつでもあるのだ。

## Palm OS 3.5 日本語版の新機能

では、「Palm OS 3.5日本語版」で追加された新機能について、順に紹介していこう。

### カラー対応

Palm OS 3.5日本語版の目玉のひとつは、何といてもカラー対応と言えよう。

カラー版であるPalm cには、添付のCD-ROMにデジタルフォトビューワーであるAlbum ToGoが入っている。これは、デジカメで撮ったJPEGファイルをパソコンから転送し、その写真をPalm上で

見るためのソフトウェアだ。液晶画面が160×160ドットなので、写真によっては若干見にくいこともあるが、手軽に写真を持ち歩けるメリットは見逃せない。  
しかし、普段いちばん活



添付されている画像だが、なかなかきれいだ

用するはずの標準搭載アプリケーションでは、カラー化されてはいないものの、基本的に“白の背景色+青の強調色”の2色だけという、極めてシンプルな構成になっている。カラーが使えとなれば、普通はメニューやアイコンなど各所でその効果を誇示したくなるものだが、Palmの開発者たちはその逆を考えるのだ。

立体感を出すために、むやみにグラデーションを付けたりすれば、視認性の悪化につながるばかりか、動作が遅くなって軽快な操作感も失われてしまう。カラー機能は、本当に必要なところでだけ使うようにすればよく、必要以上にカラーであることを訴えるようなデザインは携帯情報端末としての性能を下げるものでしかない。「え、これでカラー？」と言いたくなるような、このシンプルな画面デザインは、Palm, Incが初代機Pilot開発当初より長年培ってきた“Zen of Palm”という開発思想によるところが大きいと思われる。

この“白の背景色+青の強調色”を使った一見シン



ンプルだが見やすい色を選択している



ブルなPalm OSの画面はととても見やすく、パッと画面を見たときの視認性の高さはあなどり難いものがある。後述のカラーアイコンなどを使えるスケジュールアプリを使えば、視認性のアップはさらに強調されるだろう。

## プライベートデータのマスク機能

Palm OS 3.5以前の機種でも、人に見られたくないプライベートデータを隠すことはできた。しかし、それは単純にデータをそっくり隠してしまうだけの機能だったため、当の所有者ですら、そこに重要なデータがあることを忘れ、誤って消してしまったり転送し忘れたり、慌てることもままあったのである。

Palm OS 3.5日本語版のマスク機能は、プライベートデータを完全に見えなくしてしまうというのではない。データ項目名の個所がグレー表示になり、そこにデータが存在していることはわかるようになっていた。そして、そのデータを開こうとするとパスワードを要求してくるため、所有者以外が見ることはできないようになっていたのである。

マスクされたデータを見る場合は、パスワードを要求される



## ドロップダウンメニューのタップ表示機能

これまで、シルクスクリーンの「メニュー」ボタンで表示させていたドロップダウンメニューが、画面左上をタップするだけで表示されるようになった。これにより、操作中にスタイラスを移動させる距離が短くなり、より快適にメニューへアクセスできるようになっている。

ちなみに、この機能を

画面左上をタップすれば、ドロップダウンメニューが表示される。小さな変更だが、操作時のストレスを軽減



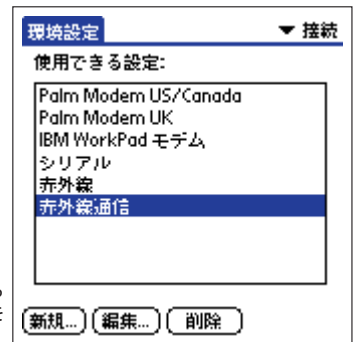
Palm OS 3.5以前の機種で利用するには、「MenuHack」(<http://www.daggerware.com/mischack.htm>)を使うことで実現できる。このソフトウェアはHackMasterエクステンションなので、別途「HackMaster」(<http://www.daggerware.com/hackmstr.htm>) (本誌付録のCD-ROMに収録されている)が必要となる。

## HotSync機能の改善

全体的なHotSyncスピードが改善されている。また、これまでは赤外線HotSyncや赤外線ポート付きの携帯電話などで通信する場合には、別途ファイルをインストールする必要があったのだが、この機能が標準でサポートされるようになった。

赤外線HotSyncや赤外線通信、シリアルでのHotSyncなどを切り替える場合は、環境設定で切り替えを行う。赤外線通信を行ったあとでHotSyncができなくなったという場合は、この設定が正しく選択されているかどうかを確認しよう。

赤外線通信とHotSyncを使い分ける場合には、新たに赤外線通信の項目を作っておくと便利

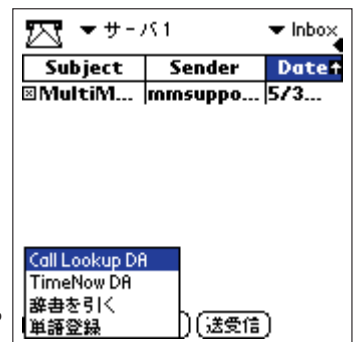


## 辞書のプリインストールと辞書引きコマンドの追加

標準搭載アプリケーションのメニューに、「辞書を引く」コマンドが追加された。これらのアプリケーション上からは、あらかじめインストールされている英和 / 和英辞典を呼び出すことができる。デフォルトで入っている辞書では物足りないという場合には、製品付属のCD-ROMに、より収録語数の多いサイズの大きい辞書が入っているので、そちらをインストールして使うことも可能だ。

また、英語アプリケーションやシェアウェアなどから

DAモジュールは、どんなときでもさっと使える便利なソフトだ



# “シンプルさ”を実現する Palm OS

も、いつでも辞書を引きたいという場合には、「G-書を引くんDA」(<http://sapporo.cool.ne.jp/gpalm/Palm/gcalljedicda/index.html>)を使えばよいだろう。

なお、このソフトウェアは“DA(デスクアクセサリ)”という、どのアプリケーション上でも利用できるモジュール形式になっていて、別途「DA Launcher」(<http://www.tt.rim.or.jp/tatsushi/>)などのランチャーが必要となる。本体とは別に、これらのソフトをインストールして若干の設定手順を踏まなければならないのだが、いったん設定してしまえば、どこでどんなアプリケーションを使ってもモジュール機能が呼び出せるというすぐれモノだ。ぜひ試してみてください。

## コマンドストローク表示

メニュー項目をGraffitiアクションだけで実行するコマンドストロークは、これまでも用意されていた。しかし、組み合わせをいちいち覚えなくてはならないうえ、急いでいるときにはGraffitiで誤入力してしまうことも多かった。

Palm OS 3.5日本語版では、コマンドアクション(Graffitiエリアで左下から右上に斜め線を書く)を入力すると、画面の最下部にウィンドウが表示され、使われる頻度の高いデリート、カット、コピー、削除などのアイコンが右側に配置されるようになった。このアイコンをタップすることで、それぞれの機能を実行できるようになっている。

ホームでは、メニューの「情報」「赤外線通信」「削除」の機能にあたるアイコンが、画面最下部のウィンドウに表示される



## その他の新機能

このほか、予定表/ToDo項目の一覧表示を行うアジェンダビュー機能やリアルポートマネージャー、そしてアラームダイアログではスヌーズボタンの追加などが行われている。

何かというと、カラー化ばかりが話題になるPalm OS 3.5日本語版だが、このような実用的な機能が改善されていることも見逃してはならない。なお、旧マシンユーザー向けのPalm OS 3.5日本語版へのアップグレードだが、残念ながらいまのところまだアナウンスされていない。

## 日本のPalm草創期を演出したソフトウェア

J-OSは、初代PalmマシンであるPilotのころより、日本語環境をサポートし続けている純国産のソフトウェアだ。山田達司氏の手によるこのソフトウェアの噂を聞きつけた当時のPalm Computing社のスタッフは、「日本語が使えているなんて信じられない」と一様に驚きの声をあげたという。

昨年、Palm,Inc純正の日本語OSが登場するまでの2年以上もの間、日本のPalmユーザーは英語版Palmを入手し、このJ-OSによって日本語を表示/入力していたのである。初めての日本語OSを搭載したIBM WorkPadが登場した時点で、すでに数多くの日本語ソフトウェアが存在していたのも、Palmに関するホームページが数多く存在したことも、すべてユーザーの声を反映しつつ絶えず進化を続けたJ-OSがあったからだ。

そのJ-OSは昨年の日本語OSの登場、そして今年のPalm純正ブランドと続いて、大きな転換期を迎えようとしている。各社から日本語版Palmが続々と発売され、日本語版のユーザーが爆発的に増える一方で、J-OSの存在を知らない人も多くなってきたのである。

そんな中、新バージョンJ-OS が誕生した。日本のPalmコミュニティを育み、いまもなお純国産ソフトウェアとして先頭を走っているJ-OSの新バージョン を紹介しよう。

## 徹底した日本語化を図ったJ-OS

J-OS は、Palm OS 3.0~3.5を搭載した英語版マシン上で、日本語を表示し入力するためのソフトウェアだ。6月末の時点では 版であり、まだ開発途中のバージョンとなっている。必要なファイルをインストールし、PrefsのJ-OS IVから、「Enable & Reset」を選択したときから、英語版Palmで日本語表示がされるようになる。

日本語入力は、Graffitiエリアの左角の「abc」に囲まれた部分をタップすると表示されるウィンドウ上で行う。この状態からGraffiti入力し、かな/漢字/カタカナなどのボタンでモードを変え、かな漢字入力/変換を行う。

J-OSで実現できる日本語化は、単に表示/入力ができるというレベルのものではない。ローカライザーという、各アプリケーションに対応した日本語化ファイルを使用することにより、メニューやダイアログにおいても、日本語のメッセージを表示させることができるのである。

J-OS には、英語版Palmに標準搭載されているアプリケーション用のローカライザーが、機種別に添付されている。した

# 英語版 Palm で日本語を使える J-OS

がって、もう英語版アプリケーションを辞書を引ながら使う必要はなくなるわけだ。また、標準搭載以外の英語版アプリケーションに関しても、ユーザー有志がインターネット上でローカライズファイルを公開しているので、有名なアプリケーションであれば日本語でのメニュー / ダイアログ表示が可能だ。

さらに、このJ-OSの人気を確たるものとした機能のひとつが、FlashROMへの対応だ。これは、FlashROMを搭載しているマシンでROM上に空き容量がある場合に、TRG社のFlashProを使って、J-OS関連ファイルをROMに焼き込むことができるというもの。万が

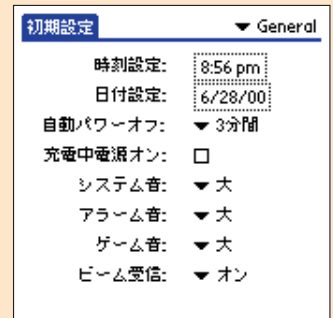
一、ハードリセットを余儀なくされた場合でも、日本語環境のまま立ち上がるようにできるのである。英語版でありながら、デフォルトで日本語表示ができるマシンにまで昇華させることができるのだ。



アプリケーションの名前は英語表示のままメニューだけが日本語化されている



ポップアップ表示された漢字候補ウィンドウ。フィールド上の単語をタップすると表示される



Prefs (環境設定)も、ローカライザーファイルにより、日本語でメッセージ表示されている

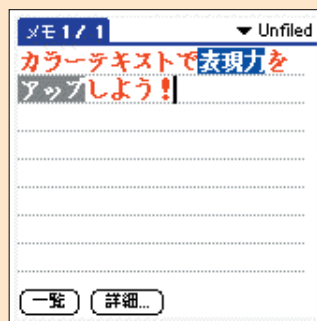
## J-OS の新機能

Palm OS 3.5に対応したJ-OS IVでは、1文字ごとに7色のカラー指定ができるようになった。この7色は、背景色と文字色を組み合わせた7つのパターン（ユーザー設定可能）からなり、テキストを選択した状態から、DAモジュールである「font color da」を立ち上げて選択する。テキスト入力時から色付きで記入することはできないが、文脈や単語を強調したい場合には非常に便利だ。

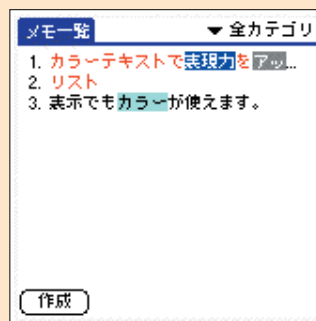
これまでにも、かな漢字変換辞書などをサードパーティー製のものに入れ替えて使うユーザーは多かった。実は筆者も、「ヘタ字フォント」をインストールしていた1人だ。J-OS では、パネル上で選択できるようになったため、さまざま

なフォントを使うことが可能になったのである。

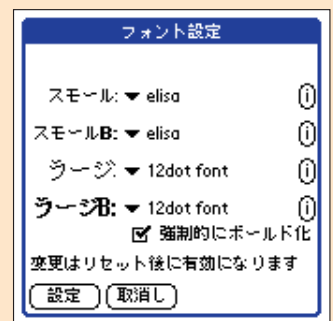
このほか、アプリケーションごとに日本語モード / 英語モード、ローカライザーのオン / オフを設定できるようになるなど、変更改善点は数多い。



文字の色付けも反転表示も、パターンで選ぶことができる



リスト表示画面でもカラーで表示可能になった



4種類のフォントを設定できるようになっている

## こんな人にお勧め！

パソコンなどと違って、自分でOSを入れ替えることが難しいPalmマシンにおいて、Graffitiエリアの広い英語版Palmマシンで日本語を使うには、このJ-OSを利用するしかない。

ただし、ショートカットで日本語を含む文字を入力できない、一部ソートがうまく機能しないなど、いくつかの問題点もないわけではない。その意味では、複数のファイルをインストールし、OSの仕組みをある程度理解しながら使うことが要求されるJ-OSは、決

して万人向けの日本語化キットとはいえないかもしれない。

しかし、それらを乗り越えて、ROMに焼くことも含めて、思い通りにカスタマイズできたときには、何物にも代え難いマシンとなるだろう。

広いGraffitiエリアという理由で英語版を使いたい人だけでなく、Palmをいままでも以上に好きになりたい人にも、ぜひとも使ってほしいものだ。

# カラー対応アプリケーションの世界



マークの付いたソフトウェアは、本誌付録のCD-ROMに収録されています。

AncientRed 1.0.1  
シェアウェア (29.95ドル)

作者: SkeNext

<http://www.skenesoft.com/>

Ultima型の本格派アクションRPG。

斜め上からの見下ろし型で、画面を直接タップしてフィールドを移動していく。フィールドの総画面数は20,480、Palm同士で赤外線を使ってアイテムの交換もできる。

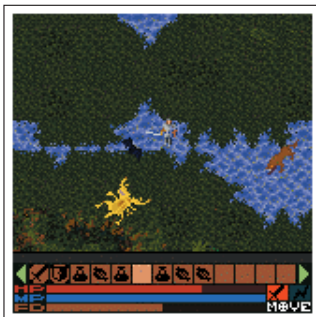
街では、宿屋、武器屋、各種アイテム屋を回って取り引きをし、住民の話を聞きながら、ギルドで仕事をもらう。仕事は指定された頭数分のモンスターの死骸を集めること。モンスターと戦い、そのときに残される死骸を集め、ギルドに持っていけば約束の金額やアイテムを手にすることができる。これにより、キャラクターのカリスマの数値がアップし、モンスターにやられたときに、村人がアイテムを拾ってきてくれる確率がアップする。

ファイルサイズは、カラー版で1652KBと決して小さくはないが、画面の細かい描写なども素晴らしく、また見た目以上にアイデアやゲームバランスがよいので、内容を考えると29.95ドルという値段も安く感じる。

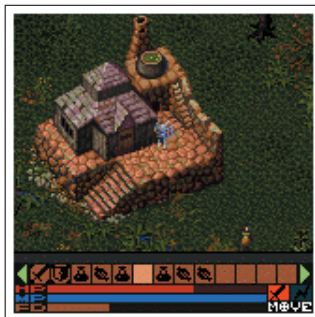
日本語版マニュアルも用意されているので、遊び方は難なく覚えらるだろう。しかし、ゲーム内で表示される会話は英語のままなので、多少の英語力は必要かもしれない。

なお、Palm OS日本語版が搭載されている機種では、ゲーム中にシルクスクリンの「キーボード」ボタンをタップするとフリーズしてしまう。これを解消するには、「KeyboardToCalc Hack (本誌CD-ROMに収録)を使う。忘れずにインストールしておこう。

KeyboardToCalc Hack <http://www.fatal-error.com/>



フィールド上で敵と戦う。装備も微細に描かれている。まずは装備をじっくり整えよう



魔法使いの店だ。品物の売買はアイテムによって、それぞれ決められた場所で行えない

Zap!2000 1.2

シェアウェア (12.95ドル)

作者: ASTRAWARE

<http://www.astraware.com/palm/zap2000/>

本格派シューティングゲーム。

縦スクロール型で敵を倒し、アイテムを拾ってパワーアップしていくオーソドックスなタイプだ。各ステージの最後にはボスキャラが登場するので、パワーアップアイテムを取り忘れると苦戦する。5000ポイントごとに自機が増える。各種コントロールボタンは、Palmのハードボタンにそれぞれアサインできるので、右利き左利きを問わず遊べるだろう。敵がたくさん出てくる場面では多少遅くなるが、全体的には小型の携帯ゲームマシンにも肉薄するレベルだ。

弊社刊行の「マックビープル」が行っている、「Zap!2000」を9.95ドルで購入できるキャンペーンに本誌の読者も参加できる。次のウェブページにアクセスしよう。  
<http://www.astraware.com/macpeople/>



きれいな背景や描写に気を取られないようにしよう。シーン3以降は、真横からも敵が来るので要注意だ

JaMaPS Browser for PalmOS 0.62 0.25

作者: (株)KDD研究所



<http://jamaps1.kddlabs.co.jp/palm/>

世界初のPalmで使えるインターネット地図配信システム。

モデムやNM502iなどを使ってインターネットにアクセスし、地図データを表示する。取得した地図データをオフラインで見るキャッシュ機能を備え、GPSレシーバー接続機能、メモ帳機能を搭載している。必要な地域の最新地図データのみをすぐ取得できるうえ、いらなくなったらダウンロードした地域ごとに削除できるので、必要以上のメモリーを使わない。開発途上のテクノロジー・プレビュー版。

まだ細かい情報は取得できないが、おおまかな全体地図を見ることができる



## PalmPickle 1.1

シェアウェア(3200円)

作者: 奥地 耕司 氏



<http://homepage1.nifty.com/okuji/>

コミカルなキャラクター、Pickleが活躍するグラフィカルランチャー。

Palm診断機能、バッテリー残量表示、計算機、カレンダー、時計日付表示などの機能を備えたソフトだが、堅苦しい雰囲気は一切なく、いずれもPickleと一緒に遊びながら使う感覚だ。アミューズメント的にさまざまなソフトが内包されていて、Pickleの世話のほか、スクリーンセーバーや爆弾ゲーム、カートゲームなどの簡単なゲームも用意されている。いろいろな機能があるが、そんなことよりもPickleの世界観を楽しみたいと思わせる快作だ。

また、P.Sketchは本格的なお絵描きアプリ。このアプリのみ別登録(1100円)となっているが「Pickle」のイメージそのままにペイントできるアプリケーションはほかにはないものだ。



「PalmDesktop」は、標準搭載のランチャーを起動する。ひと目見ただけでいろいろなところをタップしたくなる、楽しそうな画面だ



爆弾ゲームでは、左下のキャラクターと対戦する。交代でコードを切って、爆発させたほうが負けだ



ペイントアプリのツール画面。各種ツールが、それぞれキャラクターになっているのだ

## TinySheet 3.0

シェアウェア(19.95ドル)

作者: iambic Software



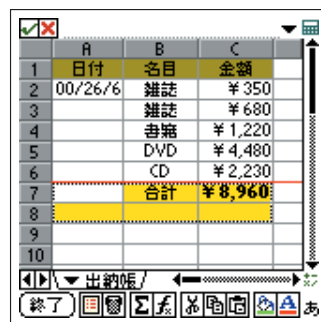
<http://www.iambic.com/pilot/tinysheet/ts30/default.stm>

Excelライクな表計算ソフトウェア。

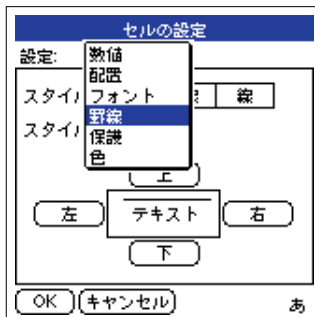
PCやMacintoshでExcelを使ったことがあれば、操作に迷うことはほとんどないだろう。セルの幅や高さはタップドラッグで、フォントやセルの色はタップで選べるなど、よく使う機能は少ない操作手順で行えるようになっている。簡易的なたし算式はボタン一発で、それよりも細かい計算式を入力したい場合は、電卓形式の入力パッドを併用することで楽に行える。

また、PC用には無料コンジットが用意されていて、PC上のExcelファイルとのデータのシンクが行える。

画面写真、レビューは3.0日本語版を基に作成したため、正式版とは仕様異なる場合があります。



Excelを使ったことがある人ならば簡単に操作できる。また、表計算ソフトは色を付けると非常に見やすくなる



よく使うセルの設定に関しては、このウィンドウの中でさまざまなスタイルが設定できる



メニューも含めて日本語化されているので、非常にわかりやすく、戸惑うことはないだろう

## Billiard 2.1

シェアウェア(10ドル)

作者: MEGASOFT

<http://megasoft2000.homepage.com/>

グラフィックが美しいビリヤードゲーム。

8ボール、9ボール、ピラミッドのルールが用意され、Palmとも対戦ができる。非常に多彩な設定項目があり、ボールの大きさ、ポケットの大きさ、クッション強度などを好みのセッティングにできるため、ビリヤード通にも十分楽しめることだろう。ボールの描写も立体的で、転がり方もなかなかリアルな動きとなっている。

少々残念なのは、狙いをつけるのがテーブルのグレーの外周をタップするという方法なので、直接狙えないボールをクッションを利用して当てたいときなど、微妙な角度をつけたい場合には狙いどおりにいかない点だ。

転がり方も気持ちよく、意外にサクサクと落とせる



# “シンプルさ”を実現する Palm OS

## MegaLauncher 1.1

シェアウェア (12.50ドル)

作者: MEGASOFT

<http://megasoft2000.homepage.com/>

多機能ランチャー。

画面中央に各アプリケーションが表示され、その上下にさまざまな機能を提供するアイコンが並び(表示方法は、このほかに2種類ある)時刻表示では、別の都市の時刻も同時に表示できる。その他、簡易電卓やメモリー使用状況、予定リスト表示など呼び出せる。

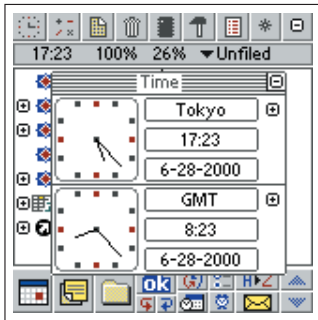
HotSyncや環境設定に直接飛べるアイコンもあり、たいいていの操作はこのアプリケーション上から行うことができる。画面自体の表示色も、ユーザー側で白黒/グレースケール/カラーの3種類から設定可能だ。

また、リサイクルピンという機能も持っており、このランチャー上でデリートした場合は、いったん別の場所に移動するようになっている。つまり、あらためて削除を実行しなければ、いつでもデータの復活が可能となっているわけだ。

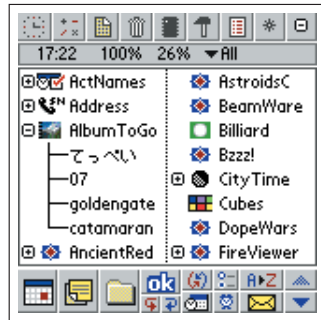
単なるランチャーというよりも、ユーティリティーとしての機能も十分に持っている。



標準のホーム画面に近い表示。上下に各種設定ボタンがある



時計表示。2カ所を選んで表示させることができる



階層表示だと、関連ファイルも見ることができる

## Action Names 4.53 日本語版

シェアウェア (19.95ドル)

作者: iambic Software



<http://www.iambic.com/japan/actionnames/default.stm>

標準搭載の予定表やToDoを、統合管理できるソフトウェアの日本語版。

データは、それまで使っていた予定表/ToDo項目が、そのまま利用できる。画面表示は、1日/週間/月間/四半期の4つが用意され、それぞれの表示形式の中でもいくつかの形態を選べる。また、1日表示画面とToDoリストを同時に表示することが可能なので、予定に連動したToDo項目の確認もでき、とても実用的だ。

イベントの作成は、画面下のファイルアイコンをタップして行う。「予定」「電話連絡」「ToDo」というよく使われるような項目があり、それぞれ個別にアイコンを指定しておくことも可能だ。これらのアイコン自体を編集/新規作成する機能も備えており、好きなアイコンを作ってアサインすることもできる。デフォルトで入っているカラーアイコンの出来もかなりよく、イベントの視認性をアップする補助的役割を十分に果たしている。

アドレスデータも表示したり検索が行えるのだが、日本語版では残念ながら編集ができない。今後の対応に期待したい。標準搭載のアプリケーションに物足りなさを感じたときには、試用してみよう。



1日表示画面。上にスケジュール、下にはToDo項目を同時に表示できる。新しいイベントの作成も、デフォルトのアイコンを付けて作成が可能だ



1年のうち3カ月間を表示する画面。イベントがあるところは縦線が入っていて、日付をタップすると、右下に項目詳細が表示される

## Cubes 1.0

シェアウェア (6.25ドル)

作者: MEFUSAIL

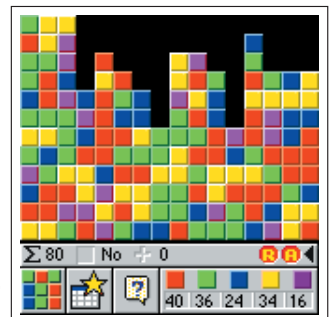
<http://mafusail.homepage.com/>

2個以上の同じ色のブロックを消していく「まきがめ」タイプのゲーム。

2個でも消すことはできるが、高得点を稼ぐには、たくさんのブロックをまとめて消すことだ。ゲームをスタートしたら、画面下に表示されてい

る各色のブロック数を見て、いちばん多い色のブロックを一度にたくさん消すことを目標に、ほかの色を消していこう。

2個以上のブロックを2回タップすると消せる。上のブロックは下に落ちるため、消す前に次の手も考えておこう



## 特集2

# メールで広がる Palmの世界

難波 茂広



Palmユーザーの大多数は、同時にパソコンユーザーでもある。当然、仕事でもプライベートでも、毎日のように電子メールを活用しているだろう。日常的に持ち歩くPalmでメールを使いたいそう考えているユーザーも多いはずだ。そこで本特集では、Palmユーザーのためのメール活用法を考えてみよう。未読メールを持ち出して外出先で読むだけでなく、携帯電話やPHSと接続してPalm自身でメールのやり取りを行うなど、現時点でもさまざまな活用法がある。iモードでは物足りないという“こだわり派”にとっても、Palmの魅力が再認識できるはずだ。



## Part. 1

# Palmでメールを使うには

電子メールは、すでに現代人にとって欠くことのできない情報伝達手段といってもいいだろう。当初はパソコンが必須だったメールのやり取りも、メッセージ端末やiモードの登場によって、手軽にモバイル環境での利用が可能になってきた。ここでは、現状のデータ通信事情を紹介しながら、Palmユーザーにとってのメール活用法を考えてみよう。

## 電子メールの利用法を再確認しよう

パソコンだけでなく、PDAなどの携帯端末で電子メールを利用したいという需要は以前からあった。しかし、現在では携帯電話でのメールサービスが充実してきたこともあり、はたしてPDAでメールを利用する意義があるのか疑問を感じることも多い。

電子メールは目的ではなく、あくまでも手段だ。メールの内容を読んだり、返信さえできればいいわけで、本来利用する機器にこだわる必要はない。もちろん、送受信記録を残すというのは前提となるが、どういったスタイルで電子メールと付き合うかということのほうが重要だろう。

Palmは万能ではない。したがって、本当に必要な用途は何かを見極め、Palmの役割を割り切ること大切だ。Palmで電子メールを始める前に、自分が電子メールに何を求めているのかを、もう一度確認してみるといい。

そこで、まずは現在の電子メールサービスの現状を簡単に紹介しておこう。

### パソコン

電子メールサービスは、本来TCP/IPプロトコルをベースとしたインターネットに接続されたコンピューター間で、文字メッセ

ージのやり取りをすることを目的として誕生した。パソコンでの利用は歴史も古く、現在では多くの高機能な電子メールソフトがリリースされている。

キーボードによる文字入力ができるので、長文メールの作成や送信も可能だ。ただし、インターネットに接続していないとメールを送受信できないので、最近は改善されてきたとはいえ、インターネットへの接続料金がいまだに高額な日本国内では、常時接続して電子メールの受信をチェックするというのはコスト的に難しい。

### メール端末

以前は、電子メールを利用するにはパソコンが必要で、パソコンの操作に慣れていない人やパソコンを持っていない人は利用することができなかった。また、電子メールをいつでもどこでも使いたいという潜在的な需要もあった。そのような状況で登場してきたのが、小型軽量で不要な機能を大幅に絞り込んだメール端末である初代ポケットボードだ。格安に利用できる“10円メール”などのサービスも登場し、OLや女子学生といった若い女性を中心に爆発的なヒットとなった。

携帯電話やPHSと組み合わせて利用するものがほとんどで、端末自体もメーカーではなく、携帯電話事業者が主導して販売している。乾電池で駆動するものが多く、パソコンと比べるとバッテリー駆動時間も大幅に長い。基本的にキーボードを搭載しており、文字入力はタイピングで行う。しかし、パソコンのように打ちやすいキーではないし、日本語の変換効率もパソコンには遠く及ばない。

最近では、携帯電話の電子メールと組み合わせて利用する、専用のメール端末も登場している。

### 携帯電話の電子メールサービス

携帯電話には、早い時期から独自の文字メッセージサービスが、付加機能として提供されていた。そのなかで、昨年春の登場以来、若者を中心に爆発的に普及してきたのが、ポケット通信をベースとして低価格で利用できる、NTTドコモのiモードだ。

iモードメールは、通常のメールとは異なり、携帯電話が圏外でない限り、メールがサーバーに届いたら自動的に配信されるプッシュ型のサービスだ。つまり、送信者がメールを送信してから、ほとんどタイムラ



グなしで受信できるという利点がある。

携帯電話の電子メールサービスでは先行していたJ-PHONE、国際標準のWAPを採用している日本移動通信(IDO)、DDIセルラー、ツーカーグループなども、電子メールサービスを拡充しているところだ。今では、利用料金などのサービスの差こそあるが、すべての事業者が電子メールサービスを提供している。

ただし、サービスによっては200文字前後と、メール本文の文字数にかなりの制限がある。また、メールを書く場合には、ダイヤルボタンを使って日本語入力しなければならない。最近では、iモード電話機用のキーボードなども発売されているが、漢字変換などは電話機内蔵の機能を使うことになる。パソコンと比べれば、どうしても日本語入力が大きな壁といえるだろう。

とはいえ、文字数の少ない簡単な連

絡程度なら、十分実用にはなるはずだ。携帯電話での電子メールの普及によって、電話機自体の液晶の大型化や日本語変換効率の向上なども図られてきた。今では、外出先での電子メールは、閲覧だけでなく送信に関しても携帯電話で十分とするユーザーも増えてきている。

ただし、普及のスピードにサービス提供側のシステム増強が追いつかず、地域や時間帯によってはメール配信の遅れなどが目立ってきている。

### 電子メールの転送サービス

携帯電話のメールサービスをさらに重要なものにしていくのが、プロバイダーの付加サービスとして用意されているメール転送サービスや、EmCmなどが提供している携帯電話向けの分割転送サービスだ。これは、パソコンで利用している電子メールを

携帯電話に転送するサービスで、電子メールがサーバーに届いたときに、ほとんどタイムラグなしに携帯電話でメールを受信することができるようになる。

ただし、携帯電話のメールサービスは、文字数の制限があるので全文を読むことはできないし、パソコン向けに送信したメールは、整形していないと携帯電話では読みづらい。とはいえ、携帯電話を電子メールの着信ベルのように利用することはできるようになるわけだ。常時インターネットに接続することがコスト的に難しい日本では、タイムラグなしにメールの着信を知ることができるというのは、ある意味では非常にありがたい。

また、EmCmなどの分割転送サービスを利用することで、文字数制限を超えたメールを分割し、携帯電話で読みやすいようにメールを整形することも可能だ。

## 外出先でのメールとの付き合い方

このような現状を踏まえて、外出先で電子メールをどのように利用するかを検討してみよう。

携帯電話のメールサービスの普及で、簡単な連絡なら、あえて外出先でパソコンやPDAを利用する必要性は薄れてきている。また、長文のメールや大量のメールの処理は、パソコンで利用したほうが便利ことが多い。これらの中間的位置付けとなるPDAで、はたしてメールを使う必然性はあるのだろうか。

携帯電話のメール利用では文書作成能力が物足りないし、ノートパソコンを使う場合でも、立ちながらは無理なので、イスに座って操作する必要がある。つまり、パソコンをサポートするというかたちでPDAを活用すれば、より快適にメールと付き合うことができるはずだ。

そこで、ここではPalmでメールを使う場合の、3つのスタイルを提案しよう。

### パソコンのメールとPalmのメールを完全連携

パソコンのメールを持ち出して、Palmでメールを読む。外出先で書いた返信の下書きを、帰宅後にパソコンで清書してから送信する。PalmのHotSync機能を、メールにも適用して運用するスタイルだ。

### パソコンの大量の未読メールをPalmで処理

実際には、すべてのメールについて返信が必要なわけではない。メールマガジンやメーリングリストなど、普段は返信をささずに読むだけというメールも多いのである。前者は、メールニュースサービスのように長文のメールとして配信される場合が多い。また後者は、大量のメールが送られてくるので、パソコンに向かっているときだけでは読む時間が足りないと感じている人もいるだろう。これ

らをPalmに取り込んで、移動中や待ち時間に処理する。

### モバイルメール端末として携帯電話と組み合わせ活用

携帯電話の転送サービスを活用して、外出先では携帯電話でメールを読む。Palmは、移動中やちょっとした待ち時間に、返信や長文閲覧、大量閲覧など、補助的に利用する。手軽かつ格安に利用できる通信手段を用意する必要はあるが、携帯電話やノートパソコンと使い分けて運用する。

Palmユーザーにとって、メールをどう活用するかは、もっとも関心の高い事柄だろう。とはいえ、メールの利用の仕方は人それぞれだ。利用目的を明確にして、自分に合ったスタイルを確立してはじめて、“メールの達人”になれるのである。



## Part. 2

# Palmでメールを持ち歩く

Palmの最大の特徴は、母艦であるパソコンとの連動だ。したがって、パソコンのメールを持ち出してPalmで読むというのは、Palmユーザーにもっとも利用されているメール活用のスタイルだろう。ここでは、標準のメールアプリケーションだけでなく、いくつかのPalmwareを利用したメール活用の方法を紹介しよう。



## Palm標準のメールコンジットでパソコンと連携

Windows版の「Palm Desktop」には、パソコン用の電子メールソフトとPalm標準のメールアプリケーションとで、データの同期を行う機能(メールコンジット)が搭載されている。これは、パソコンのメールソフトから未読メールをPalmへ移動して、Palmデバイス上で読めるようにする機能だ。そして、Palmで読んだメールは、次にHotSyncしたときに、パソコンのメールソフト上でも既読属性となるのである。

使い方は簡単で、パソコンとPalmをHotSyncさせるだけ。あとは、好きなときにパソコンでメールを読み、外出前と帰宅後にはHotSyncすることを忘れないように

すればいい。

パソコンの前にいられる時間が短く、自宅や職場でゆっくりとメールを読んでいる暇がないという人に向けた利用スタイルといえるだろう。

このような、Palmとパソコンのメールを連携する機能は、メール用のコンジット(Conduit)で実現されている。コンジットは、Palmとパソコンの間でデータの仲介をするソフトだ。しかし、ひと口にパソコン用のメールソフトといっても、「Outlook Express」, 「Netscape Messenger」, 「Eudora」, 「Lotus Notes」, 「Becky! InternetMail」など、Windows用のソフトだけでも非常に多くの

種類が存在する。自分の使っているメールソフトではコンジットが対応していない、あるいは開発中で利用できない、正常に動作しないなどということも意外に多いのである。

また、Macintosh版のPalm Desktopには、もともとメールコンジットが用意されていない。つまり、そのままではパソコンとのメールの連携は不可能で、サードパーティー製のメールコンジットを使わなければならないのだ。

そこで、WindowsとMacintoshそれぞれについて、すぐにも使える代表的なソフトを中心に、Palmデバイスとパソコンとでメールを連携するスタイルを紹介しよう。

## Windows編

### ケース 1 MultiMailでOutlook Expressと完全連携

#### Windows標準の Outlook Express

Outlook Expressはマイクロソフトが開発したメールソフトだ。Windowsに標準で搭載されていて、しかも最新バージョンは

無料でダウンロードすることができるので、利用しているユーザーも非常に多い。

基本画面は、アカウントフォルダリスト、メールリスト、メール内容を表示する3分割された構成で、エクスプローラライクである。デフォルト設定では送信メー

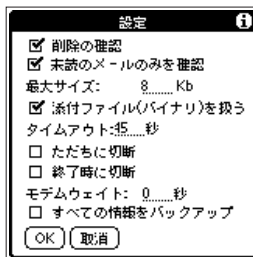
ルがHTMLメールとなっていたり、メールが取り扱う漢字コードがいきなり変更されたりと、何かと物議を醸すこともあるが、標準搭載のものとしてはまずまずの使い勝手といえるのではないだろうか。

#### MultiMailと専用コンジット

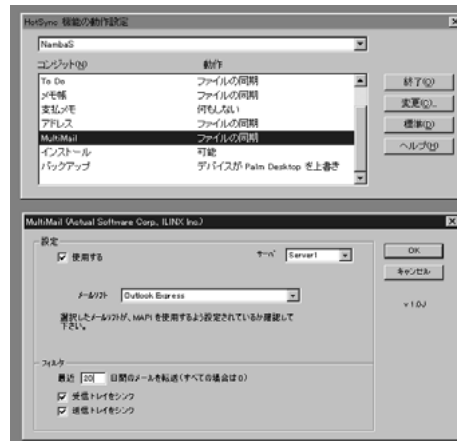
Outlook ExpressのメールをPalmと連携



Outlook Express 5.0の画面構成。このあとのHotSyncで受信トレイにある9つのメールがMultiMail側に転送されることになる



MultiMailでの同期設定



MultiMail Conduitの設定画面

させるためには、イリンクス社がリリースしているPalm用メールソフト「MultiMail for WorkPad」と、同梱の「MultiMail Conduit」を利用するというのが、安心して使える組み合わせだ。

MultiMail for WorkPadは、7月現在では単品発売されておらず、「WorkPad c(50J)」や「Decrio」、「SnapConnect/c3」のキャンペーン版を購入しないと手に入れることができないが、IMAP4や受信フィルター、フォルダー振り分けにも対応し、独自のコンジットまで付属している高機能メールソフトである。なお、MultiMail Conduitは、Netscape 4.0以降、Eudora Pro、そのほかのMAPI対応メールクライアントにも対応している。

MultiMail Conduitを利用したメールの連携は、受信メールに関しては基本的にOutlook ExpressからMultiMailへの一方向の連携となる。標準のメールコンジットや後述するShuriken Proのように、PalmのMultiMailで閲覧して既読属性としても、Outlook Expressでは既読属性にはならない。

一度Palmで読んだメールも、Outlook Express上で既読属性にしてやる手間がかかるので、運用するときには少々面倒だ。ただ、受信したメールをPalmに持っていきたいという要求は、十分達成することができるはずだ。

## MultiMail Conduitの導入

まず、MultiMail Conduitのインストールを行う必要がある。MultiMailのフォルダーに含まれる「MMCinst.exe」を起動すると、ファイルが自動的に解凍され、コンジットのインストーラーが起動する。あとはインストーラーの指示に従えば、インストールが完了する。なお、メールの同期にMultiMail Conduitを利用するので、標準搭載されているメールコンジットは、あらかじめ「同期しない」設定にしておく必要がある。

インストールが完了したら、MultiMail Conduitの設定を行う。HotSyncマネージャーから動作設定を選択する。ここでMultiMail Conduitを選択し、設定ウィンドウを表示させる。設定するには「使用する」にチェックを入れ、「メールソフト」はOutlook Expressを選択、「サーバー」はMultiMailで同期させるアカウントを選択する。「フィルター」の項目は何日分のメールをMultiMailと同期したいかによって入力値を変える。なお、「0」と入力すると受信トレイのすべてのメールを同期対象とすることになる。

その下のチェックボックスは、以下のように入力設定する。「受信トレイをシンク」は、Outlook Expressの受信トレイにあるメールをMultiMailのInboxに転送させるならオン。「送信トレイをシンク」は、MultiMail

のOutboxにあるメールをOutlook Expressの送信トレイに転送させるならオンにする。

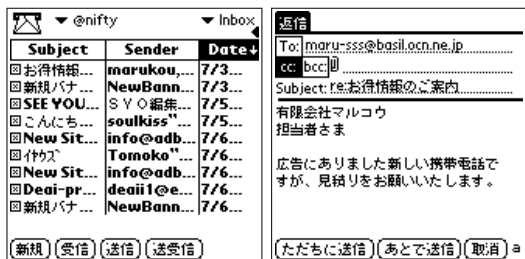
コンジットの設定が終わったら、次にOutlook ExpressでMAPIを有効にする。Outlook Express 4.xでは、ツールメニューからオプションを選択して、「Outlook Expressを通常使うメールに設定」と「簡易MAPIクライアントにする」にチェックを入れる。Outlook Express 5.0以降では、コントロールパネルのインターネットオプションを開き、プログラムタブで使用するメールプログラムを「Outlook Express」と設定すればいい。

最後に、MultiMail側の設定を行う。PalmでMultiMailを起動したら、オプションメニューから「設定」を選択して設定画面を開く。Outlook Expressの受信トレイから未読メールだけを転送したいときは「未読のメールのみを確認」をチェック、転送するメールの大きさを制限したいときは「最大サイズ」の入力値を変更すれば、制限を超える分は末尾を切り捨ててくれる。

## 実際の運用スタイル

設定が終わったら、早速メールを同期させてみよう。

MultiMail Conduitでは、受信トレイにあるメールのみが同期する対象なので、受信時に自動的にほかのフォルダーへメールを振り分ける設定にしておくと、振り分けら



MultiMailで返信メールを作成。下書き程度に書いて、あとでOutlook Expressから送信することも可能

HotSyncによって転送された9つのメール



ツールメニューのオプションで「起動時にメッセージの送受信を行う」のチェックを外しておかないと、送信トレイに転送した下書きのメールが消す前に送信されてしまうので注意すること



HotSyncによって、送信トレイに転送されたメール。MultiMailで署名登録をしておく、署名まで記載されて転送される。あとは、Outlook Expressで送信処理を行えばいいのだ

れたメールを同期することができない。逆に、同期したくないメールは、Outlook Express側で、受信時に振り分けられるように設定しておけばいいだろう。

また、返信処理や用件が完了したメールは、Outlook Express側で別のフォルダーに移動しておく必要がある。この操作を行うと、自動的にMultiMailでもInboxに残っていたメールが削除される。ここで、先にMultiMail側でメールを削除してしまうと、対応するメールがOutlook Expressの受信トレイからも削除されてしまうので注意が必要である。

あくまで、MultiMailではメールの閲覧だけにとどめておこう。

送信メールに関しては、MultiMailのOutbox(送信箱)に入れておけば、次にHotSyncしたときにOutlook Expressの送信トレイに転送される。MultiMailで返信メールの下書きを書いておけば、あとでパソコンで清書して送信することができるので、なかなか有効な使い方となる。

なお、MultiMailで書いた返信メールは、手近なところにICカード公衆電話があれば、そこから赤外線経由で送信してしまうことも可能である。MultiMailの場合は、単体でメールクライアント機能も搭載している

のだから、機会があれば試してみるといいだろう。

## なぜ、純正のメールコンジットを使わないのか

標準搭載されているメールコンジットでも、Outlook Expressには対応している。したがって、わざわざMultiMail Conduitなどを使わなくてもメールの同期を設定することが可能だ。しかし、Outlook Express 5.0の場合は、そのまま利用するとPalmの

メールアプリケーションでは、メール本文の日本語が文字化けする。これは標準のメールコンジットが、Outlook Express 5.0に対応していないために起こる現象だ。

なお、「Palmで行こう!」(<http://hp.vector.co.jp/authors/VA011708/>)にあるMakoto Tajima氏が作成した「メールコンジット(非公式)日本語対応版(mail20j.lzh)」をダウンロードして、標準のメールコンジットを置き換えてやれば、この文字化けに対処できる。

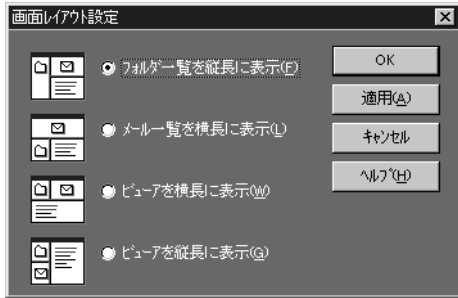
## ケース 2 Shuriken ProでPalmと完全連携

### Shuriken Pro

「Shuriken Pro」は、ジャストシステムが発売しているメールソフトで、ジャストシステムのWebサイトからオンラインでのみ販売されている。価格は5800円だが、ジャストシステムのほかの製品の登録ユーザーであれば、3800円というリーズナブルな価格で購入できる。Shuriken Proには、WorkPadのメールアプリケーションと連携する機能が標準で搭載されているというのが、WorkPadユーザーにとってはうれしいところだ。

インターフェースや操作感は、シンプルかつ軽快な動作で人気のメールソフト「Becky! InternetMail」によく似ている。Becky!を愛用しているユーザーなら、すぐに使いこなせるだろう。動作は、Becky!より多少遅いものの、メールソフトとしては軽快な部類に入る。

メールをブラウズする画面は、ウィンドウを3分割したスタイルが基本だ。しかし、分割の方法をあらかじめ用意された4種類の中から選択することができるので、いままで自分が使っていたメールソフトの画面にある程度は近づけられるはずだ。



画面構成を4つの中から選択できる



同梱のShuriken AddressBook

また、ウィンドウのカラーも、あらかじめ用意されたデザインの中から選択することができる。

そのほかの機能では、PostPetメールだけをサーバーから削除しない設定や、携帯電話のメールアドレス向けに送信する際に、文字制限を確認してくれる機能などがある。パッケージにはネットワーク対応のスケジューラーソフト「Sasuke」も同梱されているが、残念ながらPalmとHotSyncする機能は持っていない。

ほかのメールソフトからの乗り換えも考慮されており、Outlook Express、Internet Mail、Netscape Messenger 4.01以降、Netscape Mail 3.0、Becky! InternetMail 1.25、FullBand、Eudora Pro 3/4、Just Mail 2.0など、かなりの数のメールソフトに対応している。そのほかのメールソフトでも、データをCSV形式に変換してからShuriken Proに取り込むことができる。

## Shuriken Proによる連携の仕組み

Palmデバイスとのメール同期には、「WorkPad対応追加コンポーネント」に含まれるShuriken MailとShuriken AddressBookという専用コンジットを利用する。これらをインストールすると、Palm Desktopに標準搭載されているアドレスとメールのコンジットファイルが利用できなくなる。した

がって、Palm Desktopのアドレスを利用しているなら、Shuriken AddressBookはインストールしないほうがいいだろう。

Shuriken Proとのメール同期には、Shuriken Pro上に設定したアカウントのメールボックスをひとつだけ設定できる。デフォルトは、最初に設定したアカウントの「受信箱」だが、同期したいメールだけを選別したいなら、「WorkPad同期用」などの名前で新たにメールフォルダーを作るといいだろう。

同期内容は、さすがに標準で連携機能を提供しているだけあって、ユーザーが指定した同期用のフォルダー以外に「送信待ち」、「書きかけ」の2つのフォルダー（WorkPadのメールではそれぞれ「送信」、「下書き」）も同期対象となる。この2つのフォルダーの同期は、WorkPadからShuriken Proへの一方通行だが、これらはPalmで下書きしたメールをパソコンに転送するために使われるので、これでいいだろう。

また、Shuriken AddressBookのアドレスの同期は、Palmのアドレスデータの категорияが反映されずに、AddressBookではすべて「WorkPad」というカテゴリに入る。Shuriken Proで新規に作ったアドレスは、Palmのアドレスでは「未分類」カテゴリとなるようだ。

ちなみに、Shuriken ProのPalmとの連携機能は、日本IBMが発売しているWorkPad

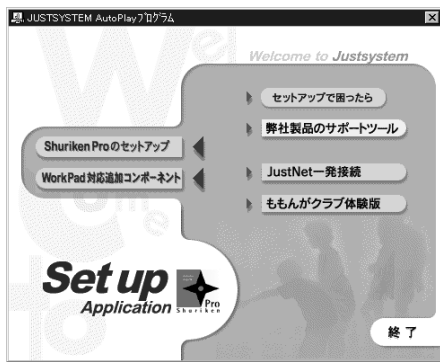
に添付されている、「WorkPad版Palm Desktop」専用となっているので、それ以外のPalm Desktopでは動作保証外となる（具体的には、アドレスの連携ソフトが動作しない）。

なお、@niftyのFPALMのライブラリー（<https://iw.nifty.com/iw/nifty/fpalm/lib/5/37.html>）に収録されている「SPorPm01.exe（Shuriken Pro用PD(E)対応DLL）」を導入すると、WorkPad版以外のPalm Desktopでも、「WorkPad対応追加コンポーネント」を使用して、Shuriken Proのメールやアドレス帳との同期を行えるようになる。このモジュールは@nifty会員ならダウンロードできるようになっているので、@nifty会員は試してみるといいだろう。

## Shuriken Proの導入

Palm Desktopを導入してあるパソコンに、Shuriken Pro、WorkPad対応追加コンポーネントを続けてインストールすれば、インストールは完了だ。

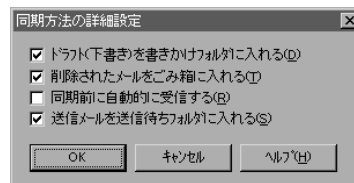
インストールが完了したら、Shuriken Mail Conduitの設定を行う。HotSyncマネージャーから動作設定を選択する。ここでShuriken Mailを選択し、設定ウィンドウを表示させる。同期内容は、「ファイルを同期」を選択すればいい。ここで、「ShurikenがPalmを上書き」を選択すると、Palmへの一方転送となる。同期対象の



Shuriken Proのインストール画面



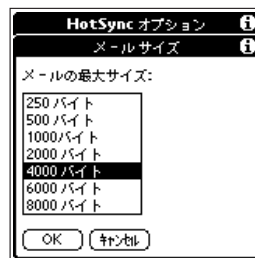
Shuriken Mail Conduitの設定画面



Shuriken Mail Conduitの詳細設定画面



メールアプリのHotSyncオプション設定画面。未読を選んでおくと、未読のメールだけがPalmに転送される



メールアプリのHotSyncオプション設定で、メールのサイズを設定できる



サイズをオーバーして、末尾がカットされたメール本文

設定項目では、同期させるアカウントとメールボックスを選択する。

次に詳細設定ボタンを押して、同期方法の詳細設定を行う。設定は次のような意味を持つ。

- ・ドラフト(下書き)を書きかけフォルダに入れる

WorkPadで「下書き」「ドラフトフォルダ」に保存したメールを、Shuriken Proの「書きかけフォルダ」に転送する。

- ・削除されたメールをゴミ箱に入れる

WorkPad上で削除したメールを、Shuriken Proでもいきなり削除させないで、ゴミ箱に移動する。オフにしておくと、誤ってWorkPadで削除してしまったメールがShuriken Proでも削除されてしまうので、念のためオンにしておくといいだろう。

- ・同期前に自動的に受信する

HotSyncする前に自動的にメールチェックを行うので、常に最新のメールがWorkPadに同期されるようになる。しかし、この設定だとHotSyncのたびにインターネットに接続してしまうので、インターネットに常時接続していないなら、オフにしておくほうが無難だろう。

- ・送信メールを送信待ちフォルダに入れる

WorkPadで作成して送信箱に保存したメールを、Shuriken Proの「送信待ちフォルダ」に転送する。

以上で、Shuriken Mail Conduitの設定は完了である。

最後に、WorkPadのメールアプリケーションの設定を行う。WorkPadでメールを起動したら、オプションメニューからHotSyncオプションを選択して設定画面を開く。Shuriken Proの「同期用フォルダ」から未読メールだけを転送したいときは「未読」を、すべてのメールを同期したければ「すべて」を選択する。ここで「フィルター」を選択すれば、WorkPadで読み込むメールを宛先、差出人、件名とメールサイズでフィルタリングすることができるが、フィルターは1種類しか設定することができないので、簡単なものしかかけられない。また、サイズボタンをタップしてメールの最大サイズを指定すると、同期するメールを大きさによって制限することができ、制限を超える分は末尾を切り捨ててくれる。

以上で、メールの同期の準備はすべて完了である。

### 実際の運用スタイル

設定が終わったら、メールを同期させて

みよう。

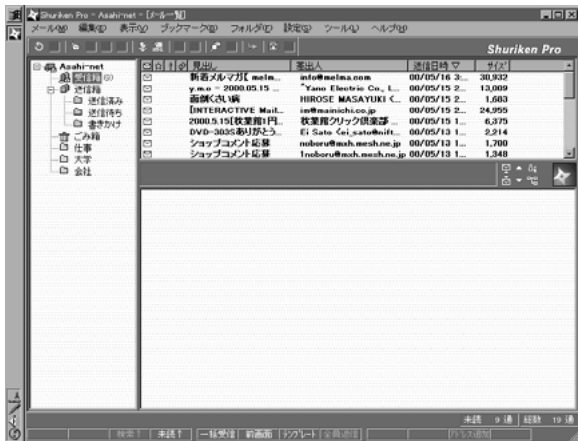
Shuriken Mail Conduitでは、同期させるフォルダを選択することができるので、専用の同期フォルダを作って同期したいメールだけを入れておけばいい。あるいは、受信箱をそのまま同期するフォルダに指定して、同期させたくないメールだけ受信フィルターをかけて、ほかのフォルダに振り分けてしまってもいいだろう。

メールの同期に関しては、未読・既読情報やフィルター、新着メールの有無など、どれをとっても設定したとおりに完璧に処理される。

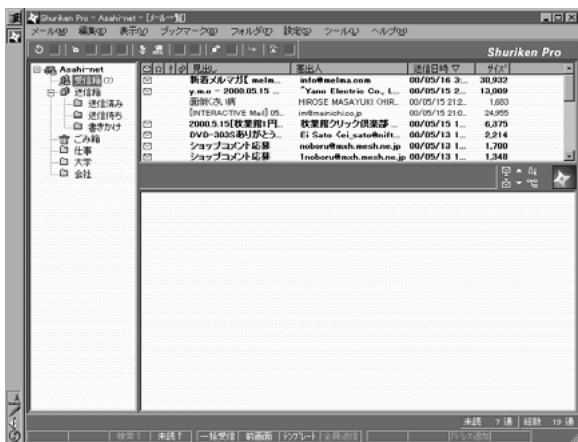
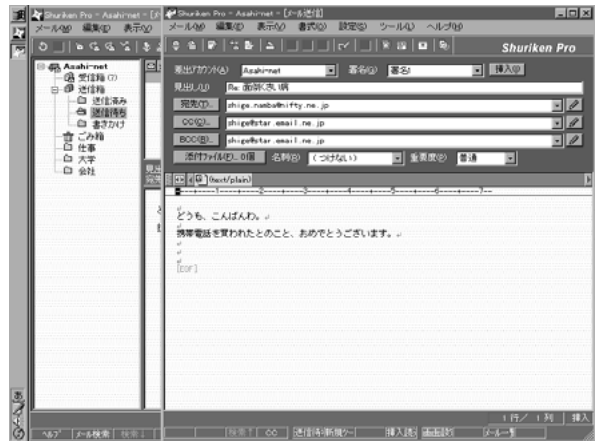
書きかけメールや送信待ちフォルダに転送したメールも、自分で送信処理をしない限り、誤って送信してしまうこともないので安心だ。

Shuriken Proは、一度設定さえしてしまえば、Palmとパソコンの両方で快適にメールを使えるようになる。特に連携に関しては、一度運用を始めてしまえば、まったく意識することなく使えるという点で優れている。

設定自体も簡単なので、パソコンのメールソフトを乗り換えてでも利用したいシステムといえるだろう。今後は、アドレス帳の連携部分の改善に期待したい。

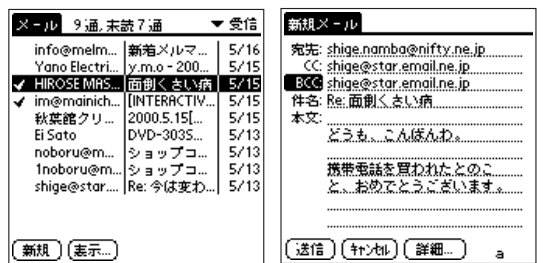


Shuriken Proのメイン画面。同期すると、9通の未読メールをPalmに転送することになる



Palmで読んだ2通のメールも、再び同期するとShuriken Proで既読になっている。そして、Palmではその2件のメールが削除されている

WorkPadのメールアプリケーションで作成した送信メールは、同期するとShuriken Proの送信待ちフォルダに転送される。TO、CC、BCC、本文に至るまで、完璧に連携できている



同期してPalmに転送された9件の未読メール。2件を既読してみた

## Macintosh 編

### ケース 3 ARENAのメールをPalmと完全連携

#### ARENA Internet Mailer

「ARENA Internet Mailer」は、アリーナプロジェクトが開発・販売しているMac用の電子メールソフトだ。同社のホームページ(<http://www.arena-p.co.jp/>)で、オンラインのみの販売が行われており、価格は3800円である。

受信箱などのメールボックスは、Macユーザーが慣れ親しんだFinderによく似た直感的なインターフェースで、あたかもMacのデスクトップがARENAのウィンドウにすっぽり収まっているようにも見える。お気に入りの画像をウィンドウに貼り込んだり、

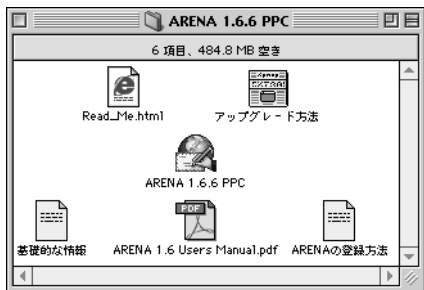
見た目のカスタマイズも可能なので、自分の気に入ったメールソフトに仕立てていくこともできる。

マルチアカウント対応だが、メールアカウントごとにPOP、SMTPサーバーなどの情報を設定するのではなく、普段利用する送信(SMTP)サーバーのセットに、複数の受信(POP)サーバーを登録するという少々変わった設定方式である。そのおかげで、マルチアカウント使用時にミスしやすいSMTPサーバーの取り扱いを、比較的簡単に済ませることができる。

また、受信フォルダーなどの書簡箱は、アカウントごとに持つのではなく、Outlook

Expressのように受信箱(Inbox)、送信箱(Outbox)などが、ひとつのウィンドウで一元管理される。ほかにも、PostPetのメールを受信したときは、サーバーから削除しない設定にすることも可能である。趣味でPostPetを利用しているユーザーも多いだけに、うれしい配慮だ。

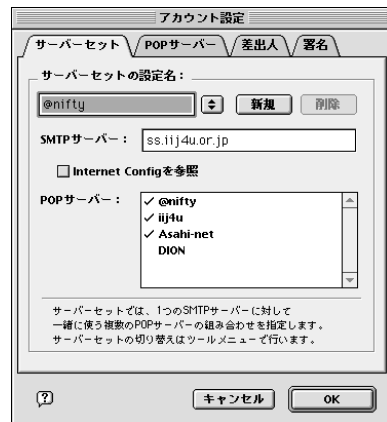
主要なメールソフトからの受信簿の移行に関しても、Eudoraファミリー、Netscape Communicator、Netscape Navigator 3.01、Outlook Express 4.x、PostPet、クラリスメール 2.0などに対応している。また、Outlook Express 5.xからメールデータを読み込むことはできないが、一度RFC822形式のファイルに変換してやることで移行できる。



ARENA Internet Mailerのファイルの中身



ARENA Internet Mailerの標準画面



ARENA Internet Mailerの独特なサーバー登録画面

## ARENA Sync! による 連携の仕組み

「ARENA Sync!」(福本修仁氏作)は、ARENA Internet Mailerと、Palmに標準搭載されているメールアプリケーションのデータを同期させるためのコンジットだ。7月には、正式版となるv1.0が登場している(本稿執筆時点の最新バージョンは、v1.0.2)。なお、ARENA Sync!は、「Unlimited Mac&Palm」(<http://www.umap.net/>)から入手できるシェアウェアで、オンラインでの登録ではUS12ドル、銀行振込では1400円となっている。

このバージョンのARENA Sync!では、以下のような同期機能が搭載されている。

- ARENAの指定された複数のメールボックス内の未読メールをPalmへ転送
- Palmのメールソフトで読んだメールは、ARENAでも既読となる
- ARENAで読んだメールはPalmから削除
- マルチパートのHTMLメールは、テキスト部分だけをPalmに転送
- Palmで作成し「送信」に保存したメールは、ARENAのOutboxに転送
- 大きなメールは、約32KBごとに分割してPalmに転送
- ARENAのメールにフィルターをかけ、整形して転送することも可能

特に目を引く機能は、同期するメールボックスを複数指定することができる点と、転送するメールにフィルターをかけられる点である。フィルターは、メールボックスごとにオン/オフを設定することができ、あらかじめメールマガジンであるMacWireとまぐまぐメールのフィルターが同梱されている。これらを使用すると、広告などの定型の行をある程度削除することができるので、閲覧性が大幅に向上する。また、同時にメールサイズを幾分小さくすることも可能なので、たいへん有効な機能だ。フィルターは新たに設定することも可能なので、ほかのメールマガジンを購読している人は新たに作成してみるといいだろう。

なお、現在のバージョンでは、Palmのメールアプリケーションで作成し、「下書き」に保存したメールの同期はサポートされていない。

## ARENA Sync! の導入

まず、ARENA Sync!をインストールする前に、ARENA Internet Mailerが正しく導入されていることが前提だ。特に問題がないようなら、ARENA Sync!のアーカイブを解凍して、その中に含まれる「ARENA Sync!」を「Palm」フォルダー内の「コンジット」フォルダーの中へ移動する。

次に、HotSyncマネージャーを起動して、

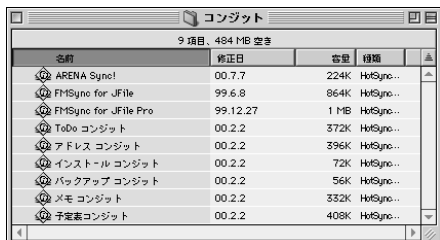
HotSyncメニューから「コンジットの設定」を選択する。コンジットのリストから「ARENA Sync!」をダブルクリックして、ARENA Sync!の設定画面を開いて同期の設定を行う。「メールを同期する」を選択すると、前述のARENA Sync!の同期機能がすべて適用される。「ARENAのメールで置き換え」を選択すると、ARENAからPalmへの一方向への転送となる。なお、右の「標準にする」ボタンを押すと、選択したオプションがデフォルトとなる。

次に、ユーザー設定ボタンを押して、ARENAのユーザー設定ファイルを読み込む。通常は、ARENAのフォルダーから、Users、Mainとフォルダーをたどったところにある「ARENA Settings」を設定すればいいだろう。その下のメールアドレスは、PalmからARENA Internet Mailerに転送するメールの、「From」に設定したいメールアドレスを入力する。

最後に、メールフォルダーの「追加」ボタンを押して、同期させたいメールフォルダーを選択する。

例えば、Inboxを同期させるならARENAのフォルダーからUsers、Main、Top、Inboxとフォルダーをたどったところにある「Inbox.toc」ファイルを選択する。なお、整形フィルターを利用するときは、各メールフォルダーの右側の部分をダブルクリッ





ARENA Sync!は「コンジット」フォルダーの中に移動する



ARENA Sync!の設定画面で、ユーザーファイルを選択する



同期するメールフォルダーは複数選択でき、その右側をダブルクリックすると、整形フィルターの指定ができる



Palmで作成して「送信」に保存しておいたメールは、同期するとARENA Internet MailerのOutboxに移動する。表題、TO、メール本文のほかに、CC、BCC、署名、メールの重要度まで同期されている

Palmで作成したメールの、詳細項目のBCC、優先度、署名も反映される



作成したメールは「送信」に保存する

クシ、整形フィルターのファイルを指定すればいいのだ。

## 実際の運用スタイル

設定が完了したら、メールの同期をさせてみる。同期させる前に、ARENA Internet Mailerを終了させておこう。

ARENA Sync! では、前述の通り複数のメールボックスと同期させることができるので、あらかじめ受信したメールを振り分けて管理していても問題はない。整形フィルターを利用するときは、各メールボックスにフィルターをひとつしか割り当てることができないので、メールマガジンごとに細かく振り分けてしまったほうがいいかもしれない。ただし、未読のメールしか転送することができないので、一度中身を見てしまったメールをPalmに転送させたいときは、未読に設定し直す必要がある。

メールの同期に関しては、未読・既読情報やフィルター、新着メールの有無など、設定したとおりに完璧に処理される。ただ

し、下書きメールだけは転送されないで、「下書き」ではなく「送信」に保存しておいたほうがいいだろう。また、現バージョンでは、複数の宛先(To:)、Reply-To、CC、BCCなどは一切サポートしていないとの記載があるが、試してみた限りでは、CC、BCC、署名、メールの重要度まで含めて同期されていた。

ARENA Sync! は、メールの整形まででき

てしまう、たいへん高機能なコンジットである。現在でも、Mac用Palm Desktopには純正のメールコンジットが搭載されておらず、涙を流してきたMacユーザーには待ちに待ったソフトといえるだろう。メールソフトを乗り換えるというハードルはあるが、Palmとの連携機能は万全かつ正式サポートが開始されているので、ぜひ導入をお勧めしたいシステムだ。

## ケース4 PostinoのメールをPalmと完全連携

### Postino/Palma/Classic

「Postino」は、システムクリニック(<http://www.syscli.co.jp/>)が開発・販売しているMac用のメールソフトだ。ドラッグ&ドロップに対応し、軽快な操作感を持つPostinoを中心に、外観デザインの変更や着メロ、便箋機能など楽しく使えるインターフェースを持つ「Postino Palma」、若干機能を限定したフリーウェア版である「Postino

Classic」の3つのラインアップが用意されている。

メールの基本機能は、PostinoとPostino Palmaではほとんど同じで、自動振り分け、PostPetのメールを削除しない、クリッカブルURL、クリッカブルアドレス機能が搭載されている。受信フォルダーなどの書簡箱は、ARENA Internet MailerやOutlook Expressと同じように、アカウントごとではなく一元管理される方式だ。

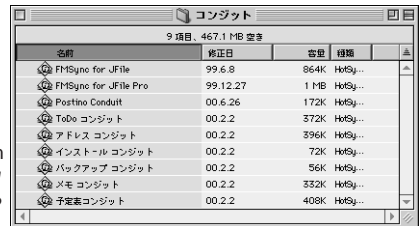
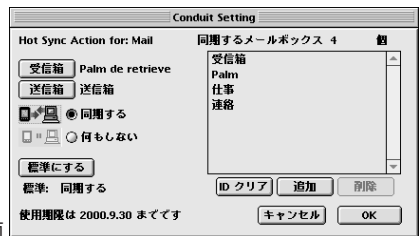


Postino Palmaのファイルの中身



Postino Palmaの通常画面。メールリストや本文表示部分はおとなしいのだが、ウィンドウ自体の外観はかなり賑やかだ

Postino Conduitの設定画面



Postino Conduitは、Palmフォルダーの中の「コンジット」フォルダーに移動することでインストールされる

## Postino Conduitによる連携の仕組み

「Postino Conduit」([http://www.syscli.co.jp/other\\_products/postinoconduit.asp](http://www.syscli.co.jp/other_products/postinoconduit.asp))は、Postino、Postino Palma、Postino ClassicとPalm標準のメールアプリケーションのデータを同期させるためのコンジットだ。システムクリニックの藤井氏が開発しており、現在公開されているバージョンは開発中の版のため、試用期限が設けられている。動作保証されていないので、利用するときはメールデータをバックアップするなどの注意が必要だ。

Postino Conduitには、以下のような同期機能が用意されている。

- Postinoの指定された複数のメールボックス内の未読メールをPalmへ転送
- Palmのメールアプリケーションで読んだメールは、Postinoでも既読とする

- Postinoで読んだメールは、Palmから削除する
  - Palmで作成し「送信」か「下書き」に保存したメールは、Postinoの指定したメールボックスに転送
  - 32KBを超えるメールもPalmに転送可能
- ARENA Sync!と同じで、同期するメールボックスを複数指定できるので、あらかじめPostino側でメール受信時に自動振り分けしていても、同期に支障は生じない。逆に同期したいメールだけを取り出せるように、自動振り分けを細かく設定しておくといいだろう。

なお、現在のバージョンでは、Palmのメールアプリケーションで作成し「送信」か「下書き」に保存したメールの転送はサポートされているが、転送したメールが「送信」あるいは「下書き」からは削除されないようである。二重に送信したりしないよう注意してほしい。

## Postino Conduitの導入と運用

Postino Conduitを、「Palm」フォルダー内の「コンジット」フォルダーの中に移動することでインストールは完了する。次にHotSyncマネージャを起動して、HotSyncメニューから「コンジットの設定」を選択する。コンジットのリストから「Postino Conduit」をダブルクリックし、Postino Conduitの設定画面を開いて同期の設定を行おう。

まず、「同期する」を選択する。このオプションをオンにすると、前述のPostino Conduitの同期機能が利用できるようになる。あとは、同期するメールボックスを追加すれば、同期に関する設定は完了である。

設定が完了したら、あとはHotSyncするだけで、メールの同期を利用することができるのだ。

## パソコンの大量の未読メールをPalmで処理

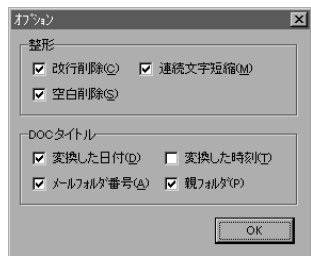
メールを持ち出すだけで返信をしなくてもいいということなら、メールをインデックス情報が付いたMeDoc形式のファイルに変換し、PalmではMeDoc互換リーダーで読むという使用スタイルもある。この処理を簡単な操作で行え、さらにインスト

ル予約まで実行してくれるソフトがいくつか公開されている。ただし、これらのソフトは、それぞれのメールソフトに1対1で対応しているため、別のメールソフトを利用している人は手動で変換する手間がかかってしまう。

### Becky!ToDoc (フリーウェア、きくお氏作)

「Becky!ToDoc」は、Becky! InternetMailで受信したメールを、メールボックスごとに未読メールをDOCファイルとして変換

し、インストール予約まで実行してくれるソフトである。複数のメールボックスを一度に処理でき、変換したメールの未読情報を既読にすることも可能だ。また、改行や半角・全角スペースの削除、同じ文字が5文字以上連続する箇所を4文字に短縮する機能まで持ち合わせた、高機能のコンバーターソフトだ。入手先は、「Tempest Palm」(<http://www.phoenix-c.or.jp/tomo/palm/>)



Becky!ToDocのオプション設定画面



Becky!ToDocの設定画面。書き出すメールボックスを選択している

## DatulaToDoc

(フリーウェア、きくお氏作)

「DatulaToDoc」は、「Datula」で受信したメールやニュースを、MeDoc形式のファイルに変換するソフトである。Becky!ToDocのように、変換したメールの未読情報を既読にする機能や、改行や半角、全角スペースの削除などの整形機能も搭載されている。入手先は、同じく「Tempest Palm」

## AIToDoc

(フリーウェア、茂木宗岐氏作)

「AIToDoc」は、AIMail32のメールボックスにあるメールを、MeDoc形式に変換するソフトである。転送するメールは、未読属性、差出人(From)、宛先(To)、題名(Subject)で指定することができる。入手先は、「M's」([http://www01.u-page.sonet.ne.jp/ja2/n\\_motegi/](http://www01.u-page.sonet.ne.jp/ja2/n_motegi/))

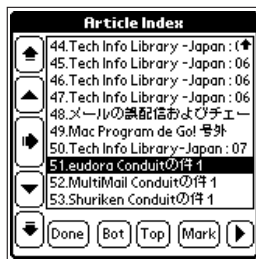
## 運用するスタイル

この方法は、MeDoc形式のファイルとして書き出しているため、MeDoc互換リーダーである「MeDoc」や「HantMeDoc」を使えば、“読む”操作自体は画面のタップだけで行うことができる。したがって、標準のメールアプリケーションとは比べものにならないほど快適である。なかでも、HantMeDocを利用すれば、表示するDocファイルの選択が片手だけでできるので、通勤電車の中でも実用的に使えるだろう。

ただし、Doc形式は、表示している内容を1画面単位でしかコピー&ペーストできない。そのため、メールの返信で送信先や引用部の加工を行おうとすると、たいへん煩雑な操作が必要となる。返信に関しては、パッサリと諦めてしまったほうがいいだろう。返信が必要な場合は、メールの同期を利用すべきだ。



書き出したDocファイルを、Palmで閲覧している



MeDoc形式のインデックスリスト



Hant MeDocのDocリスト画面

## 今後の方向性

このパートで紹介したように、特に通信手段を導入しなくても、Palmでメールを持ち出せば、パソコンで読み忘れたメールを外出先で読むことができるようになる。また、ちょっとした時間を見つけて返信メールの下書きを書くことも可能なので、帰宅後に返信を書き忘れるということも減るのではないだろうか。

外出先でのメール受信は携帯電話で十分という人には、最適な利用スタイルだろう。

アドレスや予定表と比べれば、まだまだメールの同期機能には未熟さが見られる。しかし、今回紹介したShuriken Proのように、メールソフト自体にPalmとの連携機能が搭載されているものもある。また、同じ開発元が連携部分も作成することによって、純正のメールコンジットにはない、細かい点にまで対応した同期機能が提供されるというケースもある。

電子メールソフトとしては最古参の部類

に入るEudoraなども、すでに英語版ではコンジットを同梱して、連携機能を提供している。Postinoシリーズも、開発元がメールコンジットをオプションとして用意しているので、必要になればすぐに入手できる。今後は、メールソフト側でPalmとの連携機能を提供し、ライバルソフトとの差別化を図るのがトレンドになってくるかもしれない。さらに使いやすく簡便なメール連携ソフトウェアの登場を、大いに期待したいところである。



## Part. 3

# Palmでメールをやり取りする

Palmユーザーにとっての究極のメール活用法は、Palm自体をモバイルメール端末として利用することだろう。すでに米国では、ワイヤレス通信機能を内蔵した「Palm」が発売されているが、残念ながらまだ日本では、標準で通信機能を内蔵したPalmデバイスは市販されていない。そこでここでは、携帯電話やPHSと組み合わせることによって通信機能を付加し、手持ちのPalmデバイスをモバイルメール端末に変身させるいくつかの方法を紹介しよう。



### ケース 1 SnapConnectでPalmをメール端末にする

- ・対象機種：WorkPad 30J、WorkPad c3(40J)、WorkPad c3(50J)、Palm c、PalmVx
- ・通信手段：cdma方式を除く携帯電話、PHS
- ・使用アプリケーション：POPJ、ThumbMailなど

Palmデバイスは、PDAの中でもコンパクトなボディサイズと軽快な動作を実現している。しかし、標準では携帯電話やPHS、モデムといった通信機能を搭載していないので、全モデルに共通して“Palmは通信に弱い”と言われることが多い。

しかし、「SnapConnect」を使えば、携帯電話やPHSに接続してメールチェックができるようになる。

#### SnapConnect

SnapConnectには、「WorkPad(30J)」用と「WorkPad c3(40J)」用の2種類が発売されている。本体は共にシンプルで、Palmのシリアルポートと接続するコネクタ、ModemSyncを起動するボタン、Palmと脱着するためのリリースボタン、通信時に発光するLED、そして携帯電話やPHSに接続するケーブルのコネクタがあるだけだ。ここに付属のケーブルを差し込んで、携帯電話やPHSと接続する。

SnapConnectには、単4電池2本を挿入する電池ボックスがあり、電源は本体ではな

くこの電池から供給する。データ通信中は消費電力量が多いので、電源を本体と別々にすることによって通信時間を延長させているわけだ。

付属する携帯電話・PHSとの接続ケーブルは、現在発売されているものでは、PDCタイプの携帯電話用、DDIポケットPHS用、NTTドコモ・アステルPHS用の3本が同梱されている。この3本の接続ケーブルを利用することで、cdmaOneに対応した端末を除けば、基本的にほとんどの端末を利用してデータ通信を行うことができる。ただし、WorkPad(30J)用のSnapConnectでは、NTTドコモの携帯電話・PHS複合端末であ

る「ドッチーモ」のPHSモードを用いて通信することはできないので、ドッチーモ端末利用者は注意が必要である。

なお、SnapConnect/SnapConnect c3は、物理的にシリアルポートの形状が同一である「Palm c」、「Palm vx」、「WorkPad c3(50J)」などにも装着することができるが、通常の設定方法では利用できない。これは、シリアルポートのアクセスタイミングが、Palm OS 3.5になってから微妙に変更されてしま



SnapConnect for WorkPad、3種類のケーブルが付属している



SnapConnectを使って、WorkPad(30J)とH<sup>1</sup>端末を接続したところ



SnapConnect c3を使って、WorkPad c3と携帯電話を接続したところ



SnapConnect for WorkPad c3。こちらも、3種類のケーブルが付属している

ったことによるもので、販売元のアイ・オー・データ機器は「Palm c、Palm x、WorkPad c3(50J)には非対応」とアナウンスしている。ただし、最近同社のサイトで、SnapConnectのニューモデルをショウで展示する旨のアナウンスが行われた。Palm c、Palm x正式対応版とのことなので、Palm OS 3.5ユーザーにとっては朗報だろう。

## 通信手段の設定

Palm OS 3.1搭載機:  
WorkPad(30J)、WorkPad c3(40J)など

WorkPad(30J)/c3(40J)など、販売元のアイ・オー・データ機器が動作保証をしている機種での通信設定は簡単である。まず、「IrEnhance」などを導入して赤外線通信機能を拡張している場合は、環境設定の「Serial/IR」パネルを開き、あらかじめ利用するシリアルポートを「Cradle」にして

おく必要がある(画面3-01)。次に「モデム」パネルを開き、モデムを「標準」、速度を「38,400 bps」、スピーカーを「オフ」、フロー制御を「自動」にそれぞれ設定する。コマンドは「AT&FX4」のままとし、一番下の回線選択ボタンは「プッシュ回線」をタップして選択すれば、モデムの設定は終了である(画面3-02)。

最後に接続先のプロバイダーの情報を「ネットワーク」パネルに入力する。環境設定の右上のプルダウンメニューから「ネットワーク」パネルを選択し、サービスには接続先のプロバイダー名やアクセスポイント名を記入しておく。ユーザー名とパスワードにはダイヤルアップ接続用のものを、そしてアクセスポイントの電話番号を入力する(画面3-03)。

詳細ボタンをタップして詳細設定項目を表示させ、クエリーDNSをオフ、プロバイダーのプライマリーDNS、セカンダリー

DNSをそれぞれ入力すれば、プロバイダーの設定も完了だ(画面3-04)。

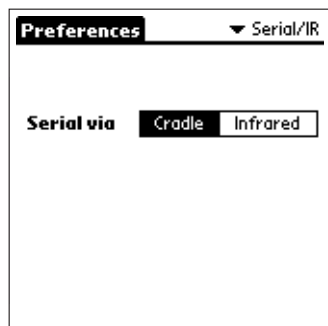
## 通信手段の設定

Palm OS 3.3以降搭載機:  
Palm c、Palm x、WorkPad c3(50J)など

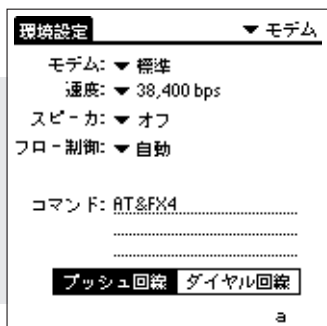
SnapConnectは、Palm OS 3.5搭載機の場合、マニュアル記載の方法では通信に使用することができない。ここでは、スクリプトを追加して利用できるようにする方法を紹介するが、メーカー保証外の使用方法となるので、すべて自己責任で行っていただきたい。

まずはじめに、環境設定を起動して、右上のプルダウンメニューから「接続」パネルを選択する(画面3-05)。次に新規ボタンをタップし、新たにSnapConnectで接続するための設定を作成する。設定画面では、接続名に「SnapConnect」と記入し、接続方法は「シリアルとパソコン」を選択する(画面3-06)。詳細ボタンを押して詳細項目を表示させ、速度「38,400 bps」、フロー制御「自動」をそれぞれ選択すれば、接続パネルの設定は終了である(画面3-07)。

次に接続先のプロバイダーの情報を入力する。環境設定のメニューから「ネットワーク」パネルを選択する。サービスには接続先のプロバイダー名やアクセスポイント名を記入し、ユーザー名、パスワードにはダイヤルアップ接続用のものを、接続の項



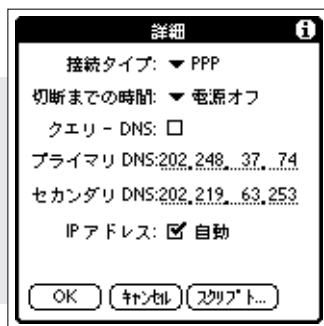
画面3-01 Palm OS 3.1では、赤外線通信とシリアルポートの切り替えを行う必要がある。SnapConnectの場合は「Cradle」にする



画面3-02 モデムパネルでの各種設定。コマンドは「AT&FX4」のままでもいい



画面3-03 ネットワークパネルではプロバイダーの設定を行う



画面3-04 ネットワークの詳細設定ではプライマリーDNSやセカンダリーDNSの設定を行う



目は先ほど作成した「SnapConnect」の設定を選択する(画面3-08)。次に詳細ボタンをタップして詳細設定項目を呼び出し、クエリーDNSのチェックを「オフ」、プロバイダーのプライマリーDNS、セカンダリーDNSをそれぞれ入力する(画面3-09)。

最後に、ログインスクリプト画面で、画面3-10のようにログインスクリプトを入力する。なお、スクリプトの4行目は「ATDT」に続いて、プロバイダーのアクセスポイントの電話番号を入力する。携帯電話で接続するときはアナログモデムのアクセスポイントを、PHSで接続するときはPIAFS対応のアクセスポイントの電話番号をそれぞれ指定する必要がある。設定が終わったら、「OK」ボタンを数回タップしてネットワークの場面まで戻れば、プロバイダーの設定は完了である。

Palm 側の設定がすべて終わったら、SnapConnectをPalmのシリアルポートに装着させ、同梱の通信ケーブルを使って

SnapConnectと携帯電話あるいはPHSを接続する。ケーブルの接続が完了したら、Palmからメールソフトを起動してメールチェックを行えば、インターネット接続が開始される(画面3-11)。

### 運用上のTips

設定も簡便で、ほとんどすべての携帯電話やPHSを用いてデータ通信を行うことができる。現在利用している電話機をそのまま流用できるので、特に追加コストは必要ない。

なお、携帯電話をデータ通信に利用するときには、後述の携帯電話専用のアクセスポイントを利用して接続時間を短縮すると、データ通信費用の節約になるだろう。

また、NTTドコモのPHSを利用するときには、通信する場所がPIAFS 2.0の64Kbps通信に対応しているかないかで設定を変えたい。PIAFS 2.0の64Kbps通信に対応していない場合は、電話番号の末尾に「#32」

を追加する。例えば、PIAFSアクセスポイントの電話番号が「XXXX-YY-ZZZZ」で、64Kbps通信に対応していない場合に、4行目は「ATDTXXXXYYZZZ#32」と入力するわけだ。

利用するメールソフトも、接続する通信機器の通信速度に応じて、全メールを受信する利用法、受信メールリストを表示させてから必要なメールのみダウンロードする利用法、徹底的にフィルターを設定して自動巡回する利用法の、どのスタイルでも好みのものを選択すればいいだろう。

また、「POPJ」を利用してメールの送受信を行う場合は、SnapConnectに搭載されているModemSync用のボタンに「POPJ Go」を割り当てておけば、Modem Syncボタンを押すだけで自動的にメールチェックを開始することができる。ケーブルを接続してボタンを押すだけで、簡単にメールチェックすることができるので、たいへん便利な使い方といえるだろう。



画面3-05 Palm OS 3.5搭載機では、環境設定の接続パネルでモデムの設定を行う



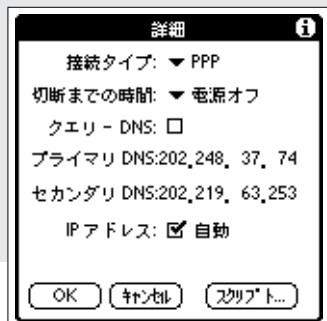
画面3-06 新規にSnapConnectの設定を作成し、接続方法はシリアルとパソコンを選択する



画面3-07 詳細設定では、速度とフロー制御を設定する



画面3-08 環境設定のネットワークパネルでプロバイダーの設定を行う。接続方法は、接続パネルで作成したSnapConnectを選択する



画面3-09 詳細設定ではプライマリーDNSとセカンダリーDNSの設定を行う



画面3-10 スクリプトは、このように設定する



画面3-11 接続を開始すると接続状況ウィンドウが表示され、進行具合がわかる

## ケース2 H"専用ケーブルでWorkPad c3(50J)をメール端末にする

- 対象機種：WorkPad C3(40J/50J) Palm x
- 通信手段：H"端末KX-PH35S/KX-PH935SとH"専用ケーブルKX-HA10
- 使用アプリケーション：PaPi-Mail、メールなど

松下電器産業九州松下電器が7月に発売したデータ通信ケーブル「KX-HA10」は、同社のDDIポケット用H"端末「KX-PH35S」あるいは「KX-PH935S」と、Palm xやWorkPad c3をケーブル1本で接続して、最大19,200bpsの速度でデータ通信が可能になる製品だ。ここでは、WorkPad c3(50J)と組み合わせた利用法を紹介しよう。



九州松下電器製H"専用ケーブルのKX-HA10



KX-HA10を使って、KX-PH35SとWorkPad c3(50J)を接続したところ

### KX-PH35S/KX-PH935SとKX-HA10

KX-PH35SとKX-PH935Sは、今年6月から発売が開始されたDDIポケット用H"端末だ。専用通信ケーブルであるKX-HA10は、KX-PH35SやKX-PH935Sに内蔵されているモデム機能を利用して通信を行う。したがって、KX-HA10を用いて、ほかのH"端末やPHSで通信することはできない。

KX-HA10には、一方にWorkPad c3のシリアルポートに接続するコネクタが、もう片方にはH"端末のデータ通信ポートに接続するコネクタが取り付けられている。ケーブルの中ほどには、パソコン用のUSB携帯電話接続ケーブルのようなボックス型ユニットがあるが、43×20×8mmとたいへん小さい。

### 通信手段の設定

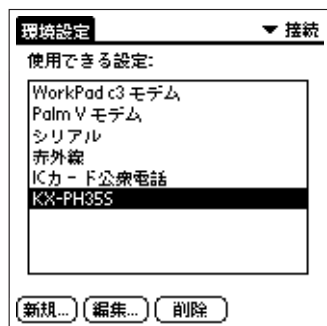
WorkPad c3(50J) Palm xの場合

通信の設定は、環境設定の各パネルで行う。まずはじめに環境設定を起動して、右上のプルダウンメニューから「接続」パネルを選択する(画面3-12)。次に新規ボタンをタップし、新たにKX-HA10とKX-PH35Sで接続するための設定を作成する。設定画面では、接続名に「KX-PH35S」と記入し、接続方法は「シリアルとモデム」、回線種別は「プッシュ回線」、音量は「小」あるいは「オフ」を選択する(画面3-13)。詳細ボタンを押して詳細項目を表示させ、速度「19,200 bps」、フロー制御「自動」をそれぞれ選択すれば、接続パネルの設定は終了で

ある(画面3-14)。コマンドの欄には、特に入力する必要はないようだ。

次に接続先のプロバイダーの情報を入力する。環境設定のメニューから「ネットワーク」パネルを選択する。サービスには接続先のプロバイダー名やアクセスポイント名を記入し、ユーザー名とパスワード、電話番号にはダイヤルアップ接続用のものを、接続の項目は先ほど作成した「KX-PH35S」の設定を選択する(画面3-15)。なお、電話番号には、PIAFS 32Kアクセスポイントのものを入力する必要がある。

最後に、詳細ボタンをタップして詳細設定項目を呼び出し、クエリーDNSのチェッ



画面3-12 環境設定の接続パネルでモデムの設定を行う



画面3-13 新規にKX-PH35Sの設定を作成する。接続方法は「シリアルとモデム」を選択し、そのほか回線種別や音量の設定を行う



画面3-14 詳細設定では、速度とフロー制御を設定する。コマンドは未入力のみでいい



画面3-15 ネットワークパネルではプロバイダーの設定を行う。接続方法はKX-PH35Sを選択し、電話番号もここで入力する



クを「オフ」、プロバイダーのプライマリーDNS、セカンダリーDNSをそれぞれ入力する。設定が終わったら、「OK」ボタンを数回タップしてネットワークパネルの画面まで戻れば、プロバイダーの設定は完了である。

## 通信手段の設定

### WorkPad c3(40J)の場合

WorkPad c3(40J)では、設定する場所が少々異なるが、ほぼ同じように設定することができる。まず、「IrEnhance」などを導入して赤外線通信機能を拡張している場合は、環境設定の「Serial/IR」パネルを開き、あらかじめ利用するシリアルポートを「Cradle」にしておく必要がある。次に「モデム」パネルを開き、速度を「19,200 bps」、スピーカーを「オフ」、フロー制御を「自動」、国を「日本」にそれぞれ設定する。コマンドはすべて消去し、一番下の回線選択ボタンは「プッシュ回線」をタップして選択すれば、モデムの設定は終了である。

最後に接続先のプロバイダーの情報を「ネットワーク」パネルに入力する。環境設定の右上のプルダウンメニューから「ネットワーク」パネルを選択し、サービスには接続先のプロバイダー名やアクセスポイント名を記入しておく。ユーザー名とパスワードにはダイヤルアップ接続用のものを、さらにアクセスポイントの電話番号を入力する。詳細ボタンをタップして詳細設定項目を表示させ、クエリーDNSを「オフ」、プロバイダーのプライマリーDNS、セカンダリーDNSをそれぞれ入力すれば、プロバイダーの設定も完了である。

## ケーブルの接続とH"端末の設定

WorkPad c3側の設定が終わったら、WorkPad c3のシリアルポートとKX-PH35SのDATA64コネクタに、通信ケーブルKX-HA10の両端のコネクタを接続する。このとき、PHS側はコネクタ部のPUSHボタンを背面に向けて接続する必要がある。

ケーブルで接続したら、H"端末のKX-PH35Sから、「機能」4「5」と続けてダイヤルボタンを押し、データ通信ケーブルの設定を変更する。上下ボタンで「ON」を選択して決定ボタンを押すと、データ通信ケーブルが使用できるように設定変更され、液晶画面に「データ通信ケーブル」と表示される。

あとは、WorkPad c3からメールソフトを起動してメールチェックを行えば、インターネット接続が開始される。正常に接続されると、KX-PH35Sの液晶画面に「データ通信 32kPIAFS/19.2k」と表示される。

## 運用上のTips

H"端末KX-PH35Sと通信ケーブルKX-HA10、それにWorkPad c3を組み合わせた通信システムは、非常にコンパクトだ。通信速度も19.2kbpsと、電子メールを利用する上では十分な速度が提供されているし、テ

キスト中心であればPalmscapeを利用したWebの閲覧にも転用することができそうだ。

通信ケーブルが45cmと長いので、通信中はH"端末をポケットの中に入れておくといったことも可能だ。WorkPad c3を片手でしっかり保持しながら、メールソフトを操作することができる。また、通信速度も十分に速いので、メールソフトは好みのものを利用すればいいだろう。

ただし、パソコンやほかのPDAから、同じH"端末のKX-PH35Sを利用してデータ通信する場合は、ひとつだけ注意しておくことがある。それは、データ通信ケーブルが「ON」になっているモードでは、パソコンなどからインターネット接続できないという点だ。もし、パソコンによるデータ通信にもKX-PH35Sを併用する場合は、データ通信ケーブルのモードを、そのたびに切り替える必要があるので注意してほしい。

## 割引料金をうまく利用しよう COLUMN

Palmでメールの送受信を行う場合、やはり気になるのが毎月かかるデータ通信の料金だ。送られてきた請求書を見て愕然としないためにも、自分の使い方に合わせた利用形態を考えておくべきだろう。最近では、各通信事業者が、さまざまな割引サービスを導入している。これらのサービスをうまく利用すれば、通常よりもかなり割安にモバイルライフが楽しめるはずだ。

そこで、ここではNTTドコモの割引プランの例を紹介しよう。お勧めは「パルディオデータプラス」+「ファミリー割引」だ。NTTドコモのPHSと携帯電話を組み合わせることによって、トータルではかなりの割引になる。

パルディオデータプラス 月額基本料金：1980円（1000円分の無料通話付き）  
データ通信料金

区分		区域内	隣接 20km以内	20～ 30km	30～ 60km	60～ 100km	100km超
昼間(8:00～19:00)	平日	10円 (60秒)	20円 (45秒)	20円 (36秒)	50円 (14秒)		
	土日曜・祝日	10円 (60秒)	20円 (45秒)	20円 (36秒)	30円 (20秒)	50円 (14秒)	
夜間(19:00～23:00)		10円 (60秒)	10円 (60秒)	20円 (45秒)	30円 (23秒)	40円 (16.5秒)	
深夜(23:00～8:00)		10円 (90秒)	10円 (60秒)	20円 (45秒)	30円 (23秒)	40円 (16.5秒)	

金額は1分間の通信料金、( )内は10円でかけられる秒数。

ファミリー割引適用時の割引合計額

### NTTドコモ PHS料金プラン

プラン	金額	割引額
パルディオデータプラス	1980円	1680円

### NTTドコモ 携帯電話料金プラン

プラン	金額	割引額
プランA	4500円	3820円
プランB	3500円	2970円
長得プラン	4500円	3820円
おはなしプラスBIG	9100円	7730円
おはなしプラスL	5900円	5010円
おはなしプラスM	4100円	3480円



## ケース3 NM502iでVisorをメール端末にする

- ・対象機種：Palm全機種
- ・通信手段：NTTドコモの携帯電話NM502i、NM207
- ・使用アプリケーション：POPJ、メールなど

「Visor」は、スプリングボードスロットを利用することで、Palm cやPalm xなどに比べると拡張性が高いといわれている。ただし、残念ながら現時点では、スプリングボード対応の通信モジュールはまだ発売されていないので、Visorの魅力を活かしたモバイル通信は実現できていないのが実情だ。

とはいっても、赤外線通信機能の拡張を行えば、赤外線ポートを搭載する通信機器を利用することができるようになる。現在、日本国内で利用できるこれらの通信機器は、NTTドコモの携帯電話「NM502i」とすでに販売が終了している「NM207」、それに最近では街でよく見かけるようになってきた「ICカード公衆電話」の3つだ。

VisorとNM502iという組み合わせは、実際に導入してみると、ケーブル接続なしでメールチェックができるという快適な環境が得られる。Visorでのモバイル通信にこだわるのであれば、一度検討してみる価値はあるだろう。

ここでは、VisorとNM502iを用いたモバイル通信の活用法を紹介しよう。基本的に赤外線通信は、すべてのPalmデバイスで利用できる。しかし、機種によって設定方法が異なる部分もあるので、それに関しては随時説明していく。

### NTTドコモの携帯電話NM502i

NM502iは、ノキアが製造しているNTTドコモ用の携帯電話で、iモードにも対応している。スライド式のフリップを採用しており、一部の携帯電話マニアの間でも高い人気を誇っている。

このスライド式フリップは「アクティブスライド」と呼ばれ、着信してからスライ



NM502iとVisorで赤外線通信を行う場合は、このPalm cの場合は上部に赤外線ポートが装備されているので、この向きで赤外線通信を行う

ドすれば電話に出ることができるし、スライドを閉じれば電話を切れるようになってくる。また、IrDA規格に準拠した赤外線通信機能を搭載しているので、Palmデバイスをはじめ、赤外線ポートを搭載したノートパソコンなどとワイヤレスでデータ通信を行うことができる。この機能を搭載した携帯電話は、日本国内では現在ノキア製のものしか発売されていない。

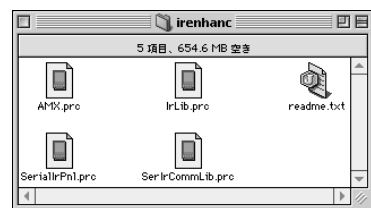
### 通信機器の設定

Visorの場合

まず、赤外線通信機能を拡張するため、

米Palm, Inc.が提供している「IrEnhance」ソフトウェアを導入する必要がある。米Palm, Inc.のサイト(<http://www.palm.com/support/downloads/irenhanc.html>)から、IrEnhanceのアーカイブ「irenhanc.zip」が、自己解凍形式の「irenhanc.exe」をダウンロードする(画面3-16)。

サイトからダウンロードしてきたファイルを解凍し、その中から「SerialIrPnl.prc」と「SerIrCommLib.prc」の2つのファイルだけを、Visorにインストールする(画面3-17)。前者は使用する通信ポートが赤外線ポートかシリアルポートかを選択するためのソフトウェア、後者は赤外線ポートをシ



画面3-17 IrEnhanceのパッケージの中身。「SerialIrPnl.prc」と「SerIrCommLib.prc」の2つをVisorにインストールする

画面3-16 Enhanced Infrared Updateのページ。Visorのユーザーも、ライセンス元である米Palm, Inc.のページからダウンロードする



リアルポートとして使用可能にするためのソフトウェアだ。

ファイルのインストールが終わったら、環境設定をタップして起動し、右上のプルダウンメニューから「Serial/IR」を選択する。ここで「Serial via」の項目で「Infrared」を選択すれば、インターネット接続を行ったときに赤外線ポート経由でアクセスすることができるようになる(画面3-18)。ただし、パソコンとHotSyncするときには、「Serial/IR」の設定を必ず「Cradle」に戻しておくこと。

次に、モデムを設定を確認する。環境設定が起動している状態で、右上のプルダウンメニューから「モデム」を選択する。ここで、モデムが標準であることを確認し、通信速度は「14,400bps」、スピーカーは「オフ」、フロー制御は「自動」、国は「その他」と選択する。コマンドは「AT&FX4」のままにし、一番下の回線選択ボタンは「プッシュ回線」をタップして選択する(画面3-19)。

これで、赤外線ポートを利用してNM502iを使用する設定は完了だ。

そして、最後に接続先のプロバイダーの情報を入力する。環境設定が起動している状態で、右上のプルダウンメニューから「ネットワーク」を選択する。まず、サービスには接続先のプロバイダー名やアクセスポイント名を記入しておく(画面3-20)。ユーザー名とパスワード(接続時に毎回入力することもできる)にはダイヤルアップ接続用のものを、電話番号にはアナログモデム用のアクセスポイントの電話番号をそれぞれ入力する(画面3-21、画面3-22)。

次に詳細設定項目で、クエリ-DNSのチェックを外してから、プロバイダーのプライマリ-DNS、セカンダリ-DNSを入力する(画面3-23)。スクリプトの項目が「終了」だけであることを確認してから、「OK」ボタンを数回タップしてネットワークの画面まで戻れば、プロバイダーの設定も完了だ(画面3-24)。

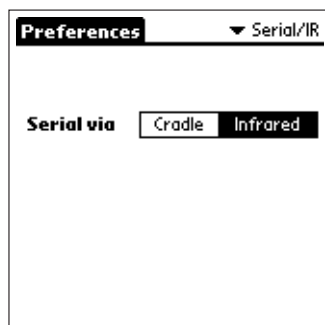
## 通信機器の設定

WorkPad(30J) WorkPad c3(40J)の場合

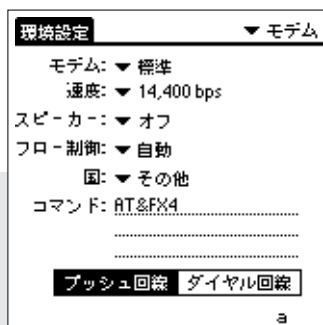
WorkPad(30J)/c3(40J)でも、Visorとほぼ同じ設定で利用することができる。ただし、赤外線通信機能の拡張の部分で、いくつかVisorとは異なる個所があるので説明しておこう。

Palm OS 3.1を搭載したWorkPadでは、最初にパソコンのPalm DesktopとHotSyncを実行したときに、赤外線HotSyncを行うための「IrSync」が環境設定にインストールされているはずだ(画面3-25)。

IrEnhanceをインストールするためには、先にIrSyncをアンインストールしておく必要がある。「IrSync」と「SerIrComm Library」という2つのファイルを削除することで、アンインストールできる(画面3-26)。もし、標準のランチャーから削除できない場合は、Katsuhiko Endo氏作のシェ



画面3-18 環境設定の「Serial/IR」パネル。ここで通信に利用するポートを選択する



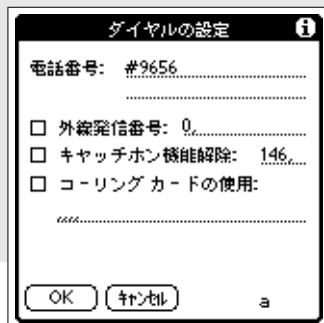
画面3-19 環境設定のモデムパネル。国の項目を「その他」にするのがポイントだ



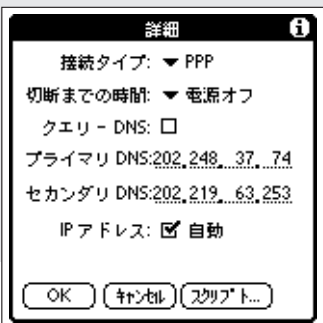
画面3-20 環境設定のネットワークパネル。プロバイダーの設定とアクセスポイントの電話番号を入力する



画面3-21 パスワードウィンドウでは、このように入力する。指定しない場合は、接続時に入力することになる



画面3-22 ダイヤルの設定画面。通常、電話番号はここで入力する



画面3-23 詳細設定では、プライマリDNSとセカンダリDNSの設定を行う



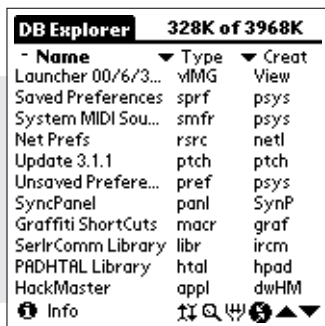
画面3-24 スクリプトは「終了」だけであることを確認しておく



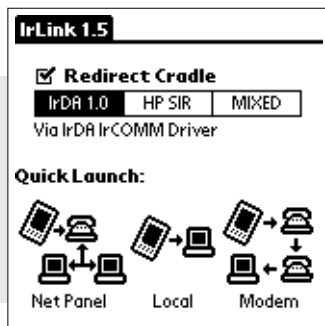
画面3-25 WorkPadにインストールされている「IRSync」ソフトウェア。「Serial/IR」パネルとは少々異なる



画面3-26 アプリケーションリストから削除画面を呼び出して、「IRSync」と「SerlComm Library」を削除する



画面3-27 DB Explorer上では「SyncPanel」と「SerlComm Library」を削除する



画面3-28 赤外線ポート/シリアルポート自動切換えソフトのIrLink

アウェア「DB Explorer」(US10ドル/1000円、入手先:Fatal Error World!! <http://www.fatal-error.com/jp/>)を使用すれば削除できる。なお、DB Explorer上では、「IRSync」が「SyncPanel」というファイル名になっているので注意が必要だ(画面3-27)。

また、WorkPadの場合はVisorと異なり、IrEnhanceに含まれる「SerialIrPnl.prc」「SerlCommLib.prc」「AMX.prc」「IrLib.prc」の4つのファイルを、すべてインストールする必要がある。

Palm OS 3.1搭載機では、HotSyncやモデムによる通信を行うときに、接続するポートが赤外線ポートかシリアルポートかを、手動で切り替える必要がある。ところが、本誌付録CD-ROMにも収録されているIS/Complete社(<http://www.iscomplete.org/>)の「IrLink」(シェアウェア、US19.95ドル)を使用すると、通信時に自動的に切

り替えることができる。Palm OS 3.1搭載機には必須のソフトといえるだろう(画面3-28)。

なお、IrLinkをインストールする前に、IrEnhanceの中の「SerialIrPnl.prc」を削除しておく必要があるので注意してほしい。

### 通信機器の設定

Palm c、Palm x、WorkPad c3(50J)の場合

Palm OS 3.3以降では、赤外線通信機能が強化されているので、赤外線通信の接続設定を行うだけで、NM502iを用いたインターネット接続が可能になる。

まず最初に、環境設定を起動して、右上のプルダウンメニューから「接続」パネルを選択する(画面3-29)。新規ボタンをタップし、新たにNM502iで接続するための設定を作成する。接続名は自分のわかりやすい名前前で構わないが、ここでは「NM502i」と

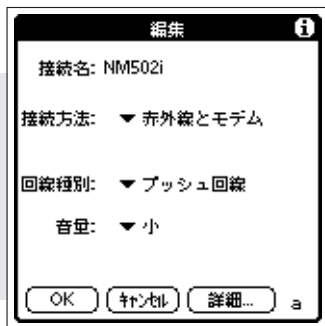
記入する。接続方法は「赤外線とモデム」の回線種別は「プッシュ回線」を選択し、音量はダイヤル時に適したものを選択する(画面3-30)。詳細項目は、速度「14,400 bps」、フロー制御「自動」をそれぞれ選択し、コマンドには「AT&F」と入力しておく(画面3-31)。

次に、接続先のプロバイダーの情報を入力する。環境設定のプルダウンメニューから「ネットワーク」を選択する。サービスには、接続先のプロバイダー名やアクセスポイント名を記入しておく。ユーザー名とパスワードにはダイヤルアップ接続用のものを、電話番号にはアナログモデム用のアクセスポイントの電話番号を入力する。なお、接続の項目は、先ほど作成した「NM502i」の設定を選択する(画面3-32)。

最後に詳細ボタンをタップし、詳細設定項目を設定する。Visorの設定方法と同様に、クエリーDNSのチェックを外し



画面3-29 環境設定の接続パネル。NM502i用の設定を新規で作成する



画面3-30 NM502iの接続設定。接続方法は「赤外線とモデム」、回線種別は「プッシュ回線」と設定する



画面3-31 詳細設定画面では速度とフロー制御を設定する。コマンドは「AT&F」と入力すればOKだが、接続が安定しない場合は「AT&F#Q3」と入力するとい



画面3-32 環境設定のネットワークパネル。プロバイダーの設定と電話番号を入力し、接続方法はNM502iを選択する



てから、プロバイダーのプライマリーDNS、セカンダリーDNSを入力する。スク립トの項目が「終了」だけであることを確認してから、「OK」ボタンを数回タップしてネットワークの場面まで戻れば、プロバイダーの設定は完了だ。

## NM502iの設定

設定が終わったら、早速インターネットに接続してみよう。まず、NM502iの赤外線通信機能設定を行う必要がある。NM502iのメニューボタンに続けて、「8」「5」とボタンを押すと、NM502iのディスプレイに「赤外線通信設定中」と表示される。この表示が消えれば、赤外線通信を利用できるようになっているはずだ。

次に、VisorとNM502iの赤外線ポート同士を向かい合うようにして、5~30cmほどの距離を保ち、Visorの環境設定にある「ネットワーク」パネルから「接続」ボタンをタップする。しばらくすると、接続状況を表示するウィンドウが表示され、インターネットへの接続が開始される(画面3-33、34)。なお、通信中に向かい合わせた赤外線ポートの向きがずれてしまっても、再度向かい合わせれば通信が再開される。ただし、ずれたままにしておくと、エラーが生じて回線は切断されてしまう。

通常はメールソフトがインターネット接続と回線切断を自動的に行ってくれるので、特に環境設定から接続ボタンをタップする必要はない。

## 実際のモバイル通信の利用スタイル

NM502iは、iモード機能を搭載した携帯電話なので、プロバイダーのメール転送サービスや公開実験中のEmCm(<http://radio.mtc.co.jp/>)のようなメール分割転送サービスを利用して、パソコンのメール着信チェックができるようにしておくが便利だ。受信したiモードメールのうち、返信が必要なメールや本文が長すぎるメールがあった場合には、Visorでメールを受信して、必要なら返信を書くようにすればいい。

また、携帯電話のデータ通信は、通信速度が9600bpsと低速だ。そのため、なるべく必要なメールのみをダウンロードし、動作が軽快なメールソフトを使用したほうが通信時間を短くすることができる。メール送受信ソフトとしては軽快な動作と強力なフィルター機能、そして自動巡回機能を持ち合わせた「POPJ」が適しているかもしれない。また、送信するメールをiモードメールとしてNM502iに転送する機能を持っている「IrMail」や「NoM502i」を併用すれば、メール送信時の通信料金を節約することも可能だ。

## 運用時のTips

1. NTTドコモの携帯電話専用アクセスポイントを利用する

NM502iはNTTドコモの携帯電話なので、プロバイダーに接続するときに、NTTドコ

モのデータ系直収サービス(<http://www.nttdocomo.co.jp/corp-user/datakei/mass.html>)を利用した専用アクセスポイントを利用することができる。これらのドコモ専用アクセスポイントは、接続までにかかる時間を約10秒程度(通常のアナログモデムのアクセスポイントに接続したときの約3分の1)に短縮することができるので、データ通信時の通話料を節約できる。また、アクセスポイントから先は専用線で接続されるため、安定した通信環境が得られる。

これらのドコモ専用アクセスポイントをもつISPは、2000年7月の段階で9カ所しかない。しかし、これらのISPと契約していれば追加料金なしで利用できるため、有効に活用しよう。なお、これらのアクセスポイントを利用したときの通話料は、東京23区内までの料金が適用される(Hi-Hoのみ大阪にもアクセスポイントがある)。したがって、東京都内以外から接続するときには、当該地域のアナログモデムのアクセスポイントに接続するよりも、若干通話料が高くなる。

2. iモードメール転送機能を持つソフトを活用する

NM502iで使用できるiモードメールは、全角文字250文字までなら1パケット(128バイト)0.3円と低価格でメールの送受信を行うことができる。250文字送っても4円とたいへんリーズナブルにメールを発信することが可能だ。

Palmwareのなかには、NM502iとの赤外線通信を通じて、iモードメールを転送する機能を持っているソフトがある。「IrMail」には送信メールと受信メールの両方の転送機能が、「NoM502i」には送信メールの編集と転送機能がそれぞれ搭載されていて、Palmで編集したメールをiモードメールとしてNM502iから送信可能だ。標準のPOP3メールなどと使い分けすることで、メール送信時のインターネット接続費用を抑えることができる。



画面3-33 赤外線通信で接続を開始。接続を開始すると接続状況が表示される



画面3-34 接続がうまくいくと「ログオン」と表示される

## ケース④ P-in Comp@ctでTRGproをメール端末にする

- 対象機種：TRGpro
- 通信手段：データ通信専用PHS P-in Comp@ct
- 使用アプリケーション：PaPi-Mail3、POPJ、メールなど

TRGproは、米TRG社が発売しているPalmデバイスである。コンパクトフラッシュ(CF)スロットを搭載しているので、CF規格の拡張カードを利用して機能を拡張できるという特徴がある。ここでは、NTTドコモのデータ通信専用PHSである「P-in Comp@ct」を使って、TRGproで電子メールを活用する方法を紹介しよう。ただし、メーカー保証外なので、すべて自己責任となる点に注意してほしい。

### データ通信専用PHS「P-in Comp@ct」

NTTドコモのデータ通信専用PHS「P-in Comp@ct」は、CF Type 規格の拡張カードである。CFカードサイズにPHS機能をすべて内蔵しており、データ通信以外には使用できないが、非常にコンパクトなサイズだ。

実際にTRGproに装着してみるとわかるが、P-in Comp@ctのアンテナ部分を中心

に、10mmほどスロットから出っ張ることになる。また、CFスロット開口部の基板の一部や、赤外線受光部が露出したままとなる。とはいえ、圧倒的にコンパクトで、Palmの良さを損なわずにモバイル通信端末として使えるというのは魅力的だ。さらに、シリアルポートにキーボード接続できるので、通信中にキーボードによる文字入力ができるという離れ技も可能だ。

また、別売りの専用PCカードアダプター「P6001」を装着すれば、P-in Comp@ctをノートパソコンで使用することもできる。

### P-in Comp@ctを使用するための通信設定

本稿執筆時点では、TRGpro日本語版を入手することができなかったため、ここではTRGpro英語版にJOS 版と日本語ローカライザーを加えたものを例として、設定方法を紹介します。なお、Palm OS 3.3と

3.5.1は、通信設定に関してはほとんど違いがないので、ほぼ同じように設定すれば利用できるはずだ。

まず、ランチャーから「Prefs」(日本語版では「環境設定」)をタップして起動し、「Connection」パネル(日本語版では「接続」)を選択して開く(画面3-35)。次に、新規ボタンをタップして、P-in Comp@ct用の通信設定セットを新たに作成する。

設定セットの名称は適当なものを入力すればいいが、ここでは「P-in Comp@ct」と入力する(画面3-36)。接続方法は「CF to PC」を選択し、詳細設定ボタンを押して詳細設定画面を表示させる。通信速度は「115,200 bps」を、フロー制御は「Automatic」をそれぞれ選択し、「Connection」パネルの初期画面に戻るまで完了ボタンを押す(画面3-37)。これで、P-in Comp@ctの設定セットの作成は完了だ。

次に、接続するプロバイダーの設定を「Prefs」の「Network」パネル(日本語版では「ネットワーク」)で行う。まず、プロバイダー設定メニューから新規を選択し、新規プロバイダー設定を作成する。プロバイダーとアクセスポイントの名称、ユーザー名、パスワードを、それぞれ入力する(画面3-38)。接続方法は、先ほど作成したP-in Comp@ctの設定セットを選択し、詳細ボタンを押して詳細設定画面を呼び出す。

接続方法は「PPP」を、DNSアドレス(日本語版では「クエリーDNS」)は「自動」のチェックをはずし、接続するプロバイダーのプライマリーDNSとセカンダリーDNSを入力する(画面3-39)。ログインスクリプト画面でスクリプトを入力し、「Network」パネルの初期画面に戻るまで完了ボタンを押せば、プロバイダーの設定も完了だ(画面3-40)。



TRGproのCFカードスロットに、P-in Comp@ctを装着したところ。アンテナ部分が若干飛び出す、非常にコンパクトだ



TRGproとP-in Comp@ct。TRGpro背面のCFカードスロットに、ほぼ収まる大きさだ



拡大してみると、CFスロット開口部の基板の一部や赤外線受光部が露出したままとなる



なお、スクリプトの3行目は、「ATD」に続けてプロバイダーのPIAFSアクセスポイントの電話番号を入力する。さらに、利用する場所がPIAFS 2.0の64Kbps通信に対応していない場合は、電話番号に続けて「#32」を末尾に追加する必要がある。例えば、PIAFSアクセスポイントの電話番号が「XXXX-YY-ZZZZ」で64Kbps通信に対応していない場合は、3行目は「ATDXXXXYYZZZ#32」と入力するわけだ。

あとは、P-in Comp@ctをTRGproのCFスロットに挿入し、「Network」パネルで接続ボタンを押すか、あるいはメールソフトからメールの送受信操作を行えば、P-in Comp@ct経由のダイヤルアップ接続を開始することができる。接続が完了すると、外部に露出しているインジケータLEDが2つ点灯するが、両方とも緑色に点灯すれば64Kbpsによる接続、左側が赤色で右側が緑色に点灯すれば32Kbpsでの接続を表している。

## 実際のモバイル通信の利用スタイル

データ通信専用のPHSなので、普段使っている通話用の携帯電話やPHSに制限されることなく、自由にいつでも利用できる。通信回線自体も、PIAFS 2.0方式による64Kbpsと高速で、速度的にはまったくストレスのない環境といえる。しかも、通話料などの運用コストは、携帯電話より明らかに安価だ。

メールソフトは速度的に軽快なものでも、高機能で多少動作が遅いものでも、どちらも特に気にせず使用できるはずだ。「PaPi-Mail3」を利用して、受信メールリストを読み込んでから必要なものだけを読み込むことも可能だし、POPJやMultiMailのフィルター機能を駆使して必要なメールだけ自動で受信するという使い方もできる。特に後者は、通信を開始したら胸ポケットにしまい込み、あとは全自動でメールチェック

させるといった芸当も可能だ。

なお、P-in Comp@ctには、液晶などが搭載されていないので、電波の受信感度などを知ることができない。それを補うためのユーティリティーが、「拝啓PalmOS様」(<http://www.jade.dti.ne.jp/imazeki/palm/>)で入手可能なフリーウェア「P-in Stat」(今関弘明氏作)だ。電波の受信感度は、表示されるアンテナの本数で知ることができる(画面3-41)。

## 運用時のTips

### 1. 電池のもち

快適なメール利用環境を提供してくれるTRGproとP-in Comp@ctの組み合わせだが、残念ながらひとつだけ弱点がある。それは電池駆動時間の短さだ。通常、TRGproは、電源に単4アルカリ乾電池を2本使用している。P-in Comp@ctはそれ自体に電源を持っていないので、TRGpro本体から電力供給を受けることになるが、ランチャーのパ



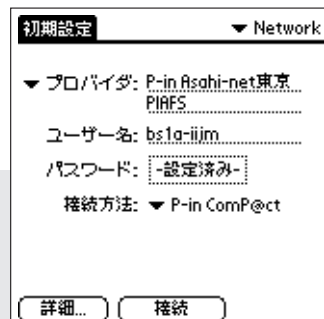
画面3-35 「Prefs」の「Connection」パネル。P-in Comp@ct用の設定を新規作成する



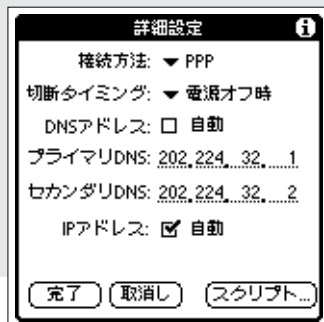
画面3-36 接続方法は、「CF to PC」を選択する



画面3-37 接続の詳細設定画面では、通信速度を「115,200bps」、フロー制御を「Automatic」と選択する



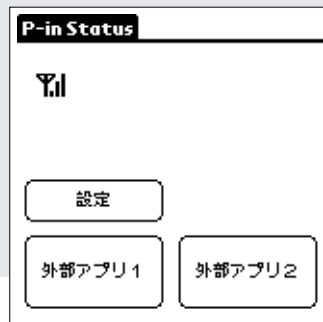
画面3-38 「Prefs」の「Network」パネル。プロバイダーの設定を入力し、接続方法は「P-in Comp@ct」を選択する



画面3-39 詳細設定画面。プライマリDNSとセカンダリDNSを入力し、スクリプトボタンを押す



画面3-40 ログインスクリプトを入力する。PIAFS 32Kしか対応していない地区では、電話番号のあとに「#32」を追加する



画面3-41 P-in Comp@ctの電波状態を表示する「P-in Stat」。アンテナ表示はPHSと同じものだ

バッテリー残量表示で50%程度まで電池が消耗してくると、通信開始時にTRGproの電源がオフにされるという現象が起こるようになる。これは、PHS通信カードの消費電力が比較的大きく、電池に対して一時的に大きな負荷がかかってしまうからだ。

この現象については、単4型アルカリ乾電池の代わりに、充電式の単4型ニッケル水素蓄電池を利用することで、ある程度は対応できるようになる。予算が許すなら、単4型ニッケル水素蓄電池は予備を含めて2セット以上用意し、ローテーションして使用することをお勧めする。

## 2. 利用料金について

もうひとつ重要な問題は、データ通信専用といってもP-in Comp@ctはPHSには違いないので、別途回線契約が必要になるという点だ。

しかし、現在NTTドコモのPHS回線は、非常に安価に維持することができる。さらに、P-in Comp@ctはデータ通信専用だから、契約時の料金プランはデータ通信のみを考慮すればいいわけだ。料金プランについては、「パルディオデータプラス」が最適といえるだろう。月額基本料金を1980円に押さえることができ、しかも無料接続1000円分を含んでいるので、実質基本料金は1000円弱ということになる。

それに加えて、積極的に活用したいのが、今年6月1日から改訂されたNTTドコモのフ

ファミリー割引だ。ファミリー割引を適用すると、携帯電話とPHS双方の月額基本料金を15%引きにすることができるので、割引合計額は意外と大きな額になる。携帯電話の料金プランによっては、PHSの月額基本料金をほとんどまかなえてしまうので、たいへんお得といえるだろう。

## 携帯電話接続カードを利用する

TRGproでは、P-in Comp@ctのほかにも、CFカードサイズの携帯電話通信カードを利用することが可能だ。松下電器産業の「TO-CAD9628CF」とTDKの「DP96CF」の2つの製品があるが、どちらも同じ設定方法で利用できたので、その設定方法を紹介しよう。

まず、「Prefs」をタップして起動し、「Connection」パネルを選択して開く。次に、新規ボタンをタップして、携帯電話通信カード用の通信設定セットを新たに作成する。

設定セットの名称は適当なものを入力すればいいが、ここでは「CF Cellular Card」と入力した。接続方法は「CF to Modem」、ダイヤルは「TouchTone」を選択し、音量は外出先で試用することを考慮すると「Off」あるいは「Low」がいいだろう(画面3-42)。次に、詳細設定ボタンを押して詳細設定画面を表示させ、通信速度は「14,400 bps」、フロー制御は「Automatic」をそれぞれ選択し、初期化文字列は空欄のままにしておく(画面3-43)。設定が終わったら、「Connection」パネルの初期画面に



松下電器産業の携帯電話通信カード「TO-CAD9628CF」で、TRGproと携帯電話を接続したところ

戻るまで完了ボタンを押す。

次に接続するプロバイダーの設定を、「Prefs」の「Network」パネルで行う。プロバイダー、ユーザー名、パスワード、電話番号を入力し、接続方法は先ほど作成した「CF Cellular Card」の設定セットを選択する(画面3-44)。あとは詳細設定画面でDNSアドレスを入力すれば、プロバイダーの設定も完了だ(携帯電話通信カードの設定では、スクリプトは特に必要ない)。

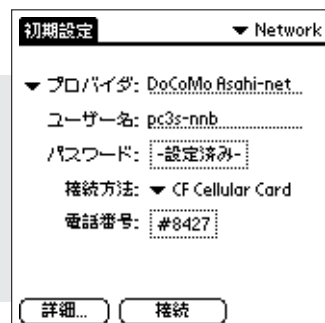
P-in Comp@ctは、NTTドコモのPHSのため、都心を離れるとPHS電波の入らない圏外になることも多い。NTTドコモのPHSでは圏外になることが多いなら、CFカードサイズの携帯電話通信カードを導入するのもひとつの選択肢になるだろう。



画面3-42 CFサイズの携帯電話通信カードの設定画面。接続方法は「CF to Modem」、ダイヤルは「TouchTone」を選択する



画面3-43 詳細設定は、通信速度を「14,400bps」、フロー制御を「Automatic」とする。初期化文字列は特に入力しなくても、プロバイダーに接続することができた



画面3-44 「Prefs」の「Network」パネル。プロバイダーの設定とアクセスポイントの電話番号を入力し、接続方法は先ほど作成したCFサイズの携帯電話接続カードのものをを選択する



## ケース5 ICカード公衆電話機でメールを活用する

- ・対象機種：Palm全機種
- ・通信手段：ICカード公衆電話
- ・使用アプリケーション：MultiaMail-J

公衆電話機といえば、黄緑色をした初期のタイプと、グレーのボディカラーにモジュラージャックを搭載したISDN公衆電話機を思い浮かべる人が多いかもしれない。この従来の2機種のほかに、昨年より都心でよく見かけるようになったオレンジ、グリーン、チャコールブラック、シルバーの4色カラーの公衆電話機がある。これがICカード公衆電話だ。

なぜ、モバイル機器でメールを使うのに、今さら公衆電話機が出てくるのか疑問に思うかもしれない。しかし、ICカード公衆電話機には赤外線通信ポートが搭載されており、赤外線ポート経由で公衆電話機に内蔵された通信機能を用いて、ISDN回線経由のデータ通信を行うことができるのである。この機能は、赤外線通信機能を搭載したPalmデバイスならほとんどの機種で利用できるため、運用次第ではメール送受信のための通信手段となりうるのだ。

ここでは、ICカード公衆電話機を利用したメールの活用法を紹介しよう。

### ICカード公衆電話とは

ICカード公衆電話機は、昨年3月から東

京、大阪の中心部と、羽田、成田、関西の3大空港でいち早く導入されたが、その後導入台数を伸ばし、いまでは都市部の駅やホテル、ショッピングビルなどにもかなり普及している。

ICカード公衆電話機には、導入場所や時期によって3タイプが確認されている。基本的には3タイプとも同じような構成で、正面右側にICテレホンカードを挿入するカードポケット、赤外線ポート、アナログ端末接続口が配置されている。電話機によっては、正面下側に2個目の赤外線ポートが搭載されているが、主にパソコンを電話機の前に置いたときにパソコンの赤外線ポートと位置が合うように作られているため、Palmでは若干使いにくい位置となっている。

### ICカード公衆電話を使用する上での注意事項

ICテレホンカードには、使用上の注意点が2つほどある。ひとつは、初めて使用する前に、右下の端を切り込みに沿って切り離す必要があるということ。もうひとつは、有効期限が設定されているということだ。有効期限は、後日セキュリティーのパ

ージョンアップに対応したICテレホンカードへ切り替えが行えるように設定されたもので、期限を経過したカードも期限後5年間の交換期間が設けられている。

また、WorkPad(30J)/c3(40J)やVisorのように、Palm OS 3.1を搭載したモデルについては、「IrEnhance」を導入して、赤外線通信機能を拡張しないと利用できないので注意が必要だ。詳細については、51～53ページを参照してほしい。

### 通信手段とプロバイダーの設定

ここでは、標準で赤外線通信をサポートしている、Palm OS 3.5での設定方法を紹介する。

ランチャーから環境設定をタップして起動し、「接続」パネルを開く。新規ボタンをタップして、ICカード公衆電話用の通信設定セットを新規作成する(画面3-45)。設定セットの名称は、ここでは「ICカード公衆電話」と入力する。接続方法は「赤外線からモデム」、ダイヤルは「プッシュ」、音量は「オフ」を選択する(画面3-46)。次に、詳細設定ボタンを押して詳細設定画面を表示させ、通信速度を「115,200 bps」、プロ



電話ボックスなどを中心に配置された壁掛け型のICカード公衆電話。IrDA接続窓はひとつしか搭載していない



壁掛け型電話機の右側拡大写真。上部にICカードポケット、下部には赤外線ポートとアナログ端末接続口が並んでいる

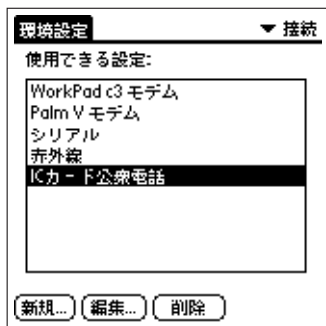


上部に小銭投入口が付けられた現在の主流型ICカード電話機

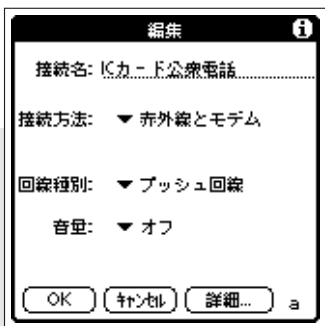


初期から設置されているICカード電話機。デザインはこのタイプが秀逸だが、都心部や空港など限られた場所でないことができない





画面3-45 環境設定の接続パネル。ICカード公衆電話用の設定を新規作成する



画面3-46 設定画面では、接続方法は「赤外線とモデム」、回線種別は「プッシュ回線」を選択する



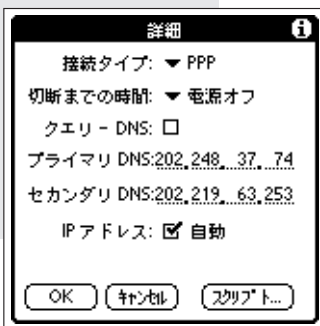
画面3-47 詳細設定画面。速度は「115,200bps」、フロー制御は「自動」、コマンドの欄には「ATS100=1」と入力する



Palm cを赤外線ポートと向かい合わせて、赤外線通信を行う



画面3-48 環境設定のネットワークパネル。プロバイダーの設定とISDN同期接続に対応したアクセスポイントの電話番号を入力し、接続方法は「ICカード公衆電話」を選択する



画面3-49 詳細設定画面。プライマリDNSとセカンダリDNSを入力し、スクリプトには何も記述しない



Visorの場合は赤外線ポートが側面にあるので、通信中は横向きに操作しなければならない

制御を「自動」とし、初期化文字列に「ATS100=1」と入力する(画面3-47)。設定が終わったら、接続パネルの初期画面に戻るまで完了ボタンを押す。

接続するプロバイダーの設定は、環境設定のネットワークパネルで行う。プロバイダー、ユーザー名、パスワードを入力し、接続方法は、先ほど作成した「ICカード公衆電話」の設定セットを選択する(画面3-48)。電話番号には、ISDN同期64Kbpsに対応したアクセスポイントを入力する。最後に、詳細ボタンを押して詳細設定画面を表示させ、DNSアドレスを入力すればプロバイダーの設定は終了だ(画面3-49)。スクリプトは必要ない。

なお、Webサイトやメーリングリストでは、これらの通信設定を正しく行っても、赤外線通信経由で接続できないISDNアクセスポイントが存在すると報告されている。もしうまく接続ができないようなら、同じ地区にある別のアクセスポイントで試してみるか、プロバイダーのサポートに問い合わせてみるとういだろう。

## 実際に利用してみる

ICカード公衆電話機への接続の設定を済ませたら、さっそく通信してみよう。まず、電話機のカードポケットにICテレフォンカードを挿入する。ちなみに、ICテレフォンカードは非接触式のカードなので、表裏どちらの向きに挿入してもいい。次に、液晶ディスプレイ脇の「データ通信」ボタンを押し、データ通信モードに切り替える。あとは、Palmの赤外線ポートと電話機の赤外線ポートを向かい合わせて、Palm上で接続処理を行えば、数秒でインターネット接続が確立されるはずだ。

なお、Visorでは赤外線ポートが左側面に搭載されているため、通信中は横を向けて操作しなければならないので注意が必要だ。

## ICカード公衆電話を用いた運用のスタイル

ICテレフォンカードを購入すればすぐに始められるICカード公衆電話機は、お手軽度ではナンバーワンといえる。ただし、IC

カード公衆電話機が都心以外にも増えてきたとはいえ、基本的には公衆電話のある場所でのしか利用できないという制限がある。PHSや携帯電話を利用した場合のように、「いつでもどこでも」メールチェックができるというわけにはいかないのである。

これらを考慮すると、普段は携帯電話メールを中心に使っている人で、たまに長い返信メールを送る必要があるときに利用するなど、ライト感覚で利用するのが適している。また、SnapConnectやNM502iなどの携帯電話でメールを利用している人が、溜まったメールを一括で受信するために補助的に利用するというのも、通信費を節約する意味では有効だろう。


このようにICカード公衆電話機は、ほかのコミュニケーション手段と併用することで活用場が広がってくる。また、ICテレフォンカード自体の普及率がまだまだ低いので、従来の電話機よりも空いているという利点もある。もしものときのために通信用の設定をしておき、ICテレフォンカードを持ち歩くというのも悪くないかもしれない。



# Part.4

## お勧めメールソフトはこれだ

市販ベースのソフトだけでなく、フリーウェアやシェアウェアを含めて、豊富に用意されたPalmwareの数々は、Palmユーザーの夢を実現してくれる魔法の箱(パンドラの箱?)でもある。ここでは、数あるフリーウェア、シェアウェアのなかから、本誌お勧めの主要なメールソフトを紹介しよう。

 このマークのソフトウェアは、本誌付録CD-ROMに収録されています。

### POP3/IMAP4クライアント

POPJ v1.00

シェアウェア US\$10ドル / 1000円  
村上 正幸



<http://www.as.to/~mu/popj/>

POPJは、フィルター機能が充実したPOP3、APOP、SMTP対応のメールクライアントである。POPJ単体ではメールの送受信しかできないので、標準搭載のメールアプリケーションでメールの閲覧や編集を行う必要がある。動作速度は軽快だが、機能はふんだんに盛り込まれている。

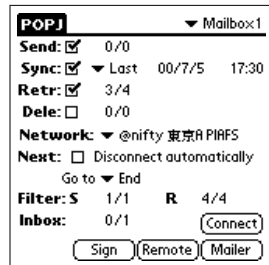
複数のメールアカウントに対応しており、8つまでのメールボックスを設定することができる。また、その各々に対して5つの通信手段を設定することが可能で、各種設定も独自に持たせることができるので、通信

手段やメールアドレスを使い分けている人に最適だろう。

POPJの大きな特徴は、詳細に設定できるフィルター機能にある。受信時フィルターを設定すると、メールの長さによる制限をはじめ、メールの題名や送信者に設定したキーワードと一致したメールを受信しないなど、メールチェックにかかる時間を短縮することが可能だ。また、サーバーのメールを残す設定でも、一度読み込んだメール以降から受信したり、受信リストを読み込んだりすることができるので、大量にメ

ールを受信する人には利用価値が高い。

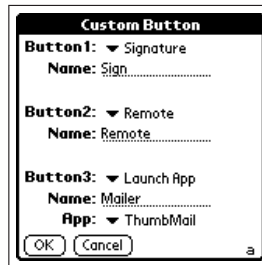
さらに、起動するとPOPJが自動メールチェックを開始する「POPJ Go」というアプリケーションが用意されている。このPOPJ Goを任意のハードウェアボタンに割り当てておけば、ボタンを押すだけで自動的にメールチェックを開始することが可能になる。SnapConnectやWorkPad Modemのように、HotSyncボタンが用意されている通信モジュールと併用すれば、モジュールを接続してHotSyncボタンを押すだけで、メールチェックを行うことができるように



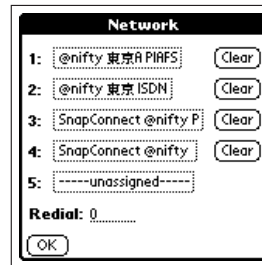
トップ画面。送信、受信、フィルター、削除、ネットワーク指定、受信後の動作などの設定



受信フィルターリスト。複数のフィルターで、不要なメールは一切受信しないようにできる



ほかのアプリケーションと連携するために、ボタンをカスタマイズすることも可能だ



ネットワーク設定。ひとつのアカウントに最大5つまでの設定を登録できる

なる。

また、ほかのソフトやメールアプリケーションと連携するための、カスタマイズ性が考慮されている点も魅力のひとつだ。カスタムボタンにそれらのアプリケーションを割り当てることで、標準のメールアプリケーションはもちろん、メール置き換えソフトの「ThumbMail」などを呼び出せる。さ

らに、メール処理後に回線を切断することなく、BBS巡回ソフトの「PocketBBS」などを起動するように設定することも可能だ。

メニューや設定項目など機能が多すぎて少々煩雑だが、受信フィルター機能や自動メールチェック、ほかのアプリケーションと

の連携性の3点が大きな特徴だ。動作も軽快なので、万人にお勧めしたいメール送受信ソフトといえるだろう。

なお、操作に慣れていないうちは、後藤哲司氏が作成したローカライザーを利用することをお勧めしたい。

関連ソフト POPJ 1.00用ローカライザー (フリーウェア) 後藤 哲司  
http://hp.vector.co.jp/authors/VA018397/

### PaPi-Mail3J v1.2 (POP3, APOP/SMTP 対応)

シェアウェア 3000円  
システム・エンジニアリング・サービス(株)



### PaPi-Mail4J v1.2 (POP3, APOP, IMAP4/SMTP 対応)

シェアウェア 3980円  
システム・エンジニアリング・サービス(株)

<http://www.papi.ses.co.jp/>

PaPi-Mailは、メール受信リストを読み込んだあと、必要なメールだけを高速で受信することに特化したメールクライアントである。POP3、APOP、SMTPだけに対応したPaPi-Mail3Jと、IMAP4にも対応したPaPi-Mail4Jの2つのラインナップが用意されている。このほかに、PaPi-Mail3JとPaPi-Mail4Jがセットになった、パッケージ版「PaPi-Mail Pack」が市販されている。

PaPi-Mailは、POPJと同じようにメール送受信のみを行うソフトで、メールの閲覧や編集は標準搭載のメールアプリケーションで行う。メールアプリケーションを起動するボタンがあるので、送受信を行ったあとにメールソフトを簡単に起動することができる。ただし、POPJのようにボタンをカスタマイズすることはできないので、呼び

出せるのはメールアプリケーションだけだ。

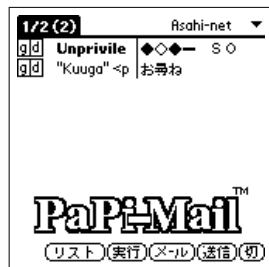
動作自体は軽快で、PHSやICカード公衆電話機のように高速かつ通話料が安い通信手段と組み合わせて、接続したまま必要なメールのみを確認しながら受信するという利用方法が基本である。全メールを一括で受信する機能も持ち合わせているが、受信機能は検索キーを用いた1種類しか設定できないので、必要のないメールをすべて除去することは難しい。その意味では、POPJのように自動メールチェックを得意とするソフトではない。

メールリストの受信時に表示されるのは、送信者、メールの題名、日付の3つだけだが、メール本文のプレビュー機能が付いているので、冒頭の内容を確認してから受信するかしないかの判断をすることも可能だ。

また、あらかじめカラーフィルターを設定しておけば、メールの題名や送信者によって、受信リストの項目を5色まで色分けすることができる。これなら、仕事のメールや彼女からのメールを見落とすこともないだろう。

基本部分としては、8つまでのメールアカウントに対応、送信メールの署名設定など、POPJほど設定項目は多くないが、必要十分の機能は搭載している。メニューや設定項目がすべて日本語で表示されるので、初心者でも安心して利用することができる。

また、PaPi-Mailから、通信で利用するポートがシリアルか赤外線かを切り替えることができる。シリアルの切り替えが煩雑な、Palm OS 3.1を搭載したWorkPad 30JやVisorなどでは重宝する機能といえるだろう。



トップ画面。読み込んだ受信リスト左側の「g」「d」を押して、メールの受信や削除を予約できる



受信したメールリストは、メールの冒頭部分をプレビューすることができる



簡易フィルター機能として利用できる検索キーの設定画面



PaPi-Mailのメールアカウント設定画面。POPJと比べるとかなりシンプルだ



# 統合型メールソフト(POP3/IMAP4クライアント機能搭載メールソフト)

## JotMail v1.2J

シェアウェア US10ドル/1000円  
SumacField (漆畑 広樹)



<http://www2.wbs.ne.jp/~pilotdev/>

JotMailは、手書きメモをサポートしたPOP3、APOP、SMTP対応の統合型メールソフトウェアである。オンラインでダウンロードできるもののほかに、昨年末からアイ・オー・データ機器の「SnapConnect/c3」に添付のCD-ROM「はじめよう！WorkPadでインターネット」に同梱されている「JotMail for WorkPad」や、アイケーイーソフトウェアが販売しているパッケージ版の「JotMail3」など、いろいろなルートで入手可能だ。

POPjやPaPi-Mailのように、POP3、SMTPによるメールサーバーとの送受信機能しか搭載されていないものとは異なり、JotMail本体でメールの閲覧や作成を行うことができる。JotMailのパッケージだけで、メール処理を完結できる統合型メールソフト

なのである。

メールソフトとしての基本機能はシンプルで、メールサーバーや電子メールアドレス、本名の設定だけを行えば、あとは「Jotアイコン」をタップするだけで、とりあえずメールを送受信することができる。Palmのシンプルさを象徴するような、非常に簡単に扱えるメールソフトといえるだろう。メールアカウントこそ5つ登録することができるが、基本的に設定する項目は少なく、メールサイズによる受信制限や署名設定ぐらいしかない。

JotMailでは、手書きメモの作成や、作成したメモをメールに添付して送信することが可能だ。送信した手書きメモは、DDIポケットの手書きメール端末「テガッキー」

でも閲覧することができる。なお、JotMailから送信した手書きメモは、パソコン上ではビットマップイメージ(BMP)の添付ファイルとして受け取ることができる。

メールソフトとしての標準機能は搭載しているが、大量のメールを外先で受信する際に必要なフィルター機能がないので、ヘビーユーザーにはあまり向かないかもしれない。細かい設定をして運用する人より、Palmでとりあえずメールを利用したいという人に適したソフトといえるだろう。メールの添付ファイルをまったく意識することなく、手書きメモを簡単に送信できるメールソフトは、JotMail以外には存在しない。手書きメモのやり取りを重要視しているユーザーには、必携ソフトといってもいいだろう。



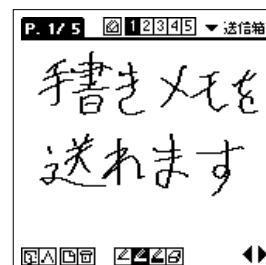
トップ画面。左上にJotアイコンがある



メールアカウント情報の設定画面



メールサイズによる受信制限などの設定



手書きメモを入力して送ることができる

## MultiMail 日本語版 v1.0

イリンクス(日本語版開発)

<http://www.ilinx.co.jp/>

Actual Software Corporation(オリジナルの英語版開発元) <http://www.actualsoft.com/>

MultiMail日本語版は、メール送受信からメールの閲覧、作成までを単独で利用することができる。POP3、APOP、IMAP4、SMTP対応の統合型メールソフトウェアだ。一般発売は7月上旬時点で開始されており、昨年末からアイ・オー・データ機器の

「SnapConnect/c3」などにキャンペーンで添付されたCD-ROM「はじめよう！WorkPadでインターネット」か、WorkPad c3(50J)を購入するしか手に入れる方法がない。

設定項目が多く高機能だが、メールの送

受信やメニューを含めて完全に日本語化されているので、手順さえ踏めば特に難しくは感じないだろう。SnapConnectなどの通信モジュールを使ってインターネットに接続すれば、外先でメールの送受信ができるようになる。

基本部分はたいへん高機能で、8つまでのメールアカウントを登録することができる。各アカウントごとに、はじめから用意されているInbox（受信箱）、Outbox（送信箱）、Sent（送信済）、Trash（ごみ箱）を含めて、16個のメールフォルダーを設定可能だ。Palm上で、複数のメールアドレスを一括して管理したい場合は、メールソフトの決定版といえるだろう。

メールの送受信では、メールのヘッダー部分だけをダウンロードしてから必要なメールのみ再度ダウンロードしてもいいし、フィルター機能を設定して全メールの受信をしてもいい。どちらも機能的に申し分ないので、通信手段や受信するメールの量によって使い分けることも可能だ。

搭載されているフィルター機能は、POPJのように受信時に適用するだけでなく、その

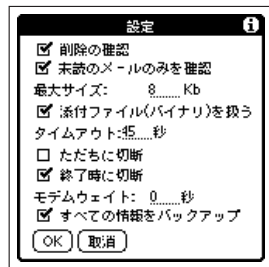
ままあらかじめ用意しておいたメールフォルダーに自動的に振り分けることも可能だ。また、添付ファイルの送受信をサポートし、受信したメールに添付されたPalm用ソフトウェア(prc、pdbファイル)を直接インストールすることができるなど、ほかのメールソフトでは実現できない機能を豊富に備えている。

ただし、高機能なため動作が若干遅く感じられる。また、ほかのメールソフトと比べると、通信中のメール送受信速度が遅いので、携帯電話で利用するには料金的に不利だ。この点が、現バージョンの唯一の弱点だろう。

また、「MultiMail Conduit」を利用すれば、パソコン上のメールクライアントソフトと、メールボックスごとに同期を取ることができる。現在はWindows版しかリリースされていないが、展示会などではMacintosh

版の参考出品も行われており、Macユーザーは今後に期待したいところだ。現時点で、Windows版のMultiMail Conduitが対応しているメールクライアントソフトは、Netscape 4.0x、Netscape 4.5以上、Eudora Pro、Outlook Expressの4つである。

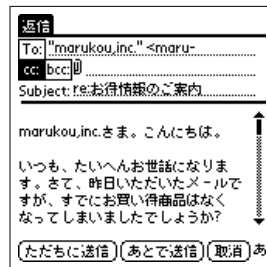
なお、MultiMailの開発元であるActual Software社が、今年6月に米Palm,Inc.に買収されたため、残念ながらイリックスがリリースを予定していた「MultiMail 1.01J製品版」や「MultiMail for WorkPad 1.0J」からのアップデートプログラムの提供に影響が出ている。今後は、MultiMail自体が標準アプリケーションに採用されるかどうかなど、先行きは不透明である。MultiMail日本語版は、現状でもたいへん使い勝手のいいメールソフトなので、現バージョンの一般発売を待ち望みたいところだ。



フィルターの設定画面。条件をかなり細かく設定できるのも特徴のひとつだ



メールリスト画面。件名と送信者、日付が表示される



新規メールの作成画面。メールを書き終わったらすぐに送信することも可能



メール受信時には、フィルターの使用や全文/リストのみの受信などを選択することが可能

## そのほかのメールソフト

### メール

#### 標準搭載アプリケーション

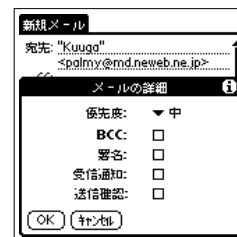
メールは、Palm OS日本語版に標準搭載されたメールアプリケーションだ。HotSyncすることでパソコンのメールを取り込み、外出先で閲覧することを目的としているので、残念ながら単体ではメールの送受信を行う機能は搭載されていない。

メールアプリケーションで作成したメールを送信する、あるいはプロバイダーに届いたメールを受信するためには、POPJやPaPi-Mailといったメール送受信ソフトが必

要になる。

メール閲覧ソフトとしてはたいへんシンプルで、メールリストとメール本文の表示、メール編集機能しか用意されていない。メールリスト画面では、日付、差出人、件名の3項目が表示され、その各々でソートすることが可能だ。また、日付を非表示にして、件名と差出人を表示する領域を広くすることもできる。

メール本文の表示画面では、差出人と件名、メール本文を表示する。液晶画面の横



各メールの詳細設定画面



HotSync時の同期フィルターの設定



幅が狭いので、パソコンのメールソフトで閲覧していたときと比べると、改行位置がずれて見づらくなるのは仕方ないところだろう。

閲覧したメールへの返信や新規にメールを作成する場合は、新規メール画面で行う。

メールごとに、優先度やCC、BCC、署名の添付を設定することができる。また、返信の場合は、引用や引用符の付加、全員への返信、転送なども考慮されているので、基本的な編集機能は備わっているといえるだろう。

なお、標準で搭載されているメールコンジットを利用すれば、そのままOutlookやExchange、Windows標準のOutlook Express (5.0以降を除く)、Eudora Proなどのパソコンのメールソフトと同期することができる。

## ThumbMail v0.41

フリーウェア  
Fatal Error World!! (Katsuhiko Endo)



<http://www.fatal-error.com/jp/>

ThumbMailは、その名前のとおり“thumb (親指)”を使って操作するメールソフトだ。なるべく親指を使って、ハードウェアボタンのみで操作するように作られているのである。標準搭載されているメールの完全互換アプリケーションで、シンプルすぎるメールアプリケーションの機能を大幅に拡張しているのも特徴だ。ただし、メールアプリケーションと同様にメールの送受信機能は搭載しておらず、メールの閲覧や編集を行うためのソフトだ。

メールの閲覧操作では、主にハードウェアボタンだけでブラウザできるように設定

できる。また、メールリストを表示しているときと、メール本文を表示しているときとで、ボタンに割り当てる機能を別々に設定することも可能だ。ボタン設定は、4つのアプリケーション起動ボタンと上下ボタンに、「次のメール」、「前のメール」、「次の未読メール」、「前の未読メール」、「削除」、「一覧/読む」、「Filedへ保存」の、7つの機能を割り当てることができる。

そのほかにも、POPJやPaPi-Mailなどのメール送受信ソフトを呼び出すための、カ

スタマイズ可能なアプリケーション起動ボタンの搭載や、メール閲覧時に文末から次の未読メールの先頭へ移動する機能など、使いやすい工夫が図られている。

なお、ThumbMailは、メニューや設定項目が英語で記述されているが、これらを日本語表示するための「ThumbMail 0.41用ローカライザー」を後藤哲司氏が公開している。少々、設定項目が多いので、操作に慣れないうちは日本語化して利用するといだろう。

関連ソフト ThumbMail v0.41用ローカライザー (フリーウェア) 後藤 哲司  
<http://hp.vector.co.jp/authors/VA018397/>



ThumbMailで受信したメールリストの一覧画面



ハードウェアボタンのカスタマイズ画面。7つの機能を自由に割り当てることができる



返信時の詳細設定画面。オリジナルのテキストの扱いなどを設定できる



新規メールの編集画面。ToやCCをタップすると、アドレスから送信先アドレスを選択できる

## 10mail v0.81

シェアウェア 1000円  
SumacField (漆畑 広樹)



<http://www2.wbs.ne.jp/~pilotdev/>

10mailは、ポケットボードで一世を風靡したモバイルメール「10円メール」を利用するためのソフトウェアである。10円メールを提供するマスターネットに接続しての

メールの送受信のみをサポートしており、メールの編集や閲覧は標準のメールアプリケーションを利用する。

10円メールを利用するためには、NTTド

コモの携帯電話で発信する必要があることから、「SnapConnect」とNTTドコモの携帯電話の組み合わせか、ノキア製携帯電話「NM502i」の利用が必須である。ほかの通

信手段を用意しても、接続することができないので注意が必要だ。また、使用する電話機の発信者通知をしておかないと、接続できないので注意してほしい。

マスターネットに入会するために記入する項目が多くなっているが、一度記入してしまえば、トップ画面に表示されているアイコンをタップするだけで、10円メールを利用することができる。

iモードメールなどの格安携帯電話メールが登場しているため、今さら10円メールという感じもするが、PDAを利用したメールの中では、超低価格で利用できるのが10円メールの魅力だ。

携帯のダイヤルキーからメール本文の入力は苦手だが、あまり通信費にお金をかけたくないという

人には、最適なメールソフトだろう。



10Mailのトップ画面



10Mailの設定画面

## IrMail v0.12

フリーウェア  
村上 正幸



<http://www.as.to/~mu/irmail/>

赤外線通信を通じて、携帯電話の「NM502i」にiモードメールを転送をするソフトウェアだ。単体ではメールの転送機能しか持っていないので、メールの閲覧や編集は標準のメールアプリケーションを利用して行う。メニューなどが英語版なのと、まだ開発中で実装していない機能が多いので、使用するときは注意が必要だ。

別の通信手段で受信したメールの返信をNM502iに転送し、iモードメールとして送信できるので、回線交換式のデータ通信と比べると低価格でメール送信を行うことができる。また、NM502iのiモードメールを、携帯電話のダイヤルキーで入力する必要がなくなるので、ダイヤルキーによる文字入力は苦手という人に適している。

IrMailのメールリスト画面



## Ir vMessage DA v1.0

フリーウェア  
Yoshiki's Palmware (渡辺 美樹)



<http://www03.u-page.so-net.ne.jp/ra2/yoshiki/Palm/sw/>

赤外線通信を使って、携帯電話のNM502iにメールを送り込むためのDAソフトウェアである。使い方は非常に簡単だ。最初にメール本文にしたい箇所を選択してから、DAを起動する。すると、あらかじめメール本文に、選択した部分がペーストされた状態で起動する。そこで、メールの題名を入力して、NM502iにvCardとして赤外線通信経由で転送すれば、NM502i側では送信メールとして保存される。あとは、NM502iでiモードメールを呼び出し、送信先のアドレスだけを入力すれば、そのままiモードメールとして送信することができるわけだ。

メール本文と題名の入力に特化した、小気味のいいIDAソフトといえるだろう。

Ir vMessageのメール編集画面



## NoM502i v0.11

Cafe de Palm (トラミン)



<http://www04.u-page.so-net.ne.jp/ca2/kaneko/palm/>

携帯電話のNM502iやNM207へ、アドレスデータをカテゴリごと一括転送する機能を搭載したアドレスの置き換えソフトである。今春バージョンアップしてから、赤外線通信を用いて、NM502iへのiモードメールの転送機能をサポートした。

利用方法は至ってシンプル。アドレス一覧画面からメールボタンを押下し、表示されたメール編集画面に宛先や件名、本文を入力してIr送信ボタンを押すだけで、

NM502iにiモードメールを転送することができる。あとは、NM502iのiモードメニューから、メールを送信すればいい。IrMail

と違って、このソフトウェア単体でメールの作成から転送まで行うことができるのが特徴といえるだろう。



NoM502iのアドレスリスト



NoM502iのiモードメール編集画面

# Palm使いこなし術

## Part 1. Palmの基本をマスターしよう しもけん



Palmマシンを入手した理由は人それぞれであろうが、せっかくPalmマシンを手に入れたのだから使いこなして損はないはず。それに使い込んでみて初めてわかるPalmマシンの魅力もある。しかし、Palmマシンもコンピューター的一种。使い方をマスターする必要がある。マニュアルもあるが内容が難しくすぎて訳がわからない? でも、あきらめるのはまだ早い。要は、最低限のポイントさえ押さえてしまえばよいのだ。Part 1では、基本中の基本を簡単に説明しよう。

### まず使う前に知っておこう

Palmマシンを手に入れて最初にすること。そう、箱を開けることだ。当たり前だが、重要なのはここからだ。早く使いたいからといって見よう見まねで触っても、動くものも動かない。手順を追って説明しよう。

#### 取り扱い

箱の中にはPalmマシン本体をはじめ、PalmマシンとPCを接続するためのアダプター「クレードル」、マニュアルなどの書類（VisorはCD-ROM内にデータとして収録されている）、PC用のソフトウェアが収録されたCD-ROM、Macintosh用の変換アダプター、Palmマシン用の乾電池（製品によっては、専用のACアダプター）が同梱されている。

まずは、箱から必要なものを取り出そう。Palmマシン本体にク



箱の中に収まっているもの

レードル、そして電源となる乾電池、またはACアダプターだ。ほかのものも大事なので、箱の中に保管しておく。箱もそれほど大きくないので、箱ごと保管しておけばなくす心配もない

さて、ここで電池をPalmマシンにセットするのはまだ早い。最初にPalmマシンの液晶画面を保護しているフィルムをゆっくりとはがす。これはPalmマシンの製造時からユーザーに届くまで、液晶画面に傷や汚れを付けないためのものだ。

余談だが、画面の保護のために、このフィルムを付けたまま使っているユーザーをたまに目にする。しかし、このフィルムはそういうためのものではない。使いにくいばかりか、粘着剤が液晶画面に付着してしまう可能性もある。Palmマシンの取り扱い店には液晶画面の保護用に専用のフィルムが販売されているので、そちらを使うようにしよう。

#### 各部の名称と機能

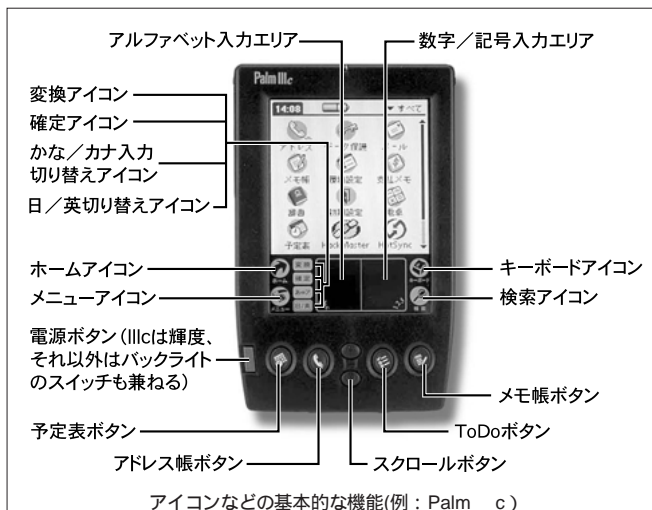
最低でも、以下の部分については以後の内容にも出てくるので、用語として覚えておこう。

##### 【表面】

##### 電源ボタン

Palm本体の電源およびバックライトのコントロールに使われる。一度押すと電源が入り、再度押すと電源が切れる。2秒以上押し続けると、モノクロ液晶画面のモデルはバックライトが点灯し、カラー液晶画面のモデルは明るさの調整画面が表示される。再び2秒以上押し続けると電源は切れずにバックライトが消灯、





アイコンなどの基本的な機能(例: Palm c)

または調整画面が閉じる

#### 予定表ボタン

電源に関係なく押すだけで、予定表を表示する。一度押すごとに表示モードが切り替わる

#### アドレス帳ボタン

電源に関係なく、押すだけでアドレス帳を表示する。一度押すごとに表示モードが切り替わる

#### ToDoボタン

電源に関係なく押すだけで、ToDoを表示する。一度押すごとに表示モードが切り替わる

#### メモ帳ボタン

電源に関係なく押すだけで、メモ帳を表示する。一度押すごとに表示モードが切り替わる

#### スクロールボタン

データが一画面に収まらない場合は、このボタンで上下に移動する

#### ホームアイコン

Palmに内蔵されているソフトウェアを表示する。一度タップすることで、表示モードが切り替わる

#### メニューアイコン

表示している内容に対して、詳細な設定や機能呼び出す

#### キーボードアイコン

文字入力をする際に使うソフトウェアキーボードを呼び出す

#### 検索アイコン

Palmマシン内に記録されているデータに対して、検索できる  
アルファベット入力エリア



文字を手書き認識で行う際に使う入力エリア

数字/記号入力エリア

数字や記号を手書き認識で行う際に使う入力エリア

変換アイコン

文字の入力後に漢字変換をするための機能

確定アイコン

漢字変換した内容を確定するための機能

かな/カナ入力切り替えアイコン

文字入力のモードを切り替えるための機能

日/英切り替えアイコン

文字入力のモードを切り替えるための機能

コントラスト調整

画面表示の濃度を設定する機能。WorkPad 30Jに関しては、裏面にある(ダイヤル式)。ただし、カラー液晶画面を搭載したPalmマシンに、この機能はない

#### 【裏面】

#### リセットボタン

Palmマシンに問題が発生し、どうにもならなくなった場合に使う(リセットピンはペンの中)

#### 電池カバー

乾電池駆動のPalmマシンには装備されているカバー

#### シリアルポート

PCとの接続に使用するポート、各社から発売されている拡張機器を接続するためのポートだ

#### スタイラス

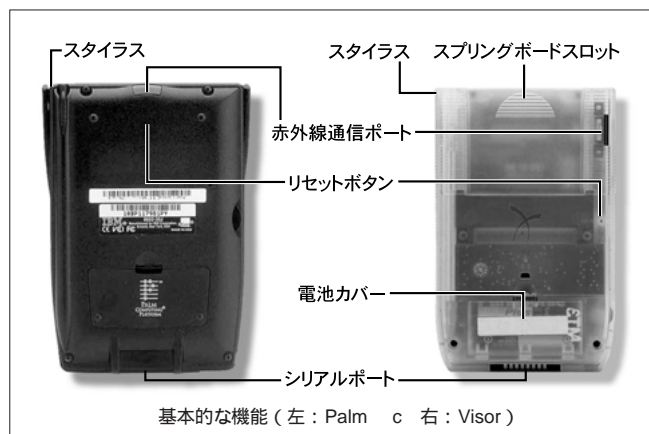
画面を操作するために使うペンが収納されている

#### 赤外線通信ポート

目に見えない赤外線を使用してケーブルレスの接続を実現する

#### スプリングボードスロット

Visor専用の拡張機能で今後のラインナップの充実が期待される



基本的な機能(左: Palm c 右: Visor)

## クレードル

Palmマシンには必ずクレードルという台が付属している。これはPalmマシンを置く台でもあり、PalmマシンとPCを接続するためのものでもある。Palmマシンの種類によっては内部充電の充電器でもするので、その場合は必ず専用の充電器が同梱される。

電源を入れる前にPalmマシンとクレードルを接続する練習をしておこう。WorkPadやPalmは簡単に置くだけだが、Visorは固定用のツメがあるので、ちょっとコツがいる。



クレードルの溝に合わせて置く(WorkPad 50Jの場合)

## ペン(スタイラス)での操作

Palmマシンにキーボードは装備されていない。あるのは本体に対して大きな面積を持つ液晶画面と複数のボタンだけだ。操作はスタイラスと呼ばれる専用のペンを使う。スタイラスはPalm本体に装備されている。Palmマシンは文字の入力から一般的な命令までをスタイラスで操作できる。

Palmを使ううえで、最低でも以下のスタイラス操作は把握しておこう。また、用語としてもたびたび登場するので、違いを知っておく必要もある。

### タップ

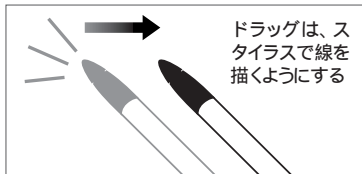
直訳すると軽く叩くこと。タップダンスのタップと同じ意味だ。操作はその名の通り、スタイラスで画面をコツリと叩くこと。マウス操作でのクリックに相当する。マウス操作にダブルクリックがあるように、スタイラス操作にもダブルタップが存在する。注意しなくてはならないのは、タップ操作で力を入れすぎないこと。スタイラスで目的の部分を軽く押す程度で十分だ。画面はガラス製なので乱雑に扱おうと割れてしまうこともある

### ドラッグ

直訳すると引っ張ること。PCのマウスでのドラッグ操作と同様にタップして、押したままスタイラスを引きずる操作だ。マウス操作と違って、スタイラスの力加減が難しいので練習しよう。あまり力を入れすぎると画面に傷を入れてしまうので注意。タップとドラッグをマスターすれば、Palmマシンの最低限の操作は可能となる



タップは、スタイラスで軽く画面をタッチすること



ドラッグは、スタイラスで線を描くようにする

## 電池

Palmマシンには2種類の電源形態がある。ひとつは乾電池で駆動するもの。もうひとつは内蔵された充電電池で駆動するものだ。見分けるのは簡単だ。裏側を見て、電池ボックスの蓋があるかどうかを確認する。日本国内での現行機種ではWorkPad 30J、Visor、TRGproが乾電池駆動で、WorkPad 50J、Palm x、Palm cが充電電池駆動だ。乾電池式は乾電池をセットすればすぐに使えるが、充電電池式は最初に充電する必要がある。



WorkPad 30J電池ボックス

乾電池式は付属の乾電池をセットする。その際は端子の形に惑わされずに、刻印を確認してセットする。WorkPad 30Jなどは間違える代表例ともいえるだろう。

充電電池式は充電しなくては使えないので、充電器となるクレードルとACアダプターを準備して、Palmマシンをクレードルにセットして充電をする。最初の充電にだいたい4時間は必要だ。

どちらの種類にもいえるのだが、Palmマシンは電源が完全になくなると、内部のデータもなくなってしまう。そのためにも、電池の残量管理には気を使ってほしい。基本的には残量が少なくなると画面にメッセージが表示されるので、その表示を見たら無理に使い続けずにPalmマシンの電源を切り、すぐに電池を交換するか充電を行う。

乾電池式のPalmマシンは乾電池をセットした直後に、充電電池式のPalmマシンは電源ボタンを押すと、画面にPalmマシンを初期設定する画像が自動的に表示されるのでPalmマシンからスタイラスを取り出し、画面の指示に従って初期設定をする。

## スタイラスさばきをマスターせよ

最初の章で最低限のスタイラス操作「タップ」「ドラッグ」をマスターしていると思う。しかし、Palmマシンにはそれ以外にもまだまだスタイラスを使用した操作方法、Graffiti(グラフィティ)が用意されている。もともと紙とペンのイメージであるPalmマシンは使っている最中に、操作のためスタイラスを持ち替える必要がないように考えられているのだ。

次の内容をマスターすれば、さらにPalmマシンをすばやくかつスムーズに操作できるようになるだろう。Graffitiでの操作は最初は難しいかもしれないが、練習してぜひマスターしてほしい。



## より高度なスタイルス応用操作

また、文字入力以外にスタイルスだけでできることがほかにもある。目立った操作ではないが、文字入力後の漢字変換やカーソルの移動などだ。Palm マシンの液晶画面上には変換とか確定のボタンが用意されているが、それらを使うまでもなくスタイルスだけで操作が可能なのだ。PCでの漢字変換を思い出してほしい。ほとんどの場合、ローマ字入力後にスペースキーを押して漢字変換をして、リターンキーで確定していると思う。Palm マシンでの文字入力も同様で、ローマ字入力完了して、文字に下線がある状態でスペースを書き込むと、漢字に変換する。続けてスペースを書き込むと、次候補に切り替わる。決まったところで改行を書き込むと確定される。この操作を覚えてしまえばリズムを崩さずに、Graffiti 文字入力を続けるだけで入力が可能だ。

## 4大アプリを使いこなせ

Palm マシンは、ビジネスはもちろん、遊びにも使えるツールだ。Palm マシンには最初からいろいろなソフトウェアが内蔵されているのだが、最初のうちはPalm マシンの基本となる4大アプリケーション（予定表 / アドレス帳 / ToDo / メモ帳）をマスターして、自分の生活にPalm マシンを溶け込ませよう。それぞれのアプリケーションは、Palm マシンの前面にあるボタンをひと押しすれば、起動できるという手軽さだ。

### 予定表

自分のスケジュールを管理するのが、予定表だ。予定を管理することで、すでに入っている予定を忘れて別の予定を組んでしまいあとで慌てたり、友人や彼女の誕生日を忘れて大ピンシクを買うというありがちなトラブルを未然に防ぐことができる。また、入力された予定は消さない限り記録として残っているので、あとでどのような予定があったのか確認することも可能だ。

予定は、大まかに以下の2つに分類できるだろう。それらを踏まえたいうで、予定を入力することになる。

時間が指定されたもの

会議 / 出張 / 飛行機の搭乗予定 / 講習会 / 映画の観賞など

時間が指定されていないもの

休日 / 誕生日 / 記念日など

- ① 入力準備 .....  
 予定表を起動して、日表示モードにする。日表示でないときは、予定表ボタンを何度か押して切り替える
- ② 項目の入力 .....  
 入れたい予定の開始時間の行をタップして入力モードに切り替

え、予定の項目を入力する。項目の入力を終わると、予定は自動的に1時間の枠を設定する



予定表の日表示



予定表の日表示(予定を入れたところ)

### ③ 時間の設定

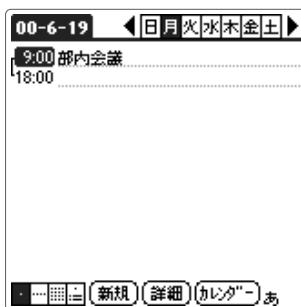
予定の時間が1時間でない場合は、反転している時間をタップして時間の設定をする。なお、この画面中で開始時間と終了時間を変更できるほか、「終日」や「指定なし」を選択することで、その予定の種類を変えることができる



時刻の設定



開始時間と終了時間を指定した場合



終日の場合



指定なしの場合

### ④ 予定の表示

入力が終わった予定は、状況に合わせて表示方法を変えて閲覧することができる

日表示

予定を1日単位で表示する。

予定の時間帯から内容までを確認できる

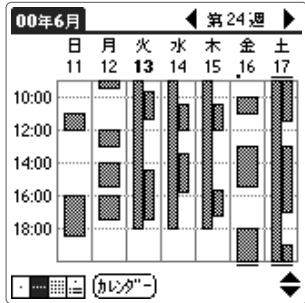


1日単位で表示した場合



### 週表示

予定を1週間単位で表示する。予定の詳細は見えないが、1日のどの時間帯に予定があるのかを確認できる。Visorにのみ搭載される予定表+では、別のモードでの週表示が用意されている



1週間単位を時間帯で表示



Visorの予定表+では、詳細表示も可能

### 月表示

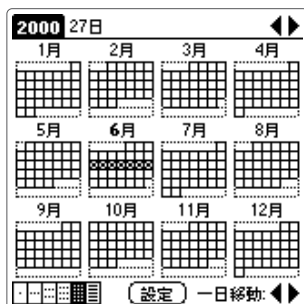
予定を1カ月単位で表示する。週単位と同様、予定状況の確認用画面として使う



予定を1カ月単位で表示

### 年表示(Visorのみ)

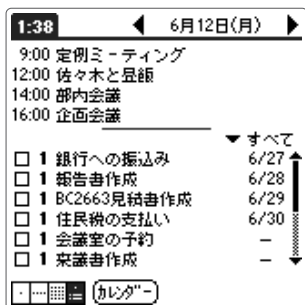
Visorにのみ搭載される予定表+では、予定を1年単位で表示するモードもある



Visorの予定表+は1年単位も表示

### 一覧画面

予定表と同時にToDoも表示できる一覧画面。Visorでは予定表+に含まれている



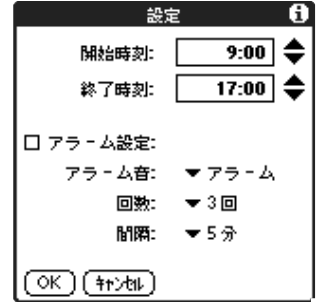
予定表とToDoを同時に表示



ToDo一覧画面

### 開始時刻と終了時刻の設定

仕事で使う場合は、会社の始業時刻と終了時刻までの間を表示するように設定すれば、画面をスクロールすることなく、すっきりと閲覧できる



開始時間と終了時間の設定



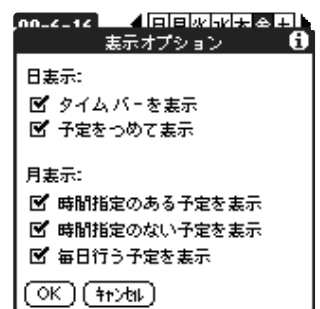
時刻設定しない場合(右下の矢印画面外にも予定があることを表示)



時刻設定した場合(画面内にすべての予定が収まる)

### 長い予定は時間をつめて表示

1時間を超える会議やセミナーの予定などは、予定を入力しても表示が間延びしてしまい、画面の無駄だ。こういう場合に備えて、自動的に予定の表示をつめて表示する機能がある



表示オプション画面



表示をつめない場合



表示をつめた場合

### アドレス

アドレスは、最も使用率の高いアプリケーションだろう。アドレスには、名前/住所/電話番号/メールアドレスなど個人情報を記録することができる。アドレスに入力された情報は、ほかのアプリケーションで利用される場合もあるので、面倒でもできるだけ詳細に入力しておくこと。

## ① 入力準備

アドレスを起動して「新規」ボタンをタップする

## ② 内容の入力

入力枠が表示されるので、入力欄に合わせて内容を入力する。名前の入力は、「よみ」の欄を飛ばして姓/名から入力されるようになっており、漢字入力とともに自動で、「よみ」が入力されるようになっている。ただし、入力する名前によって、「よみ」が異なる場合もあるので、その際は「よみ」の欄を再入力して修正する。入力後は、必ず「終了」ボタンをタップする

内容に合わせて入力

## ③ アドレスの検索

入力されたアドレスは、アドレス画面で一覧表示できる。ところが、件数が多いと、1画面に表示しきれなくなり、目的のアドレスまで延々とスクロールをする必要がある。そういう場合は、アドレス画面の下にある検索エリアに目的のアドレスを入力すると、自動で検索を行ってくれる

アドレス一覧

自動検索機能

## アドレスの分類設定

分類したいアドレスを開き、「編集」ボタンをタップする。続いて「詳細...」ボタンをタップして、「カテゴリー」メニューから目的の分類

アドレスを開き、「編集」をタップ

「アドレスの詳細」から分類を設定

先を選択する。「OK」をタップすると完了だ。また同様の内容を画面右上のカテゴリーメニューからも設定できる

「カテゴリーメニュー」からも設定できる

## ToDo

ToDoを日本語で書くと、備忘録となる。用件など忘れてしまいそうなことを記録しておくのが、ToDoだ。予定表にその都度、記録する方法もあるが、用件が予定に埋もれてわからなくなってしまうたり、用件が一覧できなかつたりするので、専用のアプリケーションが用意されている。ToDoを使いこなすことで用件の整理が楽になり、効率のよい行動ができる。

## ① 入力準備

ToDoを起動して「新規」ボタンをタップする

## ② 項目の入力

入力枠が表示されるので用件を入力する

## ③ 優先度の設定

入力した用件が、ほかの用件と比較して先または後なのかを設定する。優先度は1から5までの数字で表現されており、通常は最高の1となる。急ぐ予定は1となり、そうでない予定は5となる。ToDoでは優先度に合わせて用件が自動的に並べ替えられ、上の方に急ぐ用件が表示される

優先度に応じて、1~5までを選択できる

## ④ 用件の終了

すべての用件には、先頭へのチェックボックスがある。終わった用件は にチェックを付けて、ほかと区別する

終了した用件にはチェックを付ける



⑤ ToDoの表示

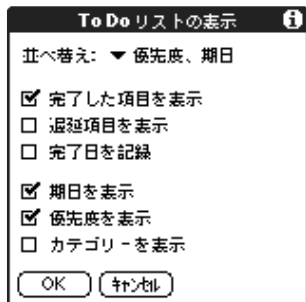
入力されたToDoはToDo画面のほか、予定表内の一覧表示モードでも閲覧することができる



ToDo画面と予定表一覧を同時に表示

期日表示の設定

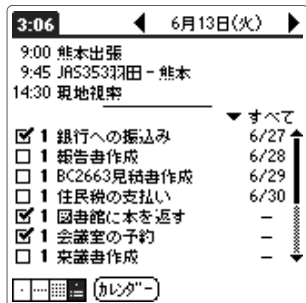
期日を設定するならば、ToDo画面内にも期日を表示できるように設定をする必要がある。ToDoの画面内にある表示ボタンをタップし「ToDoリストの表示」内で、「期日を表示」にチェックを付ける。なお、この設定は予定表内の一覧表示モードにも反映される



ToDoリストで「期日を表示」を設定



用件の期日が表示される



予定表内の一覧表示にも期日が表示される

用件に期日を付ける

用件には優先度のほかに、期日をつけることができる。期日をつけることで、同じ優先度内でも用件の差別化ができる

メモ帳

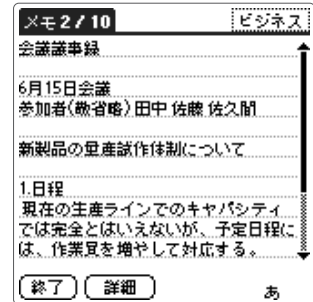
メモ帳はちょっとした文章や、気になったことを書き留めておくアプリケーションだ。使い方にこれといった決まり事はないが、入力できるのは文字情報のみで、残念ながら本アプリケーションに絵を書き込むことはできない。

① 入力の前準備

メモ帳を起動して、「新規」ボタンをタップする

② 項目の入力

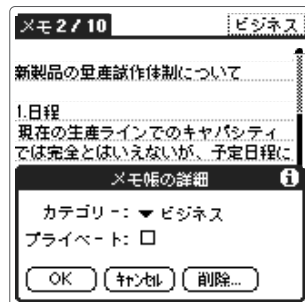
メモ欄が表示されるので、メモを入力する。メモの一覧表示時に入力されたメモの1行目がタイトルとして表示されるので、1行目にメモの内容がわかるようにしておく



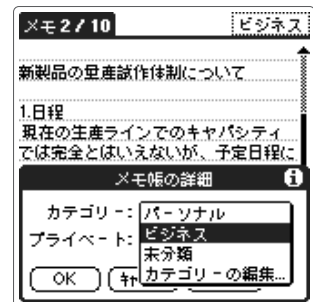
1行目がそのままタイトルになる

③ カテゴリの設定

入力したメモが、どのようなカテゴリに分類されるかを設定する。「詳細」をタップしてカテゴリメニューから目的の分類先を選択する。「OK」をタップすると完了だ。また同様の内容を画面右上のカテゴリメニューからも設定可能だ。最後に「終了」をタップしてメモは保存される



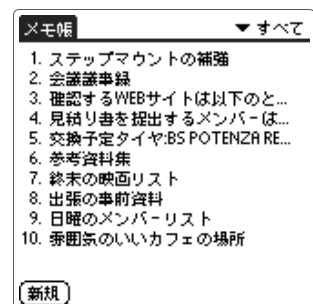
まず、メモ帳の詳細を表示



カテゴリメニューの中から選択

④ ToDoの表示

入力されたメモは、メモ帳を起動するだけで一覧表示される。その中で見たいメモをタップすれば、内容が表示される



メモ帳を起動すると、メモ一覧を表示

まずは、「Palmマシンを使ってみる」ということで、基本中の基本を並べて簡単に説明した。詳細な説明については、付属の説明書や本誌を読んでみてほしい。ちょっとでも使えるようになれば、「なぜPalmマシンに人気があるのか」が理解できると思う。もちろん、Palmマシンの魅力はこの程度ではない。深みにハマること請け合のPalmワールドは、使ってみないとわからないのだから。

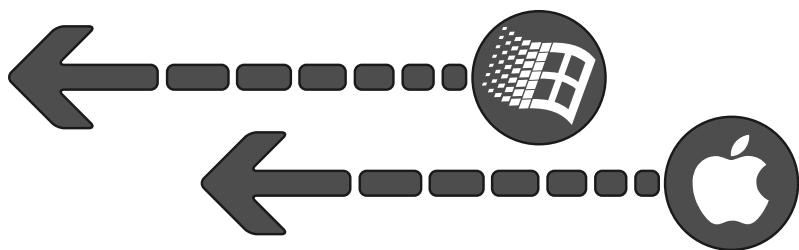
# Part 2. 追加アプリのインストール方法

神保暢雄



マークの付いたソフトウェアは、本誌付録のCD-ROMに収録されています

Palmは標準に備わっているもの以外に、さまざまなアプリケーションをインストールでき、自分ならではのマシンに変身させることも可能だ。Part.2では、これら追加アプリケーションのインストール方法を説明しよう。



## HotSync できる状態でスタート

Palmにはあらかじめ「予定表」や「住所録」といったソフトウェアが組み込まれている。さらに、ソフトメーカーや一般のシェアウェア作家が開発したソフトを組み込むことで、自分の用途に合わせてカスタマイズ可能だ。

Palm向けのソフトウェアは「Palmware」と呼ばれ、実際に利用するためにはパソコンを介してインストール作業を行う必要がある。Palmwareのインストールを行うには、インストールしたいPalmwareをパソコン上の「Palm Desktop」に登録しておく。HotSync作業を行うと、各種データに加えてソフトウェアもインストールされる仕組みだ。作業を開始する前に、母艦となるマシンとHotSyncできる状態にすることが必要。では、WindowsとMacintoshそれぞれのインストールの手順を解説していこう。

## Palmwareの配布形式に注意

PalmにインストールできるPalmwareは「.prc」という拡張子が付いている。Windowsの場合は、拡張子を判別して自動的にアイコンが付けられるため判別しやすいが、Macintoshの場合はMacBinaryが正しく設定されていない場合があるので注意が必要だ。ただし、MacBinaryが設定されていないPalmwareの場合は問題なくインストールできるので心配しなくてもいい。

なお、一部のPalmwareはWindows上で動作する自己解凍形式ファイルや、インストーラーになっているケースもあるが、

Palmwareの多くはZIP形式で圧縮されて配付されている。ZIP形式のファイルは、本誌付録CD-ROMに収録されている「WinZip」を利用すれば解凍できる。

## 各種データも組み込み可能

Palmでは、各種データもソフトウェアと同様にインストールできる。そのためには、テキストや画像などのデータはあらかじめ「.pdb」という拡張子の付いたファイルに変換しておく必要がある。

なお、各種データをPalmにインストールする場合、それぞれのデータを読み込むためのPalmwareを忘れずに組み込んでおこう。

## ちょっと変わったインストール法

PCとHotSyncする以外にも、いくつかのインストール方法がある。ひとつは、TRGproのCFカードまたはaxxPacのスマートメディアを介する方法だ。PCカードスロットを搭載したPCがあれば、HotSyncせずにPalmwareや各種データをインストールできる。

ふたつ目は、Palmの赤外線ポートを使った方法だ。あらかじめ1台のPalmにPalmware、またはデータがインストールされている必要があるものの、ユーザー同士のデータ転送といった用途には十分に利用できる。Palm OS標準のランチャーでメニューから「Beam」を選択すると、送信できるPalmwareまたはデータの一覧が表示される。送信したいものを選択して「Beam」ボタンを押せば、転送が開始される。なお、ランチャーのBeam機能では一部のPalmwareやデータが転送できないケースがある。その場合には「Beamware」などの転送用ソフトウェアを使おう。



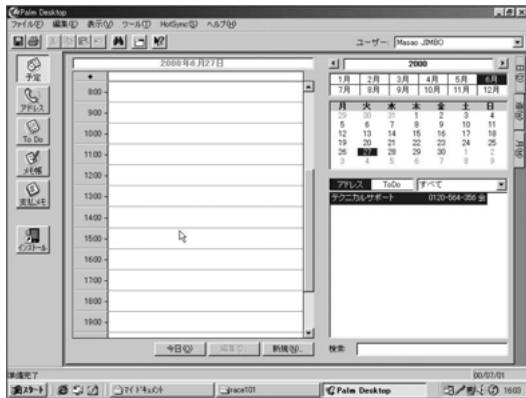


## WindowsでPalmwareをインストール

Windowsの場合には、「Palm Desktop」を起動してインストール予約作業を行う必要がある。基本的な操作方法は以下の通りだ。

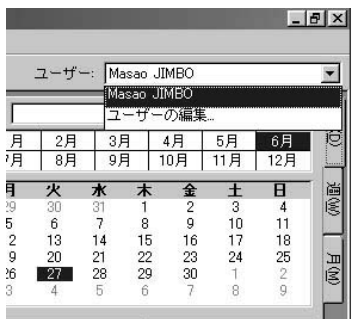
なお、「InteliSync」といったシンクソフトを使っているユーザーは、Palmwareを組み込むたびにPalm Desktopを起動するのは面倒な作業だ。そんな場合には「Palm Install Tool Plus」を使用することにより、アイコンへのドラッグ&ドロップでPalmwareを組み込むようになる。

「スタート」メニューから選択するか、もしくはデスクトップにある「Palm Desktop」アイコンをダブルクリックして「Palm Desktop」を起動する



まずは、「Palm Desktop」を起動する

「Palm Desktop」ウィンドウが表示されたら、「インストール」ボタンをクリックする。複数のPalmを利用している場合には「ユーザー」メニューであらかじめ転送先を指定しておく



インストールボタン

複数のPalmを使用の場合は「ユーザー」メニューであらかじめ転送先を指定

また、Palmwareアイコンをダブルクリックして、インストール作業を行う方法もある。Palmwareアイコンをダブルクリックするとユーザー指定ダイアログが表示されるので、ユーザー名を選択して「OK」ボタンをクリックしよう



Palmwareアイコンをダブルクリックして、インストール作業を行う際は、ユーザー指定ダイアログのユーザー名を選択

「インストールツール」ダイアログが表示される。Palmwareアイコンをダブルクリックした場合には、リストに自動的に追加されている。「Palm Desktop」を起動した場合には「追加」をクリックしよう



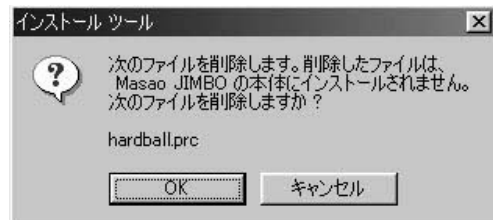
「インストールツール」ダイアログを表示

「開く」ダイアログが表示されるので、インストールしたいPalmwareを選択して「開く」ボタンをクリックしよう。複数のファイルを同時に選択することもできる



インストールしたいPalmwareを選択

間違っってリストに追加してしまった場合には、リストから削除したいPalmwareを選択して「削除」ボタンをクリックする。すべての作業を終えたら「終了」ボタンをクリックしよう



間違っってリストに追加した場合は、リストから削除したいPalmwareを選択

確認のダイアログが表示されるので、「OK」ボタンをクリックしよう。PalmをクレードルにセットしてHotSyncボタンを押すと、インストールが開始される



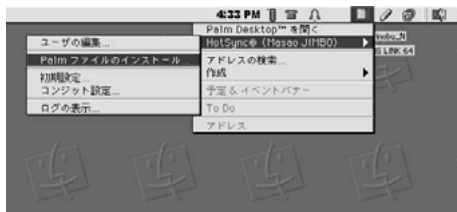
確認のダイアログを表示

## MacintoshでPalmwareをインストール

Macintoshの場合は、以下に解説した方法のほかにPalmwareファイルをダブルクリックすることで、リストに追加可能だ。ただし、前述のようにMacBinaryの問題があるので、できるだけダイアログを利用した方法でインストール作業を行うことをお勧めする。

なお「SimpleInst 2」を使用すれば、より簡単にインストール作業を行うことも可能だ。

MacintoshをPalm OSの母艦にしている場合には、まずメニューバーにあるクイックメニューの「HotSync」サブメニューから「Palmファイルのインストール」を選択する



まず「Palmファイルのインストール」を選択

「Palmファイルのインストール」ダイアログが表示される。複数のPalmを1台のMacintoshで管理している場合には、「ユーザー」メニューで組み込み先を指定しておく



複数のPalmを1台のMacintoshで管理している場合には、「ユーザー」メニューで組み込み先を指定

「リストに追加」ボタンをクリックして、「開く」ダイアログでインストールしたいソフトを選択する。複数のPalmwareを組み込む場合には、この作業を必要だけ繰り返そう



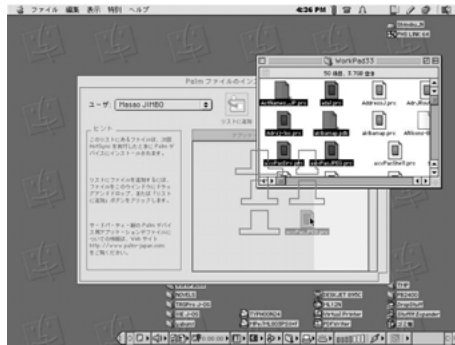
インストールしたいソフトを選択

MacBinaryが正しく設定されていないPalmwareは、「開く」ダイアログに表示されない場合がある。その際には「表示」メニューを「すべてのファイル」に切り替えることで表示される



MacBinaryが正しく設定されていない場合は「表示」メニューを「すべてのファイル」に切り替える

また、このウィンドウはドラッグ&ドロップによる追加にも対応している。複数のPalmwareを同時にインストールしたい場合に便利な機能だ。MacBinaryが設定されていなくても、追加することができる



ウィンドウはドラッグ&ドロップによる追加にも対応

リストからPalmwareを削除したい場合には、該当するPalmware名を選択した状態で「リストから削除」ボタンをクリックしよう。確認のダイアログが表示されるので「削除」ボタンをクリックする



リスト削除確認のダイアログが表示される

すべての作業が終了したら、クローズボックスをクリックしてダイアログを閉じる。クレードルにPalmをセットしてHotSyncボタンを押すと、インストールを行うことができる



クレードルにPalmをセットしてHotSyncボタンを押せば、インストール完了



## インストールを簡単にするユーティリティー

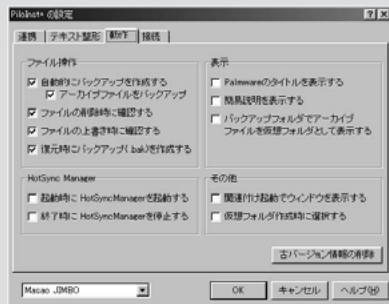
### Palm Install Tool Plus

作者: mas氏 対応OS: Windows 95/98 バージョン: 1.5.0

WindowsでのPalmwareのインストールを簡単に行うためのユーティリティーソフトだ。Palmwareのインストール予約はもちろん、インストールしたPalmwareのバックアップや拡張子による各種データの自動変換機能なども備えている。「Palm Install Tool Plus」のアイコン、またはウィンドウにPalmwareをドラッグ&ドロップすることで手軽にインストール予約を行うことができる。また、「unlha32.dll」と「unzip32.dll」をWindowsに組み込んでおくことで、LZHおよびZIP形式の圧縮ファイルを解凍せずに、インストール予約も可能。多くのフリー&シェアウェアのPalmwareを利用している人に便利な機能だ。さらに、テキストファイルや画像ファイルをドラッグ&ドロップすると、DOCデータやFireViewerデータへの変換を自動的に行う機能もある。この機能を利用するためには、あらかじめ変換用のソフトウェアをWindowsにインストールしておく必要がある。同氏のホームページから入手可能( <http://www5.airnet.ne.jp/mas/> ) だ。



「Palm Install Tool Plus」のメイン画面。インストール以外にも、既存のPalmwareについての情報やリンク先を表示する機能がある



バックアップや、HotSyncマネージャの自動起動/終了などの設定が可能



テキストをインストールしようとする時、DOC形式への変換ソフトと連携して自動変換する機能もある

### Palm SimpleInst2

作者: 吉沢 正敏氏 対応OS: Macintosh OS バージョン: 2.0.1

「SimpleInst2」は同ソフトのアイコンにPalmwareファイルをドラッグ&ドロップするだけでインストール予約を行ってくれるユーティリティーソフトだ。デスクトップにエイリアスを置いたり、「FinderPop」を利用してコンテキストメニューにエイリアスを登録しておけば、非常に簡単にPalmwareをインストールできるようになる。

前述の「Palm Install Tool Plus」と異なり、テキストや画像データの変換機能はないものの、インストール作業を簡略化できる非常に便利なツールだ。

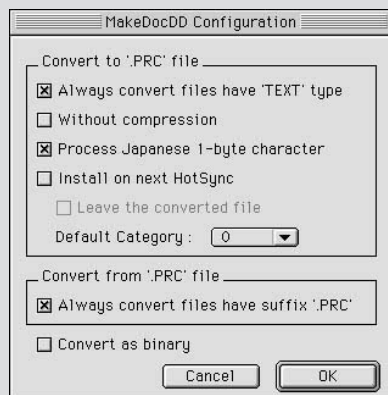
なお、同じ作者による「MakeDocDD」を使えば、テキストファイルをドラッグ&ドロップするだけでDOCデータに変換し、「SimpleInst2」の機能を利用してインストール予約を行えるようになる。



SimpleInst2はドラッグ&ドロップでPalmwareのインストール予約を行えるユーティリティーだ



コマンドキーを押しながらSimpleInst2を起動すると、設定用のダイアログを表示する



「MakeDocDD 1.0.2」を併用すれば、テキストファイルをDOCへ変換してインストール予約を自動的に行える

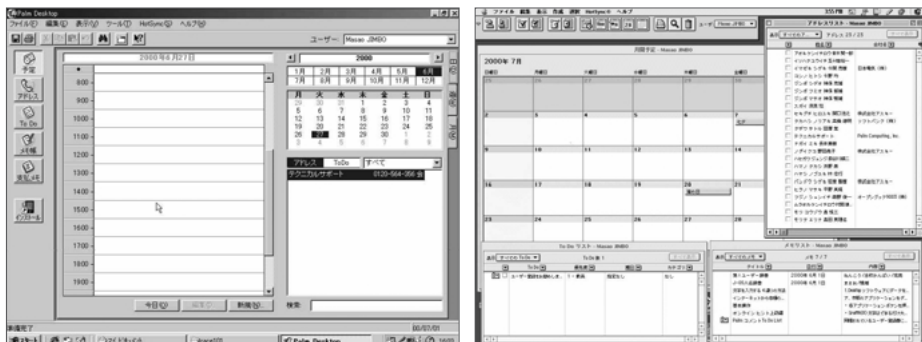
# Part 3. Palmと母艦の接続とデータ連動

神保暢雄

Palmは単体でも予定表や住所録などのデータの入力/編集機能を備えている。さらに標準でパソコンとデータを連携して管理することも可能だ。Part.3では、Palmと母艦の接続とデータ連動について説明しよう。



マークの付いたソフトウェアは、本誌付録のCD-ROMに収録されています



Windows版(左)とMacintosh版(右)のPalm Desktop。パソコン上での予定表や住所録ToDoなどのデータ管理や、Palmwareのインストールなどを行える

## Palmとクレードルを確認

パーム コンピューティング社の「Palm x」と「Palm c」、そしてハンドスプリング社の「Visor」には、あらかじめWindowsとMacintosh用の連携ソフトが付属する。IBMの「WorkPad c3」の場合にはWindows用のソフトしか付属しないので、Macintoshユーザーは別途「Palm Connect」パッケージを購入する必要がある。

製品パッケージには、Palmとパソコンを接続するための「クレードル」がセットになっており、Visorを除いて、基本的にはシリアルポートを通してデータの転送を行う。Visorの場合は、標準ではUSB接続用のクレードルが付属している。それぞれの製品の対応状況は、表を参照してほしい。また、外出先で利用するための専用ケーブルを使用したり、赤外線ポートを備えたパソコンを使って、Palm OSの赤外線ポート経由のデータ転送も可能だ。

### 各PalmのWindows / Macintoshの対応状況

製品名	シリアル / Windows	シリアル / Mac	USB / Windows	USB / Mac
Palm Vx	標準	標準	×	オプション
Palm IIIc	標準	標準	×	オプション
WorkPad c3	標準	オプション	×	オプション
Visor	オプション	オプション	標準	標準

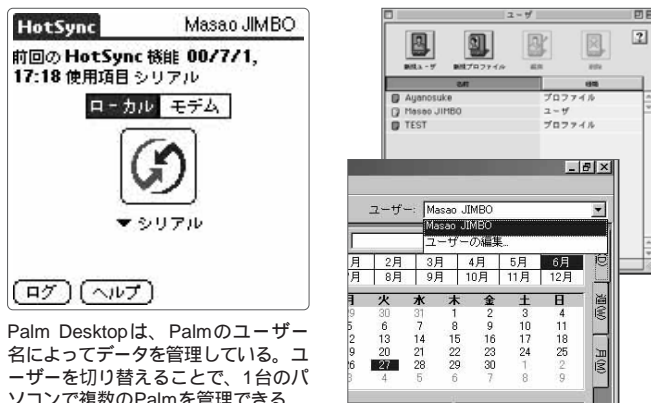
注: Windowsの場合、現在製品に付属する日本語版のPalm DesktopではUSB接続でのHotSyncには非対応(英語版は可)。シリアルとUSB接続では対応状況が異なるので注意

## 母艦とPalmの関係

Palmとパソコンとの間でデータ転送する場合、お互いに関連付けを行っておく必要がある。基本的には、1台のPalmは1台のパソコン

としかデータをやり取りできない点に注意しておきたい。この際、Palm側に使用するユーザー名が登録される。シェアウェアのPalmwareの一部では、このユーザー名によって登録コードを管理している場合があるため、日本語ではなくアルファベットで登録しておくといだろう。一度ユーザー名を付けてしまうと、変更するためにはPalmをハードリセットする必要がある。なお、ユーザー名はPalm上の「HotSync」アプリケーションで確認できる。

パソコン上でのデータ管理は「Palm Desktop」アプリケーションで行う。PalmのGraffitiに慣れない人はパソコンのPalm Desktopでデータを入力し、Palmに転送するといだろう。また、パソコン上でデータを管理することで、Palmのデータが誤って消去された場合にも元の状態に戻すことができる。



Palm Desktopは、Palmのユーザー名によってデータを管理している。ユーザーを切り替えることで、1台のパソコンで複数のPalmを管理できる

## データの管理方法をコンジットで設定

パソコンに接続したクレードルをPalmにセットし「HotSync」ボタンを押すと、データの連携作業が開始される。予定表や住所



録、ToDo、メモなどの基本ソフトに加え、追加ソフトのデータも転送可能だ。また、Palmwareの組み込みも入る。

それぞれのデータの連携は「コンジット」機能によって管理されている。Palm Desktopにサードパーティー製のコンジットを追加することで、標準ソフト以外のPalmwareとのデータ連携も行うことが可能だ。

実際にPalmを利用していると、パソコンとPalmのどちらで主にデータを入力するかが決まってくるだろう。通常、Palm DesktopアプリケーションはHotSyncを行うと、パソコンとPalmのデータを比較して、追加/削除されたデータを同期するようになっている。用途によっては、必ずパソコン上のデータでPalm側のデータを上書きしたいというケースが出てくるはずだ。

このようなケースに備えて、Palm Desktopにはそれぞれのデータをどのように扱うかを設定する機能がある。設定はパソコンとPalmのデータを同期、パソコンのデータでPalmのデータを上書き、Palm上のデータでパソコンのデータを上書き、連携しないの4種類を選択することが可能だ。この設定はコンジットごとに指定できるので、柔軟なデータの連携を行える。



データの連携方法を切り替えるコンジットの設定画面。コンジットによっては4種類すべてを選択できない場合もある

それでは、WindowsとMacintoshそれぞれのPalm Desktopの組み込みと、実際のHotSync作業について詳しく解説する。

## Windows版 Palm Desktopのインストールと設定

ここではWindows版のPalm Desktopのインストール方法を解説する。Palm x/cとWorkPad c3は同様の手順で、Visorについてはシリアルクレードルの代わりに専用のUSBクレードルを使ってそれぞれ組み込み作業を行う。

パソコン本体のシリアルポートにクレードルを接続する（Visorの場合は、USBクレードルを接続する）



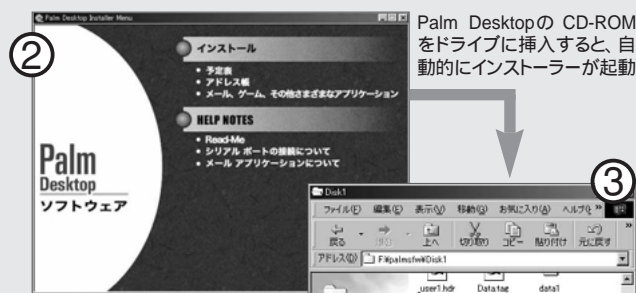
Windowsマシンのシリアルポート

Palm DesktopのCD-ROMをドライブに挿入すると、自動的にインストーラーが起動する。「インストール」と書かれた場所をクリックすると、インストール作業が開始される

起動しない場合には「マイコンピュータ」のCD-ROMドライブアイコンを開き、「PALMSW」「DISK1」の中にある「setup.exe」をダブルクリックする

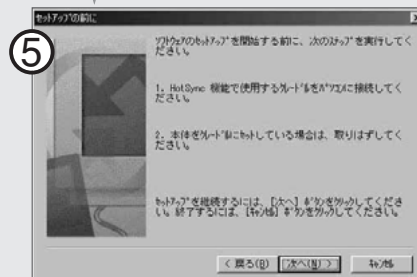
インストーラーが開始され、「ようこそ」ダイアログが表示される。「次へ」ボタンをクリックしてインストーラーの指示に従って作業を進める

「セットアップの前に」ダイアログが表示されるので、クレードルが正しく接続されているのを確認し、さらにPalmをクレードルから取り外した状態で、「次へ」ボタンをクリックする



Palm Desktopの CD-ROM をドライブに挿入すると、自動的にインストーラーが起動

起動しない場合は、CD-ROMドライブ内の「DISK1」の「setup.exe」からインストールを開始させる



「セットアップの前に」ダイアログ表示で、クレードルの接続と取り外しを確認

「セットアップ種類の選択」ダイアログでは、「標準」または「カスタム」のどちらかを選択できる。初めてインストールする場合には、「標準」を選択しておく

⑥のダイアログで「カスタム」を選択した場合、「コンポーネントの選択」ダイアログが表示される。必要なコンポーネントをチェックして、「次へ」ボタンをクリックする

インストールの種類を選択を終えたら、「ユーザーアカウントの作成」ダイアログが表示される。ここで入力したユーザー名がPalmに設定される。設定が終了したら、「次へ」ボタンをクリックする

次にクレードルが接続されたポートの設定を行う。ダイアログに従ってクレードルにPalmをセットしたら、「OK」ボタンをクリックする

使用可能なシリアルポートが一覧表示されるので、クレードルを接続しているポートを選択して、「OK」ボタンをクリックする

引き続き、パソコンのメールソフトとPalm OS上の「メール」アプリケーションを連携する設定を行うことができる。設定する場合には、「はい」ボタンをクリックする

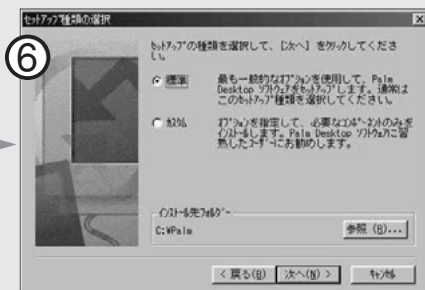
使用しているメールソフトをメニューから選択する。利用しているソフトがない場合には「キャンセル」ボタンをクリックする

セットアップ完了。インストール後に、設定を変更することも可能だ。「次へ」ボタンをクリックする

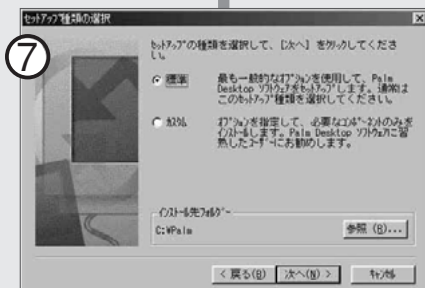
使っているメールソフトによっては、設定に関する注意が表示される場合がある。内容を確認して、「OK」ボタンをクリックする

セットアップが終了したら、ダイアログの「終了」ボタンをクリックしよう。これでセットアップ作業は終了だ

セットアップが終了したら、「終了」ボタンをクリック



「セットアップ種類の選択」の際、初めてインストールするなら「標準」を選択



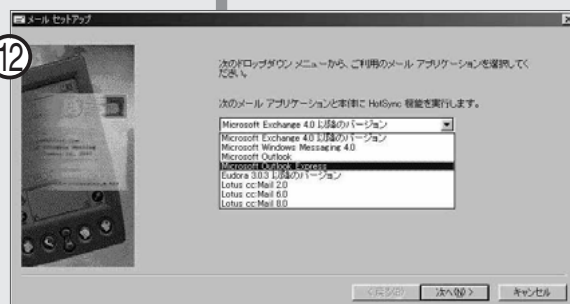
「セットアップ種類の選択」の際に「カスタム」を選択した場合、必要なコンポーネントをチェック



「ユーザーアカウントの作成」で入力したユーザー名がPalmに設定される



クレードルを接続しているポートを選択



使用しているメールソフトをメニューから選択



メールソフトによっては、設定に関する注意が表示される



## HotSync を行ってみよう

Palm Desktop の組み込みが終了したら正しくインストールできているか、実際に HotSync して確認しておこう。ここでは、初めて HotSync する際に必要な設定についても紹介する。

デスクトップ上の「Palm Desktop」アイコンをダブルクリックするか、「スタート」メニューの「プログラム」 「Palm Desktop」 「Palm Desktop」を選択して「Palm Desktop」を起動する

Palm Desktop が起動したら、「HotSync」メニューから「起動 / 接続設定」を選択する

「起動 / 接続設定」ダイアログが表示されたら、「起動」タブをクリックする。ここでは、いつ HotSync を行える状態にするか設定できる

次に「ローカル」タブをクリックして、クレードルが接続されているポートが正しく設定できているか確認しよう

クレードルに Palm をセットし、HotSync ボタンを押す。自動的に Palm の電源がオンになり、HotSync 作業が開始される

初めて HotSync 作業を行った場合には、Palm のユーザー名を設定するダイアログが表示される。ユーザー名を選択して「OK」ボタンをクリックしよう

HotSync 実行中は、どのデータの同期作業を行っているかが表示される。途中で HotSync を終了したい場合には、「キャンセル」ボタンをクリックしよう

① デスクトップ上から「Palm Desktop」を起動

② 「HotSync」メニューから「起動 / 接続設定」を選択

③ いつ HotSync を行える状態にするか設定する

④ クレードルが接続されているポートの設定の確認

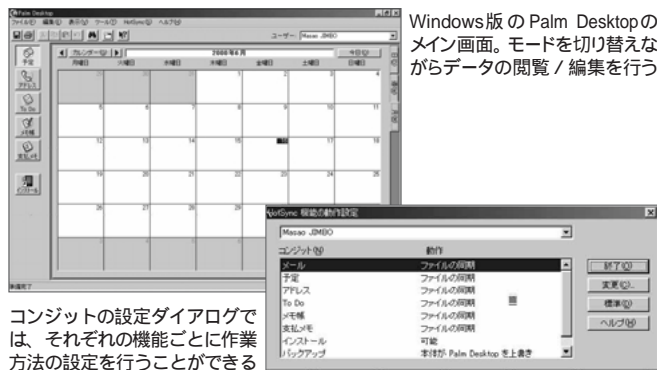
⑤ クレードルの HotSync ボタンを押して、HotSync 作業を開始

⑥ Palm のユーザー名を選択

⑦ HotSync 実行中、どのデータの同期作業の過程を表示

## Palm Desktopと標準アプリケーションの対応とコンジットの設定

ここでは、Windows版のPalm DesktopとPalm上の標準アプリケーションのデータ連携について解説する。それぞれのソフトのデータ連携については、個別に動作を指定可能だ。Windows版のPalm Desktopでは、Palmの予定 / アドレス / ToDo / メモ帳 / 支払いメモの各アプリケーションのデータと連携を行うことができる。



Windows版のPalm Desktopのメイン画面。モードを切り替えながらデータの閲覧 / 編集を行う

コンジットの設定ダイアログでは、それぞれの機能ごとに作業方法の設定を行うことができる

Palm Desktopを起動すると、「Palm Desktop」画面が表示される。それぞれのデータ呼び出すには、各アプリケーション名の付いたボタンをクリックする。また、複数のPalmと連携している場合には、画面右上のユーザー名メニューを切り替えることで、それぞれのデータを表示できる。メールのデータに関しては日ごろから使っているメールソフトと連携するため、Palm Desktopではコンジットの設定のみを行う。それぞれのモードに関しては以下の解説を参照してほしい。

コンジットの動作を設定するには、「HotSync」メニューの「動作設定」を選択し、「HotSync機能の動作設定」ダイアログを呼び出す。コ

ンジット名をダブルクリックするか、コンジット名を選択して「変更」ボタンをクリックすると動作を設定できる。各コンジット設定画面で「標準として保存」チェックボックスをオンにしておくと、次回からも同様の設定でHotSyncが行われる。なお、複数のPalmを1台のパソコンで管理している場合には、ユーザー名をメニューから選択することでユーザーごとに動作を設定可能だ。「標準」ボタンをクリックすると初期状態に戻る。

## Windows版Palm Desktopの基本機能

### 予定

Palm Desktopから「予定」ボタンをクリックすると、予定表画面に切り替わる。1日の詳細な予定を表示する「日」と、1週間の予定を一覧表示する「週」、1カ月の予定を一覧表示する「月」の3つの表示モードを備えている。

「日」画面では、予定表のほかに、アドレスまたはToDoのデータを表示することができる。このアドレスやToDoのデータは予定欄にドラッグ&ドロップすることが可能。新しい予定データを入力するには「新規」ボタンをクリックして「予定の編集」ダイアログを呼び出すか、直接一覧の該当箇所をクリックして内容を入力する。「予定の編集」ダイアログでは時間や日付、アラームなどの設定を行える。それぞれの予定はドラッグ&ドロップで日付や時間を変更する。

「週」画面では、1週間の予定を時系列に表示できる。この画面でもドラッグ&ドロップによる予定の変更を行える。

「月」画面では、各予定の開始時間をカレンダー上に表示する。1日の予定は通常4つまで、それ以上多い場合にはその日の枠をクリックすると、すべての予定を表示してくれる。なお、このモードではドラッ

## Windowsで赤外線HotSyncを行う

赤外線ポートを備えたWindows 95 / 98マシンでは、クレードルやケーブルの代わりに赤外線ポートを利用してHotSyncを行うことができる。設定方法は以下の通り。

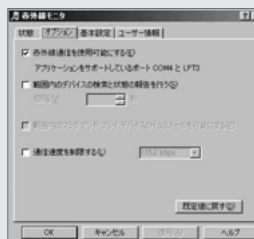
「スタート」メニューの「設定」「コントロールパネル」を選択して「コントロールパネル」画面を開き、「赤外線モニタ」アイコンをダブルクリックする。「赤外線モニタ」ダイアログが表示されたら、「オプション」タブをクリックして「赤外線通信を使用可能にする」チェックボックスをオンにしよう。このとき「アプリケーションをサポートしているポート」の「COM」ポートが何番かを確認して

おく。Palm Desktopを起動して「HotSync」メニューから「起動 / 接続設定」を選択し、ダイアログから「ローカル」タブを選択する。「シリアルポート」欄を先ほど確認したポート番号に変更する。

Palm側は、Palm OSのバージョンによって方法が異なる。ここでは現在標準のPalm OS 3.5で解説する。「HotSync」アプリケーションを起動し、画面中央にあるメニューから「IR to PC/Hand held」を選択する。その状態でパソコンとPalmの赤外線ポートができるだけ密着するように配置する。離れすぎているとHotSyncが正しく行わ

れなかったり、まったく通信できないことがある。画面上のHotSyncボタンをタップすると、クレードルの場合と同様にHotSyncが開始される。

なお、Palm OS 3.1Hを搭載したVisorは、標準状態では赤外線でのHotSyncに対応していないので注意。



赤外線HotSyncを行うためには、Windowsマシン側で赤外線ポートをオンに設定しておく

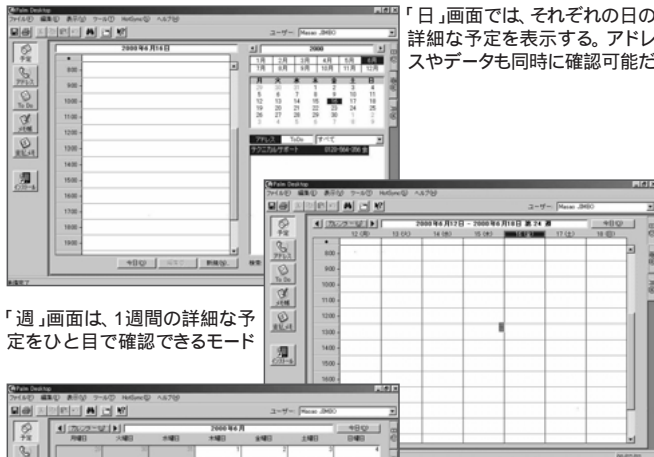


Palm側での設定。画面はバージョン3.5のHotSyncアプリケーション





グ&ドロップによる時間の変更は行えず、変更したい日の枠をダブルクリックして「日」モードに切り替えて編集を行う必要がある。



「日」画面では、それぞれの日の詳細な予定を表示する。アドレスやデータも同時に確認可能だ

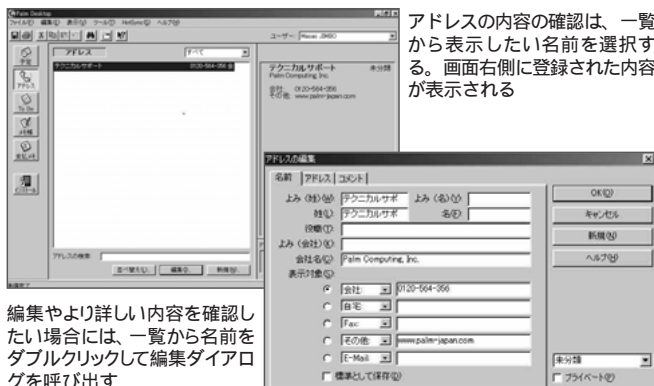
「週」画面は、1週間の詳細な予定をひと目で確認できるモード

「月」画面は、1カ月分のカレンダーを表示する。各日の予定は開始時間とともに表示される

### アドレス

アドレスのデータを表示するためには「アドレス」ボタンをクリックする。画面の左側に登録されているアドレスの一覧が、右側に一覧で選択したアドレスの内容が表示される。

一覧からアドレスをダブルクリックすると「アドレスの編集」ダイアログが表示され、データの内容を変更することができる。名前 / アドレス / コメントの3つのタブとカテゴリを変更するためのメニューが用意されている。また、アドレスデータを画面右下にある「ドラッグ先」にドラッグ&ドロップすることでクリップボードに内容を保存しておき、ほかのモードの画面で貼り付けることも可能だ。



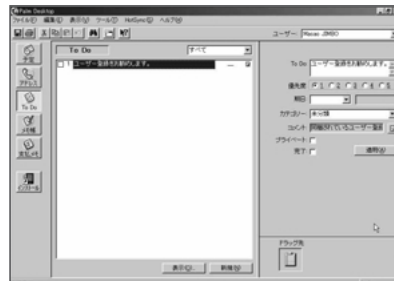
アドレスの内容の確認は、一覧から表示したい名前を選択する。画面右側に登録された内容が表示される

編集やより詳しい内容を確認したい場合には、一覧から名前をダブルクリックして編集ダイアログを呼び出す

### ToDo

「ToDo」ボタンをクリックすると、予定を正しく実行したかをチェック

可能な備忘録として利用できるToDo画面に切り替わる。画面の左側に案件の一覧を、右側に一覧で選択した案件の内容を表示する。表示された内容について細かい設定を行うことも可能だ。ToDo画面でも「アドレス」モードと同様に、「ドラッグ先」欄を利用することができる。



画面の左側に一覧が、右側に内容が表示される。各案件に対して、細かい設定を加えることができる

### メモ帳

「メモ帳」ボタンをクリックすると、「メモ」アプリケーションのデータを閲覧 / 編集できる。画面の左側に登録されているメモの一覧が、右側に一覧で選択したメモの内容が表示される。メモの内容は直接編集することが可能だ。Palm OS上のコンジットのないアプリケーションに大量の文章を入力したい場合に、まずPalm Desktop上のメモ帳でデータを入力し、Palm上でカット&ペーストするとよい。



Palm Desktopのメモ帳は、Palmでは入力しにくい長文を扱う場合に便利だ

### 支払メモ

「支払メモ」ボタンをクリックすると、「支払メモ」アプリケーションのデータを表示することができる。画面の左側に支払ったデータの一覧が、右側に一覧で選択した支払いデータの内容が表示される。通常、各支払いのデータはPalm上で入力することが多いため、コンジットの設定は「本体がPalm Desktopを上書き」に設定しておくといいだろう。また、この機能を利用しないという人は「何もしない」に設定しておけば、HotSyncの時間を若干短縮できる。



支払メモは利用頻度の低い標準ソフトのひとつ。メモ帳やToDoと同様に、画面の左側に一覧が、右側に内容が表示される

## Macintosh版Palm Desktopのインストールと設定

日本語版のMacintosh用のPalm Desktopソフトウェアが発売されて、MacintoshでもPalmを十分に利用できる環境が整った。しかし、使っているMacintoshによっては、購入時に別途オプション品を追加するケースもある。

Palm VxとPalm cの場合は、自分が使っているMacintoshの本体にモデム/プリンターポートがあるかどうかを確認しよう。Palm VxとPalm cには、Macintosh用のPalm DesktopソフトウェアとクレードルのコネクタをMacintoshのRS-422ポートの形状に変換するケーブルが付属する。使っているMacintoshにモデム/プリンターポートがなく、USBポートのみならば別途「Palm Connect USBキット」を購入する必要がある。

Visorには、標準でMacintosh用のPalm DesktopソフトウェアとUSBクレードルが付属する。使っているMacintoshにUSBポートがない場合には、シリアルクレードルを購入する。

WorkPad c3は、Macintosh用のソフトウェアは付属しない。使っているMacintoshのポートに合わせて「Palm Connectシリアルキット」もしくは「同USBキット」を購入する。

それでは、基本的なインストール作業の流れを解説しよう。

モデム/プリンターポートを備えたMacintoshでPalm Desktopソフトウェアを利用する場合、まずクレードルに変換コネクタを接続しよう。そのあとでMacintosh本体のポートに接続する

シリアル変換ケーブル



USBポートを備えたMacintoshの場合には、クレードルにUSB変換コネクタを接続する。Visorには、この作業の必要はない。その後、MacintoshのUSBポートにクレードルを接続する

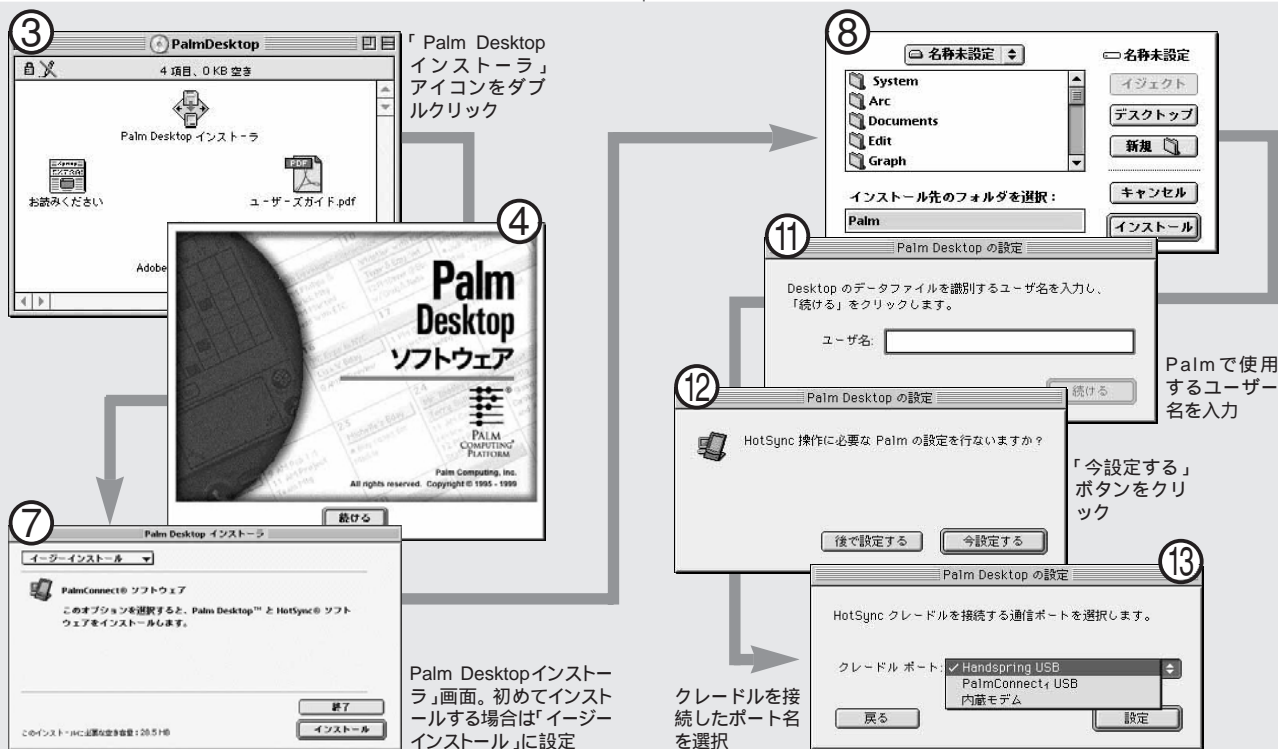
USB変換コネクタ



Palm Desktopソフトウェアが収録されたCD-ROMをドライブに挿入し、「Palm Desktop インストーラ」アイコンをダブルクリックする

インストーラの起動画面が表示されるので、「続ける」ボタンをクリックする

Palm Desktopについての解説文が表示されるので、内容に目を通してから「続ける」ボタンをクリックする





「ユーザーライセンス契約書」が表示されるので、内容を読んで同意できる場合には「同意します」ボタンをクリックする。「同意しません」ボタンをクリックすると、インストールを中止する

「Palm Desktop インストーラ」画面が表示される。初めてインストールする場合は左上のメニューを「イージーインストール」に設定し、「インストール」ボタンをクリックする

Palm Desktopの保存先を指定するダイアログが表示される。どのフォルダーにインストールするかを設定したら、「インストール」ボタンをクリックする

インストール後に再起動を促すダイアログが表示される。ほかのアプリケーションで作業中の場合には「キャンセル」ボタンをクリックしてすべてのファイルを閉じ、再度 から作業を行う

ファイルのインストール中は作業状況がダイアログに表示されるが、作業は中断できない

インストール作業が終了すると、Palm Desktopの基本設定を行う。まず、Palmで使用するユーザー名を入力する。ここで入力したユーザー名がPalmに設定される。設定が終了したら「続ける」ボタンをクリックする

「HotSync操作に必要なPalmの設定を行いますか？」ダイアログが表示されるので、「今設定する」ボタンをクリックする

クレードルを接続した通信ポートを選択するダイアログが表示されるので、メニューから選択して「設定」ボタンをクリックする

すべての作業が終了すると、再起動を促すダイアログが表示される。「再起動」ボタンをクリックするとMacintoshが再起動する

## 実際にHotSyncを行ってみよう

Palm Desktopの組み込みが終了したら正しくインストールできているか、実際にHotSyncして確認しておこう。

Palm Desktopをインストールすると、メニューバーにクイックメニューアイコンが追加される。このメニューから「HotSync」「初期設定」を選択する

「HotSyncソフトウェア設定」ダイアログが表示されたら、「HotSyncコントロール」タブをクリックする。「HotSync」欄が「使用」に設定されているか確認しよう

「シリアル設定」タブをクリックして、クレードルを接続しているポートが正しく設定できているかどうか確認する。なお、通常

① メニューバーに追加されたクイックメニューアイコンから「初期設定」を選択

② 「HotSync」欄が「使用」に設定されているか確認

③ クレードルを接続しているポートが正しく設定できているか確認

④ クレードルにPalmをセットしHotSyncボタンを押すと、自動的にHotSync作業を開始

⑤ はじめてHotSync作業を行った場合、Palmのユーザー名を設定するダイアログが表示

⑥ HotSync実行中、データの同期作業状況を表示

は「Palmとの接続を確認」を「ローカル設定」に選択しておこう  
 クレドールにPalmをセットし、HotSyncボタンを押す。自動的にPalmの電源がオンになり、HotSync作業が開始される

はじめてHotSync作業を行った場合には、Palmのユーザー名を設定するダイアログが表示される。ユーザー名を選択して「OK」ボタンをクリックしよう

HotSync実行中は、どのデータの同期作業が行われているかが表示される。途中でHotSyncを終了したい場合には「キャンセル」ボタンをクリックしよう

## Palm Desktopと標準アプリケーションの対応とコンジットの設定

ここでは、Macintosh版のPalm DesktopとPalm上の標準アプリケーションのデータ連携について解説する。Windows版と同様に、それぞれのソフトのデータ連携についての動作は個別指定することができる。

Macintosh版のPalm DesktopはWindows版と異なり、すべての機能が別画面に用意されている。このためWindows版に比べて、各機能間でのドラッグ&ドロップ作業を簡単に行うことができる。また、高解像度のモニターを利用している環境なら、すべてのデータを一度に確認できるという利点もある。旧クラリス社のPIMソフト「Claris Organizer」をベースにしており、単体のPIMソフトとしても非常に完成度は高い。

Palm Desktopを組み込むと、メニューバーに「クイックPalm Desktopメニュー」が追加され、Palm Desktop本体を起動していない状態でも、各種設定の変更や、住所録の検索/表示や予定表やメモの新規作成などを行うことができる。

### Macintosh OS 9.0.4 での問題点

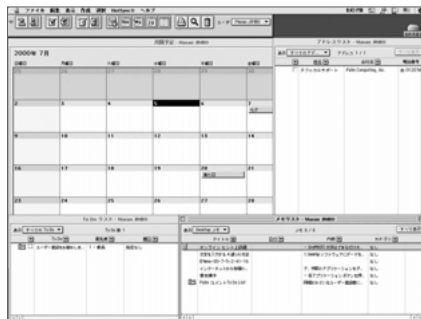
Macintosh OSのバージョンが9.0.4の場合、HotSyncが異常終了するケースがある。この問題に関してはパーム社でも現在調査中だ。詳しい情報についてはパーム社のWebページ



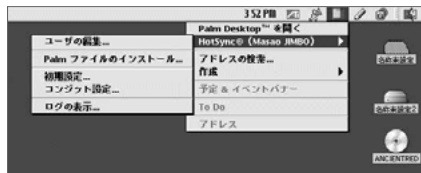
(<http://www.palm-japan.com>)で解説されているので、同OSを利用しているユーザーは一読しておこう。

Macintosh OS 9.0.4の問題に関して解説されているWebページ。該当ユーザーは確認しておこう

なお、Palmと連携できるのは、予定表/アドレス/ToDo/メモの4つだけだ。「支払い」および「メール」アプリケーションとの連携機能は用意されていない。「支払い」アプリケーションについては連携する方法はないが、「メール」に関しては各メールソフトに対応したコンジットを用意することで対応可能だ。そのほかにも、各画面のデザインや表示フォントを変更する機能なども搭載されている。



Macintosh版のPalm Desktopでは、それぞれの機能を別画面で表示する



「クイックPalm Desktopメニュー」では、Palm Desktopの機能をメニューバーから利用できる

## Macintosh版Palm Desktopの基本機能

### アドレスリスト

「アドレスリスト」は、一人一人に対して複数の電話番号や住所、E-mailアドレスなどを登録可能な住所録だ。モデムを使ったダイヤル機能や、E-mailソフトとの連携機能なども備えている。

「アドレスの作成」ボタンをクリックするか既存の登録名をクリックすると、アドレスを登録/編集するための画面を表示する。姓名/電話番号/会社住所/自宅住所/その他の情報の欄があり、それぞれの欄をクリックすると、より詳しい内容を入力するための画面が表示される。「読み」欄は、「姓」や「名」、「会社名」を漢字で入力すると、自動的に挿入される。ただし、単漢字変換



「アドレスリスト」画面では、登録されたアドレスを一覧表示する

入力画面では、一部の読みを自動入力してくれる

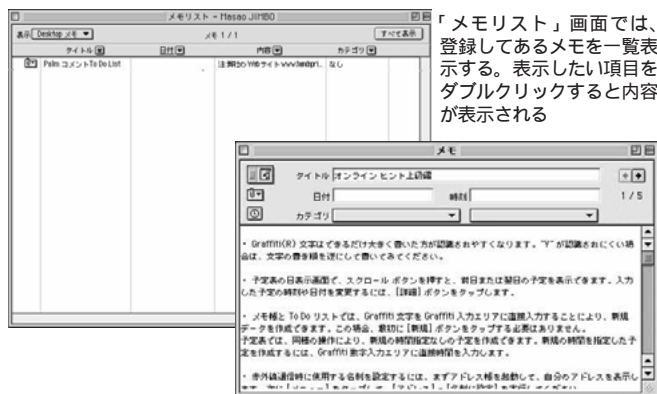




で入力した場合には、間違ったデータが挿入される場合があるので注意しよう。また、Palm Desktopメニューの「アドレスの検索」機能を使えば、Palm Desktop が作動していない状態でもアドレスを検索 / 表示できる。

### メモリスト

「メモリスト」は、その名の通りのメモ帳機能だ。Palmで登録したメモを閲覧したり、逆にパソコン上で作成したメモを転送することも可能。なお、ToDoや予定表で案件に登録したメモも、この画面で確認できる。タイトルや日付などの各項目でソートが可能なか、それぞれの項目にフィルターを設定して必要なデータのみを確認する機能もある。



「メモリスト」画面では、登録してあるメモを一覧表示する。表示したい項目をダブルクリックすると内容が表示される

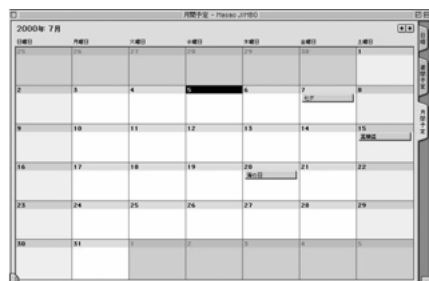
### 予定表

「予定表」では登録した予定を月間予定 / 週間予定 / 日程 の3つの形式で表示可能だ。ToDoに登録されている案件の中から期日が迫っているものも同時に表示される。予定の登録は、「予定の作成」と「イベントバナーの作成」の2つのタイプがある。「予定の作成」は時間を指定した予定を、「イベントバナーの作成」は時間を設定せずに複数日にまたがる予定を入力できる。

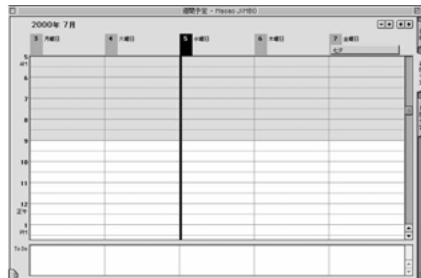
「月間予定」画面では、各予定の開始時間をカレンダー上に表示する。予定をドラッグ&ドロップすることで、日付の変更が可能だ。

「週間予定」画面では、1週間の予定を時系列に表示できる。この画面では、ドラッグ&ドロップで日付と時間の変更を行うことができる。

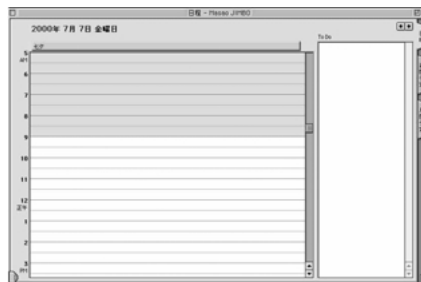
「日程」画面では、その日の詳細な予定を表示する。ドラッグ&



「月間予定」画面では、1か月分のカレンダー上に予定を表示する



「週間予定」では1週間分のカレンダー上に、予定とToDoをそれぞれ表示する



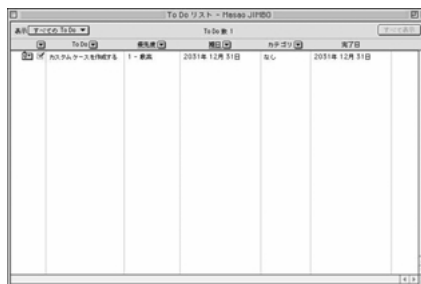
「日程」では1日の詳細なタイムテーブル上に予定を、画面右にToDoを表示する

ドロップによる予定時間の変更も可能だ。

なお、Macintosh版のPalm Desktopには各国の休日データのファイルが付属している。「ファイル」メニューの「読み込み」コマンドを使って、「Palm」「祝日のファイル」「読み込みファイル」「日本の祝日と行事」を読み込めば、予定表に休日データを追加することができる。

### ToDoリスト

「ToDoリスト」はいわゆる健忘録 / 備忘録で、内容 / 優先度 / 期日 / カテゴリ などが設定可能だ。メモリストと同様にそれぞれの項目で、ソートやフィルターによる表示を行うことができる。



「ToDoリスト」画面では、登録されているToDoの一覧を表示する

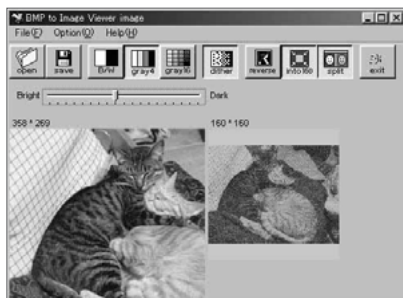
## その他のデータの互換を目指す

### グラフィック

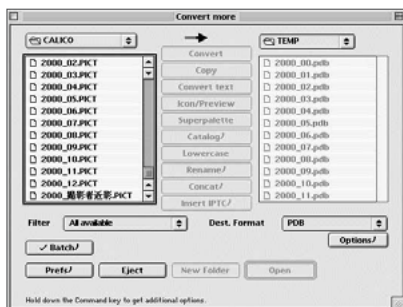
Palmで表示できる画像フォーマットとしては、一般的に「FireViewer」形式が採用されている。この画像フォーマットを表示できるPalmwareには「FireViewer」や「Spec」「TinyViewer」などがある。パソコン側に保存されているGIFやJPEGといった形式の画像ファイルを

FireViewer形式にするためには、変換用のソフトウェアを別途用意する必要がある。

Windows用のソフトとしては「BMP to Image Viewer image( mapi氏作のフリーウェア、<http://www.ba-z.co.jp/Download/Windows/bmp2iv.html>)が便利だ。フリーウェアで、階調や画像サイズなどを変更することもできる。Macintosh版のソフトとしては定番グラフィックソフト「GraphicConverter( LemkeSoftware作のシェアウェア、<http://www.lemkesoft.de/>)がこの形式に対応している。どちらの場合でも、変換した画像ファイルはPalm OS用のデータファイルになる。



「BMP to Image Viewer image」は、元画像と変換後の画像を見ながら加工できる。非常にシンプルでわかりやすいインターフェースだ



「GraphicConverter」では、さまざまな画像フォーマットのひとつとしてFireViewer形式ファイルを扱える

### テキスト

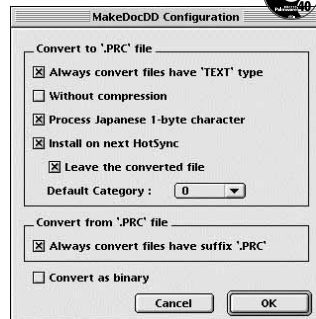
簡単なテキストならPalm Desktopのメモ互換機能を利用して転送することができるが、メモ帳では1つのメモあたり4KBという制限がある。それ以上のサイズのテキストデータをPalm上で表示したい場合には、「DOC」形式のデータに変換するとよい。DOC形式のデータを表示するには、同形式に対応した「DOCビューワー」と呼ばれるPalmwareが必要だ。「J-DOC Reader」や「Crs-MeDoc」をはじめとしてさまざまなPalmwareが登場している。



「PiloDoc」は、テキストデータだけでなく、HTMLファイルの変換機能を備えている。また、DOCファイルからテキストへの逆変換も可能だ

テキストも画像ファイルと同様に、パソコン上でデータ形式

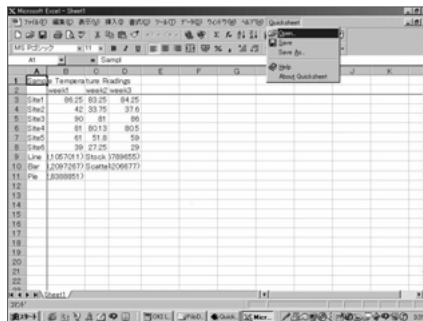
を変換する必要がある。Windowsの場合には、「PiloDoc」(CHEEBOW氏作のシェアウェア、<http://hp.vector.co.jp/authors/VA011708/>)、Macintoshの場合には「MakeDocDD(吉沢正敏作のフリーウェア、<http://www.pluto.dti.ne.jp/~yoz/index.html>)が便利だ。どちらの場合も変換したテキストはPalm OS用のデータファイルになる。



シンプルなインターフェースのMacintosh用コンバーター。「SimpleInst2」と組み合わせることで自動インストールにも対応する

### 表計算

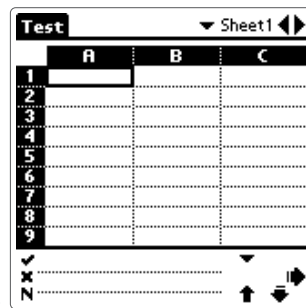
「パソコンで作成したスプレッドシートをPalm上でも表示/編集したい」という人にお勧めなのが、米Cutting Edge Software社の「QuickSheet」だ。Windows用の「Microsoft Excel5.0」、「Microsoft95/97/2000」に対応しており、WindowsとPalmの間でスプレッドシートを購入できる。QuickSheetは、Excelに組み込むアドオンソフトとPalm Desktop用のコンジット、Palmwareの3つから構成されている。一部の関数は利用できないものの複数のシートを組み合わせたブック形式にも対応している。



「QuickSheet」を組み込むと、Excelのメニューバーに「QuickSheet」メニューが追加される

なお、現在の最新バージョンは5.0.2だが、Macintosh版は連携用のソフトウェアが整っていないため、バージョン4.1と版のコンジットおよびExcel用アドオンソフトの組み合わせとなっている。

こちらは「QuickSheet」のPalm OS側の画面。画面は小さいが、入力/編集を行うことができる



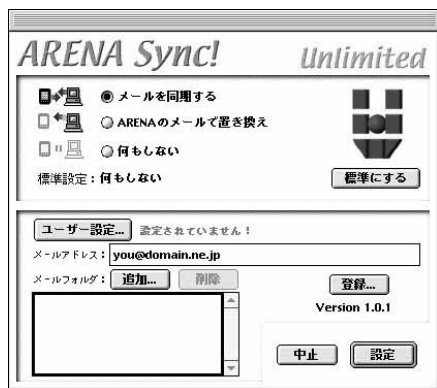
### メール

Macintosh版のPalm Desktopには、メールソフトとの連携を行うコンジットは含まれていない。そのため、MacintoshとPalmの

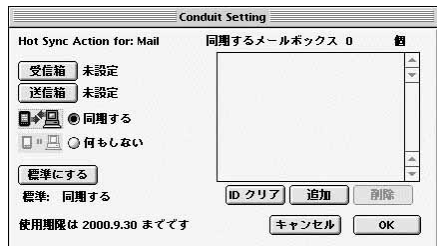


間でメールデータをやり取りするには別途コンジットを入手する必要がある。

現在、ARENA Project社の「ARENA Internet Mailer」に対応した「ARENA Sync!」と、System Clinic社の「Postino」に対応した「PostinoConduit」の2つのコンジットが登場している。「ARENA Sync!」は福本修二作のシェアウェアで、同氏のホームページ(<http://www.umap.net/>)から入手可能だ。また、藤井栄二氏作「Postino Conduit」は現在 版のテスト中で、System Clinic社のホームページ(<http://www.syscli.co.jp/index.asp>)から入手できる。



「ARENA Sync!」を使えば、Palmと「ARENA Internet Mailer」でメールのデータをやり取りできる



「PostinoConduit」は、「Postino」と「Postino Palma」「Postino Classic」と連携可能。現在は 版のため、自己責任で利用してほしい

## Palm Desktop以外のデータ転送ソフト

### Windows用の転送ソフト

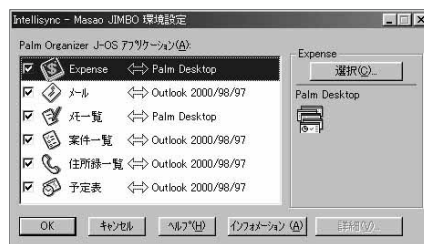
Palm DesktopはPalmへのデータ転送ソフトであると同時に、パソコン上ではPIMとして利用することができる。このため、すでにパソコン上で別のPIMソフトを利用している人やPalm Desktopの機能に満足できない人にとっては不便な面もある。

Windows用のPalm Desktopの補助的なソフトとして、ブーマテクノロジーの「IntelliSync 日本語版」がある。このソフトは「Microsoft Outlook 97/98/2000」および「Microsoft Schedule+」、「Lotus Notes 4.5/4.6」、「Lotus Organizer 97」などの多くのPIMソフトとPalmの間でデータのやり取りを行うことができる。

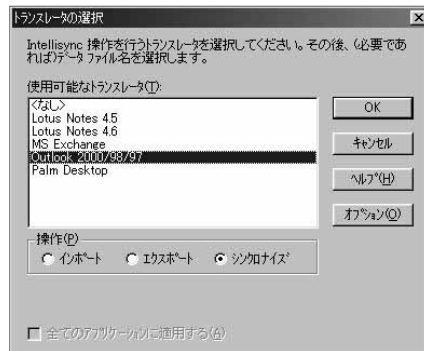
設定はPalm Desktop、住所録はMicrosoft Outlookへ、予定表はLotus Notesへ、支払メモはPalm Desktopへ というように、それぞれのデータを別々のPIMソフトと同期をとる機能もある。設定画面はPalm Desktopのコンジット画面よりもやや複雑だが、同期をとる

PIMソフトを設定する以外は、特に変更する必要はない。なお、通常PIMソフトによって、データのカテゴリ分けや入力すべき欄の場所が異なっているケースがある。IntelliSync日本語版では、それぞれのカテゴリや欄によって細かい処理を設定できる。

このIntelliSyncと「PalmInstall+」を組み合わせれば、Palm Desktopを起動しなくてもデータの管理とアプリケーションのインストールを行えるようになる。ただし、Palm Desktopを削除してしまうと、HotSyncを行うための「HotSyncマネージャ」も消えてしまうので注意しよう。



Palm Desktopのコンジットと同じような設定パネルで各種設定を行う

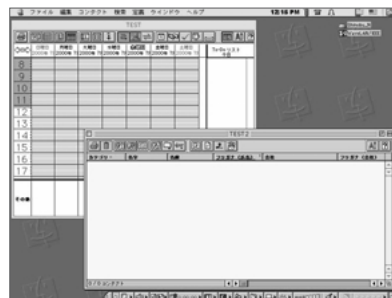


それぞれの機能ごとに、別のPIMソフトを割り当てることも可能だ

### Macintosh用の転送ソフト

Macintosh版のPalm Desktopは、旧クラリス社の「Claris Organizer」をベースにしているため、PIMソフトとしては非常に完成度が高い。また、最近Macintosh用のPIMソフトがあまり登場していないため、別のソフトへ乗り替えたいというケースは少ないだろう。

しかし「Claris Organizer」以外にも、Palmと連携できるPIMソフトがある。それが「Now Up-to-Date & Contact 3.9J」だ。一時期開発が中断されていたが、日本語化された最新版が登場することとなった。発売元はact2で、8月4日に開始される予定だ。



予定を管理する「Now Up-to-Date」(左)と、連絡先を管理する「Now Contact」(右)の2つのソフトで構成されている



メーカー各社に聞く

スペシャル・インタビュー

# HANDSPRING社の 日本戦略



聞き手：齊藤孝明

Handspring社・ソフトウェア&インターフェース担当ディレクターのロブ・灰谷氏(左)と開発およびマーケティング担当重役のエド・コリガン氏

6月14日、Handspring社は、日本法人の設立と日本語版 Palm OS搭載のハンドヘルドコンピュータ「Visor」の発売を発表した。iMacを連想させる5色の筐体と「スプリングボード」と名付けた独自の拡張スロットを備えた「Visor」が日本市場に参入することで日本のPalm市場はどう変わるのだろうか。日本を訪れた同社の開発およびマーケティング担当重役のエド・コリガン氏とソフトウェア&インターフェース担当ディレクターのロブ・灰谷氏にインタビューした。

## Palmの精神、ここにあり

まず最初に、Handspring社についてお聞かせください。

エド・コリガン(以下、コリガン): Handspring社創立以前にさかのぼりますが、1992年1月にジェフ・ホーキンスがPalm Computing社を設立したことがスタートです。しかし、このビジネスは戦略的に成功しませんでした。すでに発売されていたApple社の「Newton」などのPDA製品と差別化しきれなかったからです。そこで、デバイス、オープンシステム、アプリケーション、デスクトップとのシンクロなどすべてを見直し、再出発しようとしたのですが、1995年9月(大手モデムメーカーの)US Robotics社に会社を売却しました。しかし、そのUS Robotics社も1997年6月には、3Com社により買収されてしまいました。

我々は、1996年4月に発売した初代「PalmPilot」を皮切りに、3年間で5世代のPalm OSを送り出せたのですが、(ネットワークに集中している)3Com社の小さな一部門でしかないことに物足りず、ハンドヘルドコンピュータに集中したいと考えた結果、3Com社を退社。Palm開発者の

ジェフ、マネージメントのドナ・ダビンスキー、マーケティングの私の3人で1998年7月Handspring社を設立しました。ハンドヘルドコンピュータ業界に8年以上かかわったPalm Computing社の創業メンバーが設立したHandspring社は、Palm OSのコンセプトおよびプラットフォームをもっとも理解している企業であることは言うまでもありません。

そもそも、ハンドヘルドコンピュータはパソコンの代わりになるものではありません。しかし、毎日の自分の情報(ノート、メモ、カレンダー、その他の情報)を入手するためには、ハンドヘルドのほうが便利だと考えたのが原点です。将来は、インターネットにアクセスするためのツールとしても期待できるでしょう。もちろん、この市場は今後も長期にわたって期待できると考えておりますし、我々の目指すところは「世界でハンドヘルドコンピューティング製品のトッププロバイダーになる」ことです。我々は何もないところからPalm Computing社を起こし、すでに十分な実績を挙げてきました。こんなことを言うのはおこがましいのですが、この市場は急速に



伸びており、今までの家電製品などと比べても、その普及速度には驚くべきものがあります。ウォークマンが100万台を達成するのに3年かかったのに対し、Palmはわずか18カ月で達成してきたのです。これはすき間市場ではありません。可能性としては、大きなものが潜んでいると確信しています。

ロブ・灰谷(以下、灰谷):「Handspring」の訳は「とんぼ返り」ですが、「とんぼ返り」するほどうれしい」会社にしようという意味合いを持たせて付けた名前です。その Handspring 社の最初の製品が「Visor」なのです。

「Visor」の特徴を教えてください。

コリガン:「Visor」は世界で最も普及しているハンドヘルドコンピューター「Palm」に独自の拡張スロット「スプリングボード」を付けた「永久に拡張ができるハンドヘルドコンピューター」という位置付けになります。Palmのアプリケーションやデータには100%の互換があるのは言うまでもありませんが、基本的な機能も改良しています。ハードウェア面では、USB対応のクレードルを用意していますし、Macintosh用の接続ソフトも同梱しています。

「Visor」は、基本的にPalm OSの特徴を備えたPDAですが、スプリングボードを装備したことで、拡張性と軽快さを兼ね備えたPDAに進化したと言えます。そもそも、Palmのよさは「軽快な動作」にあります。これは、機能を抑えてシンプルさを追求した結果、実現し得たものですが、それ故にもっと多くの機能が欲しいという声もあります。しかし、この相反する要求を満足させることは難しいので、自由に着脱できる機能を考えました。スプリングボードは、スロットにソフトウェアを内蔵する各種モジュールを装着することで、Palmの機能を自由に拡張することが可能になりました。

灰谷:「Visor」は、Palm OSで動くハンドヘルドコンピューターですが、標準アプリケーションに加え、「予定表 + (「Datebk3」ライ



センスを取得し、「予定表」の操作性と表示内容の改良と「ToDo」との連携機能を追加した)と世界時計を追加し、電卓にも関数計算モードを付加しています。

これらのソフトウェア面の改良に加え、スプリングボードスロットの装備があります。スロットに差し込むモジュールは、ハードウェアとしての機能だけでなく、専用ソフトウェアを組み込むことができます。しかも、ほかのアプリケーションが動作中であっても、差し込むだけで自動的にモジュール側のアプリケーションが起動し、抜くことで終了する「ホットスワッププラグ&プレー」を実現しました。コンテンツなどのアプリケーションであれば、ソフトウェアだけで提供することもできますが、電子ブックや画像データの大きいゲームなどは、スプリングボードモジュール化することでメモリーサイズの制約を受けることもないし、上司が来たときに抜くこともで



きるメリットがあります(笑)。

また、ハードウェアのモジュール化では、赤外線リモコンやモデム、デジタルカメラ、MP3プレーヤー、GPSレシーバーなども実現されています。今後は、イーサネットモジュールや携帯電話、ポケベルなどに接続するワイヤレスモジュールなども開発中です。

コリガン:どのようなコンピューターであっても、プラグインモジュールは「プラグ&プレー」で接続できることが重要なのです。(Windowsのように)システムに対して不都合が生じてはなりません。そこで、モジュールを接続するだけで、必要なソフトウェアが自動的にインストールされて動作するのはもちろん、モジュールを外すことでアンインストールできる「ホットスワップ」できることが必要と考え、モジュールにはドライバーソフトやアプリケーションを載せられるようにしたのです。スプリングボードスロットはプラットフォームであり、デベロッパーが新しいソフトを作るときに利用することができるよう、いくつかの工夫を凝らしています。例えば、消費電力が大きいモジュールでは、中に電池を組み込んだり、機能に応じたボタンやスイッチを自由に配置できるよう、スロットの背面をあけたデザインで機能設計の自由度を高めてあるのもそのひとつです。電話やLANに接続することもできるようになるし、iモード携帯電話につないだりすれば面白いでしょうね。

## 日本での「Visor」販売に対する考え方

「Visor」の販売方法についてお聞かせください。

コリガン:1999年10月に米国でWeb通販からスタートした英語版はその後、店頭販売も行い、2000年5月には欧州でも販売を開始しました。今回、日本語版を販売することになったわけですが、日本ではWeb



販売とともに、チャンネルパートナーであるヨドバシカメラ、イケショップ、T-Zone、Vis-a-Visなどでの販売も行います。

米国では、複数の製品バリエーションがありますが、日本では販売しないのですか？  
コリガン：米国では2MB版と8MB版を販売していますが、日本市場では8MBのDX(デラックス)版のみを販売することにしました。日本語化のためにメモリーが必要だと考えたからです。しかし、筐体は5色のカラーをそろえています。Visorのターゲットはコンシューマーです。いつでもどこでも(ユーザーの)皆さんに楽しんで使ってもらうためにも、カラーバリエーションは必須だと考えたからです。

世界中で売れているPalmですが、日本には独自仕様のザウルスが市場を確立しています。Palm陣営としての戦略を、またPalm陣営の中でVisorの比率を高めるための戦略を聞かせてください。

コリガン：Microsoft社は「標準仕様を発表してハードメーカーに作らせ、それに沿ったソフトウェアを(サードパーティーに)作らせる」という上意下達の手順ですが、Handspring社を含めたPalm陣営では「使いやすい基本仕様(オープンモデル)のみを作り、(サードパーティーの)周辺製品を育てていく」という手法をとってきました。欧州でも「PSION」という首位製品が存在しますが、これに対しても同じような戦略で対抗してきました。米国や欧州でも結果は出ているように、Palmにいいアプリケーションがあ

れば短期間で普及するはずですが、鶏と卵のような関係ですね。

それと、よく「VisorはほかのPalm製品と競合するんじゃないか」と言われますが、まだその段階ではありません。今はまだ、(Palm社やソニーなど)Palm OSそのものを普及させる時期なのです。Palm OSのコンセプトを理解すれば、ほかを選ぶ理由はないし、米国で「Visor」が短期間で普及したのは、使いやすさと可能性が高いからです。Palmでできることはすべて「Visor」でできるし、それ以上にスプリングボードの拡張性が人気を呼びました。Palmを選ぶ際に「Visor」にしない理由はないでしょう。しかし、米国だけでも数百万台という普及率では、メーカーとしてはこれ以上普及させたくても、生産が追いつきません。

日本にはiモードがあります。画面サイズも役割も違いますし、DoCoMoなどから一体型Palmの登場する可能性も高いと見る向きもありますが、.....。

コリガン：iモードには興味があります。しかし、iモードがすべてではありませんし、携帯電話の世界とPDAの世界は違います。すべてのPDAユーザーが携帯電話を使うわけでもありません。しかし、ワイヤレスインターネットという面から考えると、もう少し大きな画面がほしいとか、もう少しデータ入力しやすければいいと考える一部のユーザー層には可能性が広がるでしょうね。Xircom社のモデムモジュールにはPDCコネクターもあるし、Bluetoothなども考えられます。しかし、問題はフレキシビリティです。一体型を作るのはひとつの賭け。コストもかかるし、失敗は許されません。また、携帯電話とPDAの両方を持ちたいと考えるユーザーもいるでしょう。そのあたりが明確になるまではフレキシビリティを持つべきだと考えています。その点、モジュール接続は自由度が高く、魅力的です。進化の激しい携帯電話が機能アップしても、すべてを買い替えずに済む魅力もあるはずですが。

Handspring社の中でも「ワイヤレス」はキーワードのひとつですが、どの通信方式が標準になるかが不明な段階で、一体化することは大きな賭けでしかありませんし、まだ時機尚早だと思います。

画面のカラー化は行わないのですか？

コリガン：第一弾の商品はモノクロですが、いずれカラー版製品も発売する予定です。しかし、現時点で発表できる製品はありません。スペック的にはカラーのほうがまさらですが、その結果、重くなったり電力消費が増えるようでは(大量に)売れないと考えているからです。もちろん、価格的にも安くする必要があるので考えています(Visorは、2万9800円とPalm OS陣営の中では割安な設定となっている)。充電電池仕様もこれからです。第一弾としては価格を抑え、どこでも入手できる単4電池を採用したほうがいいと考えています。本体だけであれば、毎日数時間使っても数週間もちます。パソコンほどコスト負担は大きくないので、充電電池の必然性はそれほど大きくないと考えています。

日本語OSは、Palm OS 3.5がベースですか？

灰谷：いいえ、3.1です。しかし、Palm OSの場合、3.1に備えている機能が必ずしも3.5に装備されているわけではありません。PCユーザーは3.1よりも3.5のほうが機能が多いと考えがちですが、Palm OSではその常識が通用しません。Ver.3.1H2(Hとは、



Handspringバージョン)は独自の高速化とともに、3.5にない機能も追加してあります。3.1Hでは、カラーサポート以外の機能はすべて用意されています。

3.5版での日本語化はしないのですか?

灰谷：ライセンスとして、新しいものを導入する考えはあるのですが、早い時期に発売するためにも、最初の製品では3.1を採用しました。

3.5版用のアプリケーションは問題なく使えるのですか?

灰谷：はい、Palm OSのライセンスは、互換性に対する厳しいテストをする義務があり、特に「アプリケーションが(システムやデータを)壊さない」ことが求められるので、当然それはクリアしていますし、アプリケーションがPalm OSのルールを守っている限り、問題はありません。

現在の日本法人の社員数とサポート体制について教えてください。

コリガン：社員は15名程度です。電話サポートとE-Mailサポートを行うスタッフを置いています。難しいものは米国で対応しますが、故障の際は製品の交換となりますから、短期間で新しい製品が手元に届くこととなります。

## スプリングボードが「Visor」の魅力

スプリングボードを独自規格としたの



はなぜですか?

灰谷：すでに標準化されているPCカードやコンパクトフラッシュの規格を採用しなかったのは「メモリーのための規格」では不十分と考えたのです。それで、拡張性と扱いやすさを増すために独自規格としました。コンパクトフラッシュはもともとメモリーのための規格であり、プラグ&プレーには対応できません。また、Handspring社にはPalm OSを開発したエンジニアが在籍しています。彼らがOSの深い部分まで知り抜いているからこそ、実現できた規格です。

Palm OS仕様のハードウェアは(スプリングボード以外にも)各社さまざまな仕様がありますが、アプリケーションの互換性はどの程度あるのでしょうか?

灰谷：一番重要なのは、ユーザーにとっての使い勝手です。ユーザーにとって、コンパクトフラッシュかスプリングボードかというのは大きな問題ではありません。使いやすいかどうかという点に尽きるからです。使いやすい製品を作れば、売れる自信はあります。これはPalm OSを開発した(Palm社にいた)ころから考えていたことですが(OSの)標準化はユーザーのためというより、サードパーティーがコンテンツ製品を作りやすいことも重要なポイントだと考えています。その点、Palm OSではアプリケーションの簡単な修正で(拡張)モジュールへの対応ができる仕様となっています。

スプリングボード製品として、日本語版製品はそろっていますか? 特に、電子ブックや辞書などのコンテンツ製品ではどうでしょうか?

灰谷：「Visor」は、スプリングボードモジュール製品が登場しなければ、Palmの日本語版という価値しかありません。当初、Handspring社自身で提供するの「メモリー」「バックアップ」「モデム」の3種だけです。学研などのパートナーとなるコンテンツメーカーからいくつかのモジュール製品が発売される予定です。



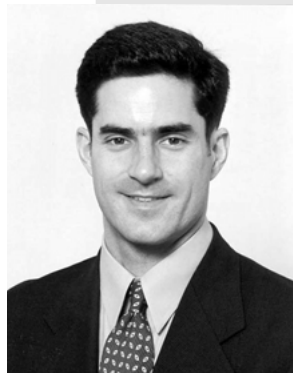
コリガン：サードパーティーに対しては、スプリングボードのために容易な開発環境を提供しています。そのひとつが「ロイヤリティーを必要としない」ことです。すでに、サードパーティーから約100種類のモジュールが市販されています。登録されているデベロッパーとなると、すでに3000社以上になります。

灰谷：Webサイトにモジュールの図面や仕様を記載した「ハードウェアキット」を用意してあるので、誰でも自由にダウンロードできますし、筐体やモジュールの生産が困難なソフトメーカーにはベンダーを紹介することもできます。また、スプリングボードに関する書籍も発売されていますから、日本独自のモジュールが登場する日も近いでしょうね。

今回、インタビューに応じてくれたエド・コリガン氏とロブ・灰谷氏は、日本のPalmフリークの中では有名な存在だ。ロブ・灰谷氏は、Handspring社創立以前の1997年春に来日。日本のPalm先駆者たちとの交流の機会を持つなど、早い時期から日本市場を研究していたこともあり、日本語版「Visor」の登場が待ち望まれていたという。今回発表された、日本語版「Visor」の外箱には、そうした雰囲気を感じさせられるエピソードも載っているというので、店頭で眺めてみてほしい。



# 本家Palm社はSDスロットを採用



パームコンピューティング株式会社  
代表取締役 クレイグ・ウィル氏

2000年2月、米3Com社のPDA部門が分離独立、「Palm, Inc.」が誕生した。これに伴い、国内でも3Comジャパンより、パームコンピューティング株式会社が独立。自社ブランドによる本格的な日本市場への参入が始まった。日本法人の社長に就任したのは、3Com時代はパームコンピューティング事業本部でアジアパシフィック地域を担当していたディレクターのクレイグ・ウィル（Craig Will）氏。かつて日本の金融機関に勤務し、国際ビジネスの世界で活躍していたクレイグ社長に直接お話を伺った。

### 世界のPDA「Palm」

「Palm, Inc.」（以下、Palm社）は、Palm OSの開発元として知られるが、その歴史は順風満帆というわけではなかった。1992年に設立されたシリコンバレーのベンチャー企業であった旧「Palm Computing」社は1996年には初代Palm OS機「Pilot1000」を世に送り出したものの、ビジネス的には成功を収めることができず、二度の買収劇に巻き込まれた結果、3Com社の一部門となったのは有名な話。

だが、1997年に3Com社との合併後に出荷した第2世代製品が一気にブレイク、わずか18カ月で100万台を突破し、1999年には世界中に500万台のPalm OS機を送り出すまでの市場を創り上げたところから流れが大きく変わってきた。

「使えるシンプル」というキャッチコピーを掲げるPalm OSの「軽快な動作」と「携帯性」、パソコンとの接続性と情報をオープンにしたことで広がる「拡張性」が多くの協賛者呼び、自社ブランドだけでなく、IBM、Handspring社、TRG社など複数のメーカーからPalm OS搭載PDAが出荷されるようになり、ついに今年2月には「Palm社」として再出発することになったのだ。

米国での体制変更に伴い、日本でも3Comジャパンから独立したパームコンピューティング社にとって最初の仕事のひとつが、従来は日本IBMへのOEM機「WorkPad」のみでシャープ「ザウルス」の天下だったPDA市場に、日本語化した

「Palm」を自社ブランドで投入すること。第一弾は、液晶ディスプレイをカラー化した「Palm c」と筐体を薄く小さくし、充電電池を内蔵した「Palm x」の2機種である。秋葉原のパソコン販売店や郊外の家電量販店を中心に300店舗で一斉に売り出した。

ウィル氏は「カラーの評判もいいが、携帯情報端末の世界では小さくて携帯しやすいほうがいいし、デザイン面でも受けている」と分析する一方、「当面はブランド作りや教育の段階。これまでの閉ざされたPDAシステム（ザウルス）と異なる、Palmの豊富な可能性を知らせることが重要。数年中には（Palmが）PDA市場をリードする」「この市場を一番知っているPalm社がリーダーシップを執っていくことが、パートナーたちの市場を広げることになる。大手企業の導入やSI市場はIBMが得意だが、SOHOとか企業内ワークグループなどではPalmブランドを求める人も多く、この分野のチャンネル作りも進めていく。また、ソニーやHandspring社、TRG社などは独自の拡張性を売り物にデータ処理だけでなく、エンターテインメント分野にも市場を広げていこう」と長期展望を語る。

### Palmの対日戦略

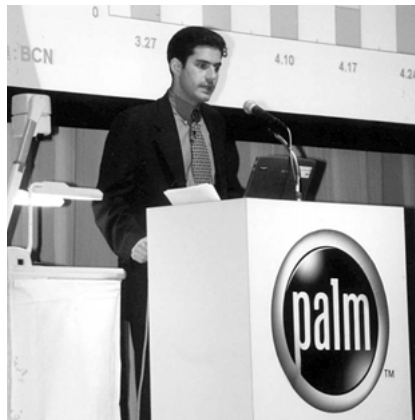
日本進出に際し、気を配ったのがサポート体制。故障した製品の修理は海外の製造拠点で行うが、ユーザーに対しては「郵送による製品交換（保証範囲外の場合は、一律

1万2000円)で対応し、「毎日携帯して使うPDAが手元にないと(ユーザーは)困るので、2日以内に手元に戻す体制を整えている」という。

そして、もう一方はPalm OSに関するビジネス。自社やOEM先のIBMだけではなく、Handspring社やソニーなどPalm OS搭載PDAメーカー陣営(「Palm Powerd」と呼ばれる)全体のプランニング用のPalmアプリケーション開発者へのサポートなどだ。特に開発者へのサポートはPalmの基本方針により完全にオープンだ。「開発キットや開発ツールは個人でも法人でも自由に導入できるし、個人の開発者に対しても、法人と同じように扱う」と明言している。

また、Palmは「Graffiti」という画期的なペン入力が魅力のひとつだが、日本語処理関係についてウィル氏は「PDAは「情報管理やデータアクセスのための端末」であり、「データ作成のための端末」であるPCでは複雑な文章の入力も必要だが、PDAでは頻度も濃度も低いし、単語変換で十分という声もある。PCの技術をそのまま導入する必要はないと考える」という。さらに(それはMicrosoft社のコンセプトで)大きくて複雑な製品(Windows CE)を市場に出す背景は、PCの考え方が中核にあるからで、Palmのコンセプトは「早く簡単に情報にアクセスする」こと、つまり「情報管理やデータアクセスの端末」であるPDAと「データ作成のための端末」であるPCを同じ考え方で作ってはいけない」と続ける。

しかし、携帯電話などの情報端末でも漢字変換の賢さにより、使いやすさは大きく変わることは誰も体験していることだ。そこで、各社のIMEの導入は考えていないのか尋ねてみたところ、「入力していくと自動的に変換する仕組みまではPalmの世界に必要なと考えるが、いい製品があれば採用する可能性はある」と微妙なニュアンスを持たせた回答が戻ってきた。いずれにしろ、今後どのようなIMEが搭載されることになるか期待したいところである。



5月24日、パーム コンピューティング株式会社のプレス向け戦略説明会にて

## Palmは、SDカードを採用

Palm陣営では、ソニーがメモリースティックを、Handspring社はスプリングボード、TRG社がCFスロットというようにパートナー各社がさまざまな拡張を行っているが、Palm社が選んだのは「SD (Secure Digital) カード」だった。「OSレベルでは、いずれのスロットもサポートしていく予定だが、Palm自身はSDを採用することにした。Palm関連ではすでに多くの周辺機器があるが、それらのメーカーでもスプリングボードだけでなく、Palmの拡張仕様に対応しようとする動きもあるし、(周辺機器を内蔵した)一体型機器を考えているパートナーもある」(ウィル氏)

拡張スロットをSDカード対応に選択した理由として、「互換性の高さ」「価格」

「データ容量とサイズ」「セキュリティー」などを挙げているが、特に決め手となったのが「サイズ」と「セキュリティー」。Palm cならばCFスロットやスプリングボードにも対応できるが、Palm xではデザイン上の問題が生じる。将来的なスリム化を考慮した結果、もっともサイズの小さいSDカードを選んだのだという。もうひとつの決定要因はセキュリティー。米国のPDA市場ではビジネス・ユーザーをターゲットとしているため、データセキュリティーは欠かせない条件となる。「本体に関して言うならば、ひとつは携帯性の追求です。もっと小さい本体に大きな画面を載せたいと考えています。また、マーケットの拡大やブランドイメージの定着という意味で、安価なコンシューマー(初心者)向けの製品を出すことも考えています。もうひとつの方向は、OS、ハードウェアともにワイヤレス分野を視野に入れていきます。OSのほうではワイヤレスプロトコルへの対応、ワイヤレスアタッチメントなどを管理できるOSにしていきます。その方向でワイヤレスモジュールを内蔵したPalm を、さらに小型軽量化した製品を、来年には日本市場にも投入しようと考えています」というウィル氏の言葉が示す次世代機の登場が待ち遠しい。

今回の取材の中で明確になったのは、情報端末世界でのPalmの位置付けた。つまり、PalmはノートPCに対して、「ポケットの中に常に携帯して瞬時に内蔵データにアクセスできる」利点を持つ。一方、(iモード)携帯電話に対しては、「処理能力が高く、PCやインターネットとの連携性に優れる」今後、Palmはこれらの利点を売り物に、これまでPCや情報端末を使っていなかった人や(携帯電話やPHSで)E-Mailを活用し始めた人たちに普及していくツールと言えるであろう。



Palmデバイス初のカラー液晶を搭載したPalm c



スマートなボディのPalm x



# PCコンパニオン からネットワーク コンパニオンへ



日本IBM株式会社 PS製品事業部  
PDA企画 天明 崇氏

2000年春、本家パーム コンピューティング社をはじめ、Palm陣営各社は一斉に日本市場に参入した。しかし、日本のPalm市場の実質的なスタートは1999年2月だといえるだろう。英語版Palmを日本語化していた日本のユーザーたちが切望していた純正日本語版Palmを、日本IBMが実現したからである。Palm陣営の本格的な日本上陸が始まった現在、迎える立場にある日本IBMは今後のどのような戦略を展開するのだろうか。日本IBMのPS製品事業部でPDA企画を担当する天明崇氏に話を伺った。

### 導入目的はネットへの接続

「ThinkPad」や「Aptiva」のように積極的な広告展開をしているわけではなく、秋葉原でもいくつかの販売店に専用コーナーがある程度で、ビジネスツールという印象が強い「WorkPad」。パソコン雑誌でも取り上げられる機会も少なく、一般ユーザーには目立たない存在だったといえるだろう。だが、IBMの得意分野である企業相手のシステム販売と、熱狂的なPalmファンにより「WorkPad」ユーザーは確実に増え続けてきたという。

1999年2月23日、正式にOSレベルで日本語化されたPalm OS製品第1号として登場したのは、「Palm x」に相当する乾電池仕様の「WorkPad(30J)」。その後、同年5月には「Palm 」相当の「WorkPad c3(40J)」を、そして今年4月には「Palm x」相当の「WorkPad(50J)」と、日本IBMはWorkPadシリーズのニューモデルを相次いで発売している。

50J発売以降、30Jの動きが止まったかと思えばそうでもないらしい。購入層とその理由について、天明氏は「仕事で使っていてバッテリー切れが怖いと考えている人は、迷うことなく30Jを購入する。職種によっては必ずしも充電できる環境に戻れるとは限らないし、警告が出た時点で電池を交換さえすれば使い続けることができ

る」と語る。

実際の使用状況については「ヒアリングをしたところ、スタンドアロンでの活用は10人に1人。残りはすべてPCと連携して使っている。しかも、携帯電話などにつなぐアダプターの所有率も予想以上に高く、PCとの連携だけでなくインターネットやイントラネットへのアクセスを目的にするユーザーも多い」という。IBMが当初、WorkPadでターゲットにしていたのは、ビジネスパーソンのユーザー層だった。つまり、企業内ですでにPC上でスケジュール帳やメモなどを使っていて、そのデータを外に持ち出したいと考えるユーザーがPalmの潜在的なユーザーだろうと想像していたのだ。しかし、実際には「まずは購入し、使ってみようという気持ちで、業務アプリケーションを組んでみようかと考える」企業の導入事例が多く、「PDAで業務アプリケーションを構築したいと考えた人が、とりあえず実験用に購入する」ケースもある。予想に反して、企業向け携帯情報端末としてのニーズが高いというのだ。

### 日本での市場動向と IBMの販売戦略

IBMは、従来から「ウルトラマンPC」の愛称で注目を集めたPC110のような超小型製品をはじめ、多くのサブノートPCもラインナップしている。企業向けシステム

として考えた場合、これらサブノートの方が適しているのではないかという疑問に、天明氏からは「確かに、プレゼンテーションや業務アプリケーションなどのPCソフトを使いたいというユーザーもあり、サブノートでのソリューションビジネスも進んでいた。半面、業態によってはさまざまなニーズがある。例えば、調査会社などのアルバイトを多用する企業では、初心者でも簡単に入力でき、電話などに接続することで情報をデータベースに登録したい。流通業では、女性の多い在庫管理部門からはペン型のノートPCですら重いという声がある。コンビニなどの小売りチェーンの現場からは、POSでは全体の売り上げ管理はできても、タイムリーな在庫管理管理ができない。ルートセールス系の企業からは、巡回した顧客のちょっとした情報や移動中に見かけた新規情報などをメモしたいが、データターミナルでは自由度がない

など。これらの声に応えるのが、WorkPadのような携帯情報端末」という答えが返ってきた。サブノートPCでは重すぎるし、起動も遅い。かといって、データターミナルでは自由度が足りないというわけだ。その点、WorkPadはアプリケーションも作りやすいし、機動性も十分にある。しかも、企業の業務だけに集中せず、レギュラーの業務に“+α”(フレキシビリティ)を加えることができるという。この「+α」について、天明氏は「企業の側からでなく、実際に現場で使う個人の観点から見た魅力が必要。ルーチンワーク専用端末ではなく“公私混同できるコンセプト”がPalmだと位置付けている。一見、企業としては好ましくない形にも思えるが、プライベートな情報も入れられる携帯情報端末なら愛着も湧くし、操作に慣れるのも早い。つまり、使用頻度が高まることは、結果的に業務上の情報蓄積も充実することにつながるというわけだ。何より公私混同することで身近な道具としていつでも気軽に使えるのが、Palmの最大のメ

リット。企業向けソリューションビジネスとしての市場は大きい、個人ユーザーに気軽に使ってもらえないようでは、企業での導入も成功しないと考えているのだ。

ほかのPalm陣営は文字どおり個人ユーザーを狙った展開をするとみられるが、IBMは同じ個人からスタートしても家庭内での活用ではなく、最終的に企業内でのビジネス活用を目指す。IBMの狙うユーザー層は、企業の中の個人。「彼ら自身が満足できるものでなければ、企業として使ってもらうこともむずかしい。これまでのビジネスでも彼らを通じて企業に導入されたものが多いこともあり、個人ユーザーを大切にしていきたい」と天明氏は語る。

### 業務 + プライベートで有効活用が進む



実際に“公私混同”できるための機能として、Palmには豊富なパーソナルアプリケーションが存在するだけでなく、「まともに使った初めてのデバイス」と天明氏が分析する赤外線通信も大きな役割を果たす。ノートPCにも赤外線インターフェースを装備した機種は増えているが、実際にはほとんど使われていないというのが現状。Palm同士なら「名刺(データ)交換」だけでなく、プログラムやデータの受け渡しなども簡単に行えるアプリケーションが組み込まれているので、企業などでは頻繁に使われているというのである。しかし、実際に交換する内容

は、余暇の個人的な用途がほとんどらしい。Palmを持つ者同士であれば、自作したゲームやインターネットなどから集めたフリーソフトや情報などを受け渡すのに、ディスクやLAN接続、クレドールといった装備も必要がなく、お互いのPalm同士を向かい合わせ、赤外線を送受信を行なうだけという気軽さがあるからだ。お互いに自慢できる物を交換することで「友達の輪」が広がるというのが、日本市場でのWorkPadの普及につながっているということらしい。

天明氏は「Palmで面白いのは、ユーザーからの問い合わせやクレームがPCなどに比べて極端に少ないこと。これは身近なユーザーの“自慢”を聞いて購入するというパターンが多く、購入者は身近な人のサポートを受けることができるからだろう。使い方に慣れてくると、今度は自分も自慢したいという気持ちになるので、それがユーザーの輪を広げている。PCでは乗り遅れないためという“強迫観念”で買う人が多かったのに対し、“Palmはいつのまにか感染する”という感じだ。アクセサリやプログラムを自慢できることがファッションになっている。スタイラスペンを付け替えたり、皮ケースに入れるだけでも雰囲気が変わるし、豊富に存在するフリーソフトなどのアプリケーション次第で使い勝手も大きく違う。ソフトや周辺機器で人と差別化できる点が受けたのではないだろうか」と語っている。

ファッションといえば、ほかのPalm陣営では筐体のカラー化などにも積極的だが、IBMでは「企業カラーもあるが、高級感を醸し出す意味からも黒を基調としている。Palmファミリーから様々なバリエーションが出てくることはありがたいですね」と余裕を見せる。

### 「WorkPad」の目指す道

本家パーム コンピューティング社からは日本上陸と同時にカラー液晶版Palm

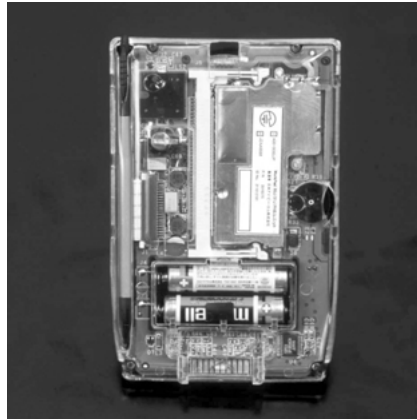


cが発売されたが、WorkPadシリーズにもカラー液晶版の登場を期待する人は多い。だが、天明氏は否定的だ。価格が高くなることと、消費電力の問題が大きいのだが、筐体サイズが変わることで、クレードルやキーボードなどの周辺機器との接続互換性が損なわれることを避けたいというのだ。さらに、256色と160×160ドットの画面では情報量が少なく、カラー化のメリットは小さいので、これらが解決するまでは出さないということらしい。

それ以上に重視しているのが、中高年層のユーザーの声。「IBMには企業ユーザーの年配者からの情報が入りやすい。例えば、字を拡大するモードがほしいという意見も寄せられており、これは漢字では特に重要な問題でもあり、画面の解像度を上げるだけでなく表示の大きさを変更できるようなアプリケーションも考えなければならぬだろう」と語っている。

ところで、「(Palmは)PCに繋がるPDA」というのが一般的なユーザーの認識だが、IBMは当初から「バックグラウンドにあるWebを自由に扱うツール」にすることを考えていた。WorkPadの商品化については、Windows CEも候補に上がったが、「ネットワークデバイス」としてのバランスを考えると、ノートPCの延長上にあるCEでは不相当だと考えたのだ。装備したい機能を積み重ね、それに適したハードウェアを作るPCの発想は「足し算」の文化だが、最終的に求める機能から削れる部分を引いていくことでパフォーマンスを向上させるPalmの発想は「引き算」の文化。携帯性と使いやすさを重視した結果、Palmを採用することになったのだという。

また、ネットワークデバイスという観点からも、ワイヤレスコミュニケーションに対して積極的だ。かつて米国でWorkPadを発売した当初は「PCのサブセットを持ち歩く」という意味合いで「PCコンパニオン」という呼び方を使っていたが、50Jの発売時から「ネットワークコンパニオ



このPHS 32Kデータ通信内蔵のWorkPadは、大阪ビジネスショーに参考出展されていたもの。右上の内蔵スロット部分に装着されているのが、PHSの通信ユニットだ

ン」という呼び方に変えたのだという。ノートPCは、表計算やプレゼンテーションを見せるための道具としては適切だが、ルーチンワークの現場で使う情報端末機器としては機動性や携帯性の面で劣るし、気軽にメモをとるための機器としては大げさすぎる。携帯情報端末は営業マンがシステム手帳の代わりに持ち歩く道具というコンセプトでなければならぬが、SOHOが注目され、会社に戻らない人が増えてくると、「会社に帰って入力しなくてはならない」ようでは実用性に欠ける。直行直帰でもインターネット経由で社内データベースに接続すれば終わりという世界を作りたいのだという。言うなれば「インターネットがクレードル」というところだろうか。どんなに優れた機能を持つ携帯情報端末でもスタンドアロンでしか使えないなら、情報を共用することはできない。(個人の)スケジュールや集めた情報をサーバーにワイヤレス接続し、共有することで有効に使うという考えを示す言葉が「ネットワークコンパニオン」なのだ。

その第一弾として、近いうちにWorkPadにPHSカードを内蔵した製品を発売するという。30JにPHSカード(PIAFS標準)を組み込んだ製品になるようだ。電話機とのケーブル接続にせず、内蔵を選んだ結果、いちいち機器を接続する手間も省ける



試作機の表側は、オーソドックスなWorkPad(30J)だ。PHSユニットを内蔵した試作機で通信を行い、ネットニュースを表示させている

し、通信操作も簡単にできる。日本人でのひらに収まるサイズにもこだわり、外付け型のモデムのようにでのひらからはみ出して、必要以上にかさばることもない。携帯電話ではなくPHSを選択したのは、通信速度と消費電力の小ささを重視したからだ。しかも、音声通話を扱わないデータ通信専用とすることで、基本料金なども抑えられるメリットも生まれる。Palmの「使えるシンプル」という特徴を活かすために総合的なバランスを考えたいという方向付けだという。

今後のPalm文化の発展について、天明氏は「日本から発信し、欧米に広がる技術としてはカラー化と解像度の向上が挙げられる。漢字の特性から、多くの文字解像度を大きくしたいという要望が生まれ、さらに表示能力を高めるためにカラー化の要望が生まれる。これらの実現には、日本の市場がイニシアチブをとることが近道となるだろう」。Palmではすでにカラー版も発売されているが、アプリケーションはこれからということ。解像度は第一世代から160×160のまま。 「使えるシンプル」という合い言葉のもと、表示能力の高いPalm製品が登場するのは日本市場の動向次第ということになりそうだ。



## 台湾製Palm風 ハードウェアも登場!

清水隆夫

毎年6月に、台湾の首都・台北で開催されるCOMPUTEX TAIPEIは、今年で20周年を迎えることになった。ご存知の読者も多いと思うが、COMPUTEX TAIPEIはドイツのCeBIT、米国のCOMDEX/Fallと並んで世界3大コンピューターショーといわれ、アジアではもちろん最大規模のITトレードショーなのだ。



COMPUTEXのメイン会場となるTWTC1号館は、例年に比べると大型ブースが少なくはなっているが、これはTWTC2号館が完成したためだ

### 3会場で、COMPUTEX TAIPEI 2000開催

今年のCOMPUTEX TAIPEIは、昨年までの2会場に分かれての展示会場に加え、3番目の展示会場が新設された。昨年までは、メイン会場である世界貿易センター(TWTC)と、隣接する国際会議センター(TICC)だったのだが、昨年末に完成したTWTC第二展示会場が3番目の展示会場に加わったのだ。また、これまでは台北の中心地からはバスかタクシーで移動するのが常だったが、今年春に開通したMRT(台北の地下鉄)が会場近くまで延長されたおかげで、交通渋滞に関係なく行き来することも可能になった。



今年は3会場となり、出展企業も1000社を超え、過去最大規模で開催された

### Palm風ハードウェアも登場

COMPUTEX TAIPEIでは、主にPC関連のパーツがその展示の中心となっている。

つまり、PCのマザーボードやケース、周辺機器などであるが、ここ数年の間で、これらパーツだけではなく、完成されたノートPCやPDAなども各社が力を入れて展示するようになってきていた。



AUSUS社のプロトモデル展示では、PDAとしてPocket PCの参考出展も行われていたが、OSはWindows CEだけではなく、Palmも考えているようだ

PDAに関しては、昨年まではWindows CEマシンがほとんどで、台湾国内で普及している電子手帳や中国本土向けの電子手帳などが展示されている程度だった。台湾国内でもっとも普及している電子手帳は「無敵」という名で、PDAと電子翻訳機などが装備されており、中国語(北京語)に加えて、英語や日本語を使うことも可能だ。日本でいえば、ザウルスに相当するビジネスマン向けの電子手帳である。

今年のCOMPUTEX TAIPEIでは、これらのWindows CEや電子手帳に加えて、Palm風のハードウェアやPalm OS風のOSなども展示されており、台湾産業界が明らか

にPalmを意識した商品を開発していることが判明した。特にPalmとははっきりと表示しない機種もあるが、見た限りでは、入力エリアがしっかりとPalm風だったり、表示エリアをPalm +  $\alpha$ として、 $\alpha$ 部分の表示エリアを入力エリアに設定可能なハードウェアも見受けられた。



LEO社のWindows CEおよびPocket PCの各種バリエーションモデル。モノクロLCDを装備した低価格PDAだ。Windows CE/Pocket PCに混じって、Palm OS風ハードウェアも見られる

また、ハードウェアは他家Palmと同じMotorola社のCPU「Dragonball EZ」を搭載しているが、独自開発のOSを搭載したPDAでも魅力的な製品を提供しているメーカーもある。代表的なところでは、台湾最大規模のPCメーカーAcer社だろう。Acer社のPDAは、すでに中国本土向けと台湾国内での販売を予定している「SlimMate」だ。

SlimMateには、合体メカがオプションで用意されており、GPSモジュールメカを装着すればハンディーGPSとなり、デジタル



カメラユニットを装着すればデジカメに変身、さらには携帯電話ユニットまでもが準備されている。これによってマルチメディア端末だけではなく、インターネット端末にもなってしまうという多機能なPDAに仕上げられていた。対応してくれた技術者によれば、Palm OSの契約をAcer社としては考えていないが、OEM先がPalm OSを希望するのであれば、搭載することは何ら技術的にむずかしくないということだった。



SlimMateを実際に操作してみた。操作性はPalmと同等だが、中文モデルのために漢字表示が素晴らしい、Palmの日本語モデルよりも読みやすい



Acer社のSlimMateでは、合体可能なGPSユニットも展示。ちょうどエプソンのロカティオ初代モデルのようにアンテナが収納可能



SlimMateの合体メカコーナーでは、デジカメユニットも展示されていた。PDAをオプションのメカで、機能アップできるのだ



SlimMate用デジカメユニット側から見るとまったくPDAには見えず、デジカメそのもののように、表示はモノクロビューワーとなる



SlimMateは独自OSが搭載されているが、見た目はPalm OSのようなアイコンメニューになっている。クレードルも同様だ



SlimMateに装着されたGPSユニットモデルでは、地図が表示されていたが、もちろん実際にGPS測位が行われていたわけではない



Acer社では、日本語モデルも投入する予定がないわけではないという。販売が見込めるならば、年内にも投入したいとのこと。Palm OSで動作させることも可能だという

## なんとPalm風OSも登場

Palm風のハードウェアに加えて、驚いたことにPalm OS風ともいべきPenbex Data System社のPenbex OSという独自OSを搭載したマシンの展示も行われていた。VisorやTRGpro、ソニー製Palmと異なり、Palm OSのライセンスを得たものではなく、Palmと同じような操作性を持った「Palmもどき」といったPDAだ。大きさとしては、一般的なPalmよりもひと回り小さく、Visorよりも小さいかもしれないので、胸のポケットにも簡単に入る。単4電池2本で動作し、Palm OSと同じような予定表、アドレスなども装備されていた。メモリは8MBを搭載しており、クレードルまでPalmと同じで、Palm用クレードルをひと回り小さくしたような大きさだ。

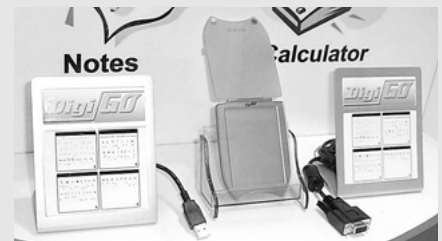
この試作機に加えて、すでに同じOSを搭載した中国本土向けの製品もあり、こちらは一見ただけではPalm風ハードウェアとは思えないようなデザインだった。このPalm OSと同様の操作性を持ったPalmクローンともいえるPDAも、CPUにはPalmと同じDragonball EZが搭載されているので、そのままPalm OSを搭載することも可能となっ

ているようだ。特徴的なのは、このPenbex OSのPDAでは外装の交換も自由に行えるようなオプションも用意されていたことに加え、MP3再生の機能も標準でサポートされていることだ。

現在は中文と英文サポートだけだが、英文版ではPalmの風入力を備えている。現在は日本語版の開発も進めており、秋口には市販を開始する予定。価格に関しては「Windows CEは高すぎるし、Palmも高すぎる、Visorでもまだ高い」という表現をしていたので、かなりの安価で供給する自信があると予測される。



Penbex Data System社のPenbex OS搭載マシンは、Palm OSと同様の操作性を持ったPDA。CPUもPalmと同じDragonball EZを搭載



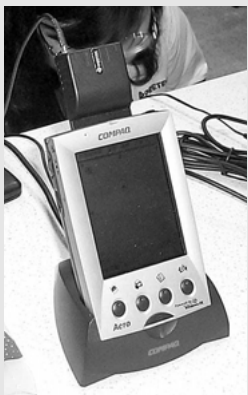
Penbex OSのPDAは、外装の交換も自由に行えるようなオプションも用意されていたが、現在は中文と英文サポートだけ。英文版ではPalm風の入力だ

## Palm用周辺機器も多数展示

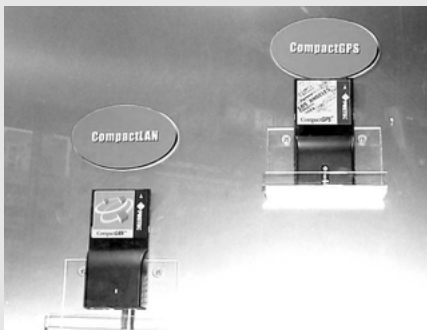
Palm用の周辺機器というと、現在では米国製がほとんどなのだが、製造そのものは台湾企業で行われるOEM製品が多い。そのPalm用周辺機器メーカーもPalmのハードウェア普及によって、自社による製品提供を行うようになってきているのが、目新しいところだろう。

筆者の得意とする分野に、パソコンとGPS受信機をシステムで使う提案をしてい

る「パソコンGPS」があるが、小型なPalmをパソコンの代わりに使用する「PDA-GPS」が、今後大きくブレイクするのではないかと予想している。事実、米国では、GPS受信機大手のMagellan Systems社からPalm やPalm 用の専用GPS受信機ストリートファインダーシリーズなども発表されている。台湾でも、GPS受信機の国産化が進んでおり、全世界で大きなシェアを持っているGARMIN社のハンディーGPSも、実はすべてが台湾製だ。このGPS技術をPalmをはじめとするPDAへ生かすことも当然ながら行われており、魅力的なCFスロット対応のGPS受信機も複数展示されていた。CFスロット対応なので、TRGpro以外のPalmでは使用することができないのが残念。しかし、Windows CEマシンを想定していたようで、担当者によると今後はスプリングボード対応のGPS受信機も生産する予定があるというから楽しみだ。



Windows CE機やTRGproなどのCFスロットへ装着可能なコンパクトなPRETEC社のGPSユニット。その名もCompact GPS



PRETEC社ではCFサイズGPSユニットのほかにも、TRGproでも使えるEthernet用のCompactLANを製品化している

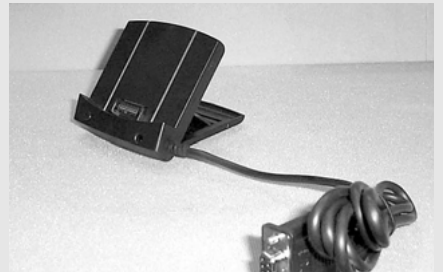
また、Windows CEでは拡張スロットとしてはCFとPCカードが一般的だが、Palmはこれらがメーカーによって統一されていない。本家PalmはSDメディアを推進するとの発表もあったが、それ以外のTRGproではCFスロットを採用しているし、Visorは独自のスプリングボードだ。このスプリングボードには、MMCやCF、スマートメディアなどのスロットを持ったモジュールもあり、汎用性も高い。加えて、ソニー製品が自社のメモリースティックを搭載しているのは当然であるし、これらの拡張スロットを持たないIPalmに対しては、サードパーティーからスマートメディア対応の改造キットなども販売されているという混沌とした状況だ。もっとも、これらのメモリーストレージを変換する便利なアダプターも多数展示されており、これらを利用することで、デジカメとPalmやPCでメモリーメディアを共有することも可能なので、それほど気にすることもないだろう。

Palm専用オプションの定番といえば、PCとの連携に不可欠なクレードルだ。このクレードルを自宅とオフィスの2カ所へ設置して使用しているPalmユーザーも多いが、出張などの際に持参したノートPCとの連携では、標準のクレードルはかさばって非常にわずらわしい。これを解決してくれるのが、折りたたみ式のクレードルだ。使用する際にはスタンドとなり、普段は折りたたんでかさばることもない。場合によっては、



Feiya Technology社の一見、CFメモリーのようなスマートメディアとCFの変換アダプター。特別なドライバー不要で、CFスロットがあれば使用可能とのことだ

折りたたんだままモデム接続用アダプターとして使えるという多機能性も併せ持っているうえ、純正HotSyncケーブルより安いというのも見逃せないだろう。



ケーブルの違いによって、モデム接続用のアダプターモデルもあるDATACOMP社の折りたたみ式クレードル



DATACOMP社のクレードルを折りたたんでしまえば、携帯して歩くのにもかさばらない。価格は24US\$と安価だ

また、Palmで文字を入力する機会も多い、筆者のようなライター業を営む者にとって、Palm用外付けキーボードもなくてはならないアイテムのひとつだ。Palm用キーボードは、すでに何種類か出ているが、かなり高価なものが多く、これらに加えて台湾製の安価なPalm用外付けキーボードが数多く出始めてきているのも、選択肢が増えうれしいところだ。



DATACOMP社のPalm用キーボードは、国内でも入手可能なのだが、Palm以外にもWindows CE機もサポート可能になっていた



## 台湾企業の Palm市場参入はあるか

今回のCOMPUTEX TAIPEIでは、比較的大きな企業がPalm市場を見据えた製品開発を行っている事実が確認できたが、台湾のPCメーカーの多くが、いまだにWindows CE市場向け製品を模索しているようだ。

すでにWindows CE市場から撤退する大手企業もある中で、台湾企業はこれらの撤退メーカーに取って代わるチャンスを模索しながら、現在のPDA市場の覇者であるPalm互換市場への参入も虎視眈々と狙っていることは間違いないだろう。台湾のPC関連企業の多くが、OEMやODMといった自社ブランド製品以外を得意としているの

は、過去のPC事業でも明白だ。Palm互換機市場がマーケットとして成熟すれば、確実にその市場に参入する企業が増加し、台湾企業としてもPalm本体はもちろんのこと、周辺機器においても魅力的なマーケットとなるだろう。台湾企業は互換機市場を非常に重要視しており、これが台湾のPC産業の過去の資産でもある。台湾のPC産業は、互換機の生産そのもので始まったといっても過言ではない。「APPLE」に始まり、それをApple社から止められ、次の市場としてIBM PC互換機、すなわちAT互換機の生産で開花させたのだ。現在のAT互換機市場では90%以上が台湾メーカーで占められているのは、広く知られている事実だ。半面、台湾メーカーではApple社に対する反発が根強く残っている。過去の

APPLEでの遺恨もそうだが、正規に互換機ライセンスを行っていたUMAXなどのメーカーに対して、一方的に互換機ライセンスを打ち切るなどの仕打ちに対して、不信感をぬぐえないでいるのも事実なのだ。

このような過去の経験からか、多くの台湾企業が複数のメーカーによる互換機市場が形成された市場へは積極的にライセンス取得も含んで、参入してくるという経験的なマーケティングを行っているようにも受け取れる。そういう意味では、台湾企業の多くがWindows CEに加えて、Palm互換機市場へ参入してくるのは間違いないと考えられる。より安価なPalm互換機が市場へ登場してくるのも時間の問題だといえる。今年のCOMDEX/Fall 2000が今から楽しみでならないのは、筆者だけではないだろう。



## 光華商場でのパーツやPalm製品販売状況

台湾へ到着してホテルのチェックインを済ませ、そのまま気温38度、湿度は限りなく100%に近い中、根性と決死の覚悟で光華商場への取材に出かけた。6月6日当日は、台湾の旧暦の端午節(日本では5月5日の子供の日)ということから、4日から3連休の企業がほとんど。光華商場も休日を利用しての買い物客が多く、いつもよりも混雑していた。

肝心のパーツや製品の価格だが、目新しいものは秋葉原に比べるとほとんどなく、価格もケース以外のCPUやマザーボード、メモリー、HDDなどは同等か若干高いといったところ。しかし、ケーブルや小物に関しては、確実に安く販売されており、特にIDE用ケーブルやSCSIケーブルなどは半値から4分の1程度と激安だ。

光華商場で買い物をする場合には、中国語がある程度できないと値切ることができない。店頭でも価格すら提示していない店も多く、CPUやメモリー、マザーボードなどのパーツ類を購入する場合には、注意が必要だ。英語もほとんど通

じないと思ったほうがよく、まれに学生バイトがいる場合には通じることもある程度。しかし、安価なケーブルや小物は価格が提示されているし、スーパーマーケット方式のパーツショップもあるので、こういった場所であれば言語の心配もなく安心して購入することが可能だ。

Palmデバイスに関しては、本家Palmの製品の英語版が豊富に展示されている。特に、米国本土では入手難とされているPalm系やPalm系も標準で在庫されており、日本ではもちろん、米国で

はすでに入手不可能なPalm eの限定クリアボディのモデルなどが、現在でも入手可能となっている。价格的には、日本の並行輸入品に比べると安価であり、特に米国ではプレミアがついているようなモデルであっても、比較的リーズナブルな価格で購入することができる。場所は光華商場のガード脇の地下店舗をはじめ、数カ所の店舗で展示されているので、これらオリジナル英語版Palmを入手したいのであれば、ぜひとも光華商場へ足を運ぶことをお勧めする。



台北の秋葉原といわれる光華商場は、地下鉄の駅が近くにできたので、アクセスがたいへん便利になった



昨年まで違法ソフト満載のCD-Rを販売していた場所は、取り締まり強化のためか、焼きソーセージ屋にかわっていた

# サイボウズOffice3 と サイボウズシンク3 for Palm/WorkPad

佐橋 慶信



このソフトウェアは、本誌付録のCD-ROMに収録されています

サイボウズOffice3は、Webブラウザだけで利用できる軽快なグループウェアだ。サイボウズシンク3を使うと、そのOffice3のスケジュールやToDo情報をPalmデバイスと同期をとることができるようになるのだ。ここでは、グループウェアの機能を広げるサイボウズシンクの魅力を探る。

## サイボウズOffice3とは

グループウェアとは、ネットワークやインターネットを使ってグループで情報を共有するためのソフトウェアだ。掲示板で情報を共有したり、行き先案内板を使って出先を教えたり、スケジュールを公開することで、グループ単位での情報と行動をスムーズに管理することができ、現在では、ネットワークで利用するアプリケーションのひとつとして代表的なものにあげられる。

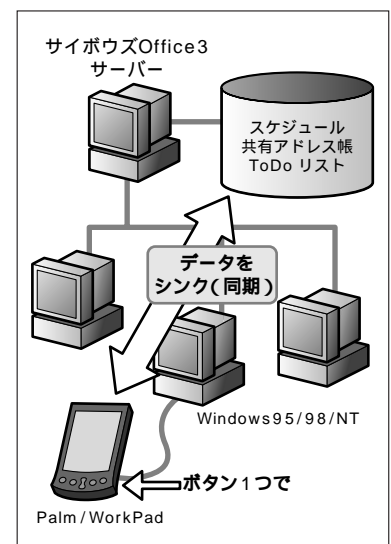
ロータス社の「Notes」をはじめ、ベンダーからも多く販売されているが、数あるグループウェアの中でも、「サイボウズOffice3」はクライアントに専用アプリケーションがいらす、軽快に動作することで人気があり、シェアを伸ばしている注目の製品である。

サイボウズOffice3は、クライアント/サーバー式で利用するが、クライアントはWebブラウザだけあれば利用できる。そのため、「Internet Explorer」や「Netscape Navigator」などの一般的なブラウザがクライアントにインストールされていればいい。クライアント/サーバー間は、TCP/IPプロトコルを使い、しかもhttpだけを使うため、MacintoshやLinuxなどのプラットフォームからも利用できる。

さらに、サイボウズOffice3では、クライ



画面1 サイボウズOffice3は、Webサービスを使ったグループウェアとして注目されている



アントがWindows95/98/NT4.0の場合には、サイボウズシンクもビルトインすることができる。サイボウズシンクは、サーバーの情報をPalm/WorkPadへとリンクする機能を持っていて、サイボウズOffice3で共有している情報をポケットに入れて持ち歩くことができるという利用価値の高いものだ。

## サイボウズシンクとは

サイボウズOffice3では、専用のサーバーが必要だ。具体的には、図のようにサーバーと何台かのクライアントで構成されたネットワーク上で利用し、サイボウズOffice3本体はサーバーにインストールする。サーバーとクライアントは、TCP/IPプロトコル上でhttpを使って接続するため、LANにとどまらず、インターネットなどのオープンなネットワーク環境で使うこともできる。サイボウズOffice3本体は、Windows98/NT4.0/2000のほか、LinuxやSolarisなどの

UNIXで動作する。

これに対して「サイボウズシンク」は、クライアント側で動作し、Pentium 90MHz以上のCPU、メモリー32MB以上を搭載したWindows95/98/NT4.0マシンに対応している。現在のところ、Windows2000には対応していないが、これはPalm Desktopの対応待ちからだと思われる。また、このクライアントに接続してデータをやり取りするPalmデバイスは、日本IBMのWorkPad(30J/40J/50J)とパームコンピューティング社のPalm c、Palm x(ともに日本語版)である。英語版のPalmデバイスは正式にサポートされていないが、手元のPalmやPalm などでは、フリガナなど一部の問題が残るが、使用可能であった。このあたりは個人の責任で試してほしい。

## サイボウズシンクの基本設定

まずは、PalmデバイスとWindowsマシン

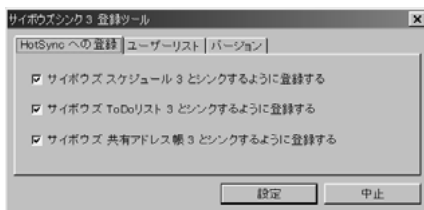
とが確実に接続されている必要がある。通常のPalm Desktopが使えていれば、問題ないだろう。もちろんそのWindowsマシンは、なんらかの方法でサイボウズOffice3が稼働しているサーバーに接続できる必要がある。

サイボウズシンクをインストールすると、Palm DesktopのHotSyncマネージャーに項目が追加されるはずだ。HotSyncマネージャーの「動作設定」を開くと、画面2のように追加される。ちなみに、コンジットとは、Palmデバイスの各アプリケーションごとの同期をとるためのモジュール(DLLファイル)だ。



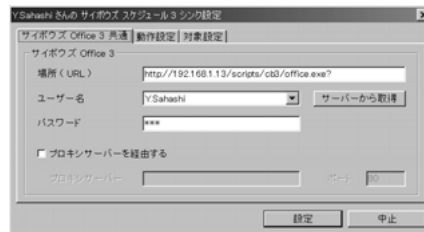
画面2 HotSyncマネージャーの「動作設定」にサイボウズの3種類のコンジットが追加されている

画面3では、サイボウズスケジュール3、サイボウズToDoリスト3、サイボウズ共有アドレス帳3の3種類のコンジットが登録されているが、これらは「サイボウズシンク3登録ツール」で設定できる。「HotSyncへの登録」タグでは、どのコンジットをHotSyncマネージャーに登録するかを設定する。同期が不要のコンジットは、チェックをはずす。「ユーザーリスト」タグでは、登録キーの設定などユーザー情報を入力する。試用版は、30日間は無料で使用できるが、30日を越えて使用するためには、1ユーザーあたり9800円のライセンスが必要になる。



画面3 「サイボウズシンク3登録ツール」でどのコンジットをHotSyncに登録するかを設定する

サイボウズOffice3サーバーの指定は、画面2でサイボウズスケジュール3などを選択してから、「変更」ボタンをクリックして行う。「サイボウズOffice3」の場所は、実際にOffice3を運用しているサーバーの場所をURLで指定する。実際にブラウザで接続してからコピー&ペーストするといいたろう。「ユーザー名」は、サイボウズOffice3サーバーにアクセスするときのユーザー名だ。こちらは「サーバーから取得する」ボタンを使えば、サーバーに実際に登録されているユーザー名が表示されるはずだ。パスワードやプロキシサーバーを指定すれば、全体の設定は完了する。



画面4 サイボウズOffice3サーバーのURLなど、ネットワークに関する設定を「サイボウズOffice3共通」タグで設定する

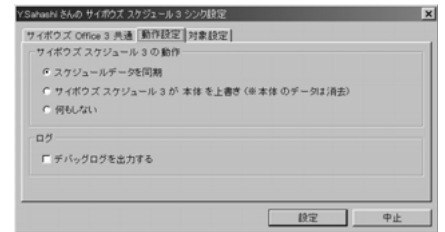
### サイボウズシンクの実際の運用

サイボウズシンク3を使って、サイボウズOffice3サーバー内のデータとPalmデバイスとで同期をとることができるのは、「スケジュール(予定表)」と「ToDo」、「共有アドレス帳(住所録)」の3つだ。一部だけを選ぶこともできる。

#### スケジュール

スケジュールのコンジットの設定画面は、画面5のようになっている。「動作設定」のページでは、「同期する」設定と「サイボウズがPalmデバイスを上書きする」設定が選択できる。このとき、Palm本体で入力したデータは消去されてしまう。Palm側の古い予定を削除したい場合などには、チェックを入れておくと指定した期間以外の予定は削除されるため、定期的に整理するときに

指定するといいかもかもしれない。通常は「同期」にチェックを入れておく。これらは他のコンジットでも同様だ。



画面5 スケジュールの設定画面では、同期するか上書きするかなどを設定する

#### ToDoリスト

PalmデバイスのToDoをサイボウズOffice3のToDoと同期させるかどうかの設定。Palmデバイスで設定したToDoの優先順位も、きちんとサイボウズOffice3に反映される。

#### 共有アドレス帳

サイボウズOffice3には共有アドレス帳があるが、このアドレス帳を同期させるかどうかの設定。サイボウズOffice3の入力項目は、Palmデバイスのもよりも少ないので、どの項目を優先して同期をとるかを設定しておかなければならない。

#### 低価格で軽快で導入もしやすい

PalmデバイスとサイボウズOffice3を連携するサイボウズシンクは、基本的な3つのアプリケーションで軽快に同期がとれる。ビジネスユースで使うためのものだけに、動作も安定している。個人で使うようなアプリケーションではないが、SOHOなどの小規模事業所などでも、低価格なだけに導入しやすいし、おもしろい使い方もできる。

製品名	サイボウズシンク3
連絡先	サイボウズ株式会社 http://cybozu.co.jp/
標準価格	1ユーザーライセンス 9800円

# Palm 強化大作戦

山田 道夫

# Palm 周辺機器ガイド

Palmの日本上陸にあわせて周辺機器も数多く発表されている。キーボードなど  
の入力デバイスはもちろん、携帯電話  
やPHSと接続するための通信アダプタ  
ーやスマートメディアを使うためのアダ  
プター、ボイスレコーダーからデジタル  
カメラまで、Palmの世界を広げてくれ  
る賢くおしゃれなやつらだ。

## キーボード・入力デバイス

### GoType! Pro!



問い合わせ先：アスク(03-5215-5650)  
Vis-a-Vis( <http://www.visavis.co.jp/> )  
価格：オープンブライズ  
対応機種：WorkPad c3、Palm x

GoType! Proは、WorkPad c3用ならび  
Palm x用の外付けキーボード。Land  
Ware製。キーボード上のクレードルに装着  
してすぐに使い始めることができる。低消費  
電力設計でバッテリーが不要。ドッキング  
ポートに接続するため、ケーブルなどもい  
らない。心地よいキータッチには定評があり、  
十分なキーピッチを誇っている。高速タイ  
ピングが可能。ファンクションキーには機能  
を割り当てることができ、WorkPad c3本体  
を充電できる充電機能も持っている。また、  
クレードル機能を搭載しているので、キー  
ボードからダイレクトにHotSyncすることが  
できる。サイズは、254(横)×101.6(縦)×  
19.1(厚み)mm。Plam OS 2.0以降に対応。

25KB以上の空き領域が必要。

#### 製品情報

<http://www.ask-corp.co.jp/palm/gotypep.htm>  
[http://www.visavis.co.jp/shop/goods/GoTypePro/gotypepro\\_2.html](http://www.visavis.co.jp/shop/goods/GoTypePro/gotypepro_2.html)

### GoType! Pro for Handspring



問い合わせ先：アスク(03-5215-5650)  
Vis-a-Vis( <http://www.visavis.co.jp/> )  
価格：オープンブライズ  
対応機種：Visor

定評ある外付けキーボードのVisor対応  
版。LandWare製。キーボード上のクレ  
ードルに装着して使う。定評ある心地よいキ  
ータッチを実現し、十分なキーピッチを誇  
る。高速タイピングが可能。低消費電力設  
計でバッテリーは不要。ドッキングポート  
に接続するためケーブルなどがいない。  
ファンクションキーに機能を割り当てるこ  
とができる。Plam OS 2.0以降に対応。  
25KB以上の空き領域が必要。Palm 用の  
GoType! Pro for Palm も発売中。

Vis-a-Visでは「for Handspring」だが、

アスクでは「for Visor」としている。

#### 製品情報

[http://www.ask-corp.co.jp/palm/gotype\\_visor.htm](http://www.ask-corp.co.jp/palm/gotype_visor.htm)

### Targus Stowaway Portable Keyboard



問い合わせ先：ターガス・ジャパン  
(045-242-9399)  
価格：オープンブライズ  
対応機種：Visor

折りたたみキーボードのVisor版。Think  
Outside社のポータブルキーボード。Palm  
でもPalm やPalm シリーズ用に発売中  
(英語版)。ユニークな折りたたみ構造ば  
かりが強調されることが多いが、キー  
ボードのキータッチもよく、キーピッチも十分に  
取られていて、非常に入力しやすい。英語

版は6月28日より発売中。日本語版に対応したキーボードは、8月1日発売予定。Visorユーザーであれば、日本語版を購入して損はないだろう。Palm用の日本語版も秋頃発売される予定だ。

ターガス・ジャパン

<http://www.targus.co.jp/>

### ThumbType



問い合わせ先：販売代理店 クラウン無線(03-3255-3877) / 販売元 オカヤ・システムウェア(03-3795-7601)

価格：6800円

対応機種：WorkPad、WorkPad c3日本語版、Palm、Palm x、Palm e、Palm、Palm

液晶パネルに貼るだけで、親指操作のキーボードとして使える。ポストイットののように簡単に何度でも脱着でき、本来のGraffiti部分は隠れてしまうが、ソフトウェアGraffitiが表示されるため、Graffitiと併用することもできる。キーボード部分にはプラスチック製の突起があり、この部分を押して入力する。ただし、対応しているのはローマ字入力のみ。Palm OS日本語版またはJ-OS以降に対応している。

製品情報

<http://www.osw.co.jp/products/mobile/thumb.htm>

### SH-Keys

問い合わせ先：富士通高見澤コンポーネント(03-5449-7000)

価格：オープンプライス(実売1万5800円)

対応機種：WorkPad、Palm



シリアルポートに接続するタイプの片手キーボード。左手用と右手用があり、色もブラックとグレーがある。キー配列は、1つのキーに、1個ないし2個の文字が割り当てられている。入力キーは、3段6列の18キーで構成され、独自方式「圧縮文字セット辞書引き(復元)変換」によって、日本語と英語の両方に対応していて、入力した文字を語彙により自動認識し変換する。ドライバーが改良されて、記号や数字を入力するときにポップアップメニューが表示できるようになった。動作環境は、Palm OS 2.0以上、J-OSがインストールされていること。

製品情報

[http://www.fujitsu.co.jp/hypertext/ft/whats\\_new/sh-keys.html](http://www.fujitsu.co.jp/hypertext/ft/whats_new/sh-keys.html)

### PDA Keyboard Pro「TP-K99WP-BK」



問い合わせ先：テックパーツ

(<http://www.tecparts.co.jp/>)

価格：1万2800円

対応機種：WorkPad、Palmシリーズ

キーピッチ16mmだが、意外にコンパクト。それでいて、F0～F6の拡張キーを搭載し、shiftキーとの組み合わせで最大12個の機能を割り当てることもできるようになっている。長時間タイプしても疲れにくいメ

カニカルスイッチが採用され、クレードルからのシリアル接続でも、本体に単4電池4本を使用するようになっていて、PDA本体のバッテリーの消費を軽減している。アプリケーションではなく、システムレベルソフトウェアなため、ほぼすべてのアプリケーションで文字入力が可能だという。ただし、キーボードとの接続のためにシリアルポートを利用するため、ネットワーク利用中はキーボードを利用することができない。

製品情報

<http://www.tecparts.co.jp/pdakeyboardpro.htm>

### Happy Hacking Cradle



問い合わせ先：PFUサイバービジネス営業課(0120-144-541)

価格：オープン価格(PFUダイレクトでの通信販売価格 5900円)

対応機種：Palm、WorkPad 30シリーズ

PS/2キーボードインターフェイスが付属したポータブルクレードル。ユーザーの好みのキーボードが接続でき、サポートしているキーボードは、英語101/104キーボード、日本語106/109キーボード(日本語はローマ字入力のみ可能)。ただし、消費電流が5V/50mA以下のキーボードのみ対応。

キーボードを使わないときは、Palm本体のシリアルポートをクレードル後部のコネクタに中継し、Palm ModemやHotSyncケーブル(いずれも別売)など、Palm用周辺機器を接続することができる。単3乾電池2



本で動作するため、Palm本体の電源を浪費しない。アルカリ乾電池使用の場合、500時間以上の連続使用が可能。折りたたむため、持ち運びに便利。サイズは85×118×24mm、重量105g(電池含まず)。

#### 製品情報

<http://www.pfu.co.jp/hhcradle/>

### Decrio for WorkPad



問い合わせ先：武藤工業

(03-5486-7177)

価格：2万4800円

対応機種：WorkPad日本語版

WorkPad日本語版用の手書き電子メモパッド。ケースと専用のペン、メモ帳、ボールペンカートリッジなどが付属している。メモパッド専用のペンで文字や絵を描くと、描いたデータがそのままWorkPadに取り込まれる。取り込まれた絵や文字はGIF/EDF形式の画像で保存されるため、テキストデータにコンバートしたりといったことはできないが、付属のMultiMail日本語版でメールに添付したり、HotSyncでPCに転送することができる。サイズは270×190×40mmで、重量は約580g。バッテリーは単4電池2本。

#### 製品情報

<http://www.mutoh.co.jp/decrio/home.html>

### 通信(モデム)

WorkPad c3/Palm x専用  
データ通信ケーブルKX-HA10



問い合わせ先：パナソニックカスタマーセンター(03-5821-3180)

価格：6300円

対応機種：WorkPad c3 / Palm x

WorkPad c3(40J/50J) Palm x専用のデータ通信ケーブル。九州松下電器のPHS端末H(KX-PH35S/KX-PH935S)に接続して、PIAFS 1.0対応のアクセスポイントに接続できるようになる。通信速度はPalmデバイスの制約から、最大19.2Kbpsに制限されている。長さ45cm。機種の制約が大きいのは残念だが、ケーブルとH(エッジ)端末だけで通信できるのは便利。

#### 製品情報

[http://www.kmepci.ne.jp/ph35s/005\\_s.html](http://www.kmepci.ne.jp/ph35s/005_s.html)

### SnapConnect for WorkPad



問い合わせ先：アイ・オー・データ機器(本社076-260-1024、東京03-5256-1024、大阪06-4705-5544)

価格：PC9632W 2万4800円 / PC9632W2 2万6000円

対応機種：WorkPad

WorkPad用の外付けモデム。デジタル携帯電話とPHS(PIAFS 32Kbps)に対応し、WorkPadのシリアルコネクターに接続することで、携帯電話、PHSからデータ通信を行うことができる。SnapConnect内に単4

乾電池2本を内蔵し、WorkPad本体の電池を消耗させない。ケーブルは、専用PDC接続ケーブル、専用PHS(PIAFS)接続ケーブル(NTTドコモ、アステル用)、専用PHS(PIAFS)接続ケーブル(DDIポケット用、PC9632W2のみ)が付属している。

#### 製品情報

<http://www.iodata.co.jp/products/network/pc9632w/work.htm>

### SnapConnect for WorkPad c3 「PC9632Wc3」



問い合わせ先：アイ・オー・データ機器(本社076-260-1024、東京03-5256-1024、大阪06-4705-5544)

価格：2万8000円

対応機種：WorkPad c3

WorkPad c3でモバイル通信を行うためのモバイルデータアダプター。デジタル携帯電話とPHS(PIAFS)に対応しており、WorkPad c3に接続することで、携帯電話、PHSからデータ通信を行うことができる。単4乾電池2本内蔵で、本体の電池を消耗させない。NTTドコモのポケット通信サービスや、PIAFSの64Kbpsデータ通信にも対応している。PDCケーブル、PHSケーブル(NTTドコモ、アステル用)、PHSケーブル(DDIポケット用)が付属している。本体に装着しても違和感のないデザインだが、Palm x日本語版で使うためには、ユーザー側でスクリプトを書くなどの工夫が必要。

#### 製品情報

<http://www.iodata.co.jp/products/network/pc9632w/c3.htm>

## SpringPort 56モデムGlobalACCESS



問い合わせ先：ザールコム ジャパン  
(03-3407-0033)

価格：未定

対応機種：Visor

SpringPort 56モデムGlobalACCESSは、オプションのPDCコネクションキットと併用することで、NTTドコモ、IDO、J-PHONE、TU-kaといった主要なPDC方式の携帯電話からインターネットにアクセスができる。PDCキットはすでに販売中で、ザールコムのCardBus対応CreditCard PCカードでも共通して使用できる。7月下旬発売予定。

ニュースリリース

<http://www.xircom.co.jp/press/000619.html>

## メモリー・ストレージ

## axxPAC



問い合わせ先：アスク(03-5215-5650)

価格：オープンプライス(実売1万円前後)

対応機種：WorkPad 30J、Palm x

WorkPad 30JとPalm xの拡張スロットでスマートメディアが使えるようになる。バックパネルを外し、拡張スロットにコネ

クターをセットしてパネルを交換し、axxPacドライバーをインストールするだけで、スマートメディアが利用でき、axxPacを使ってファイルのコピーなどを行うことができる。64MBまでのスマートメディアを認識できる。ケースの色はブラックとPalmカラーの2種類が選択可能。

製品情報

<http://www.ask-corp.co.jp/palm/axxpac.htm>

## バッテリー・バッテリー補助

## BattPac for PalmV



問い合わせ先：アスク(03-5215-5650)

価格：オープンプライス

対応機種：WorkPad c3、Palm 、Palm x

単3アルカリ電池2個を使って、PalmおよびIBM WorkPad c3の内蔵電池を充電することができる。充電状態、ローバッテリー状態を知らせるLEDが付属している。クリアケース(トランスルーセント)を採用し、薄型で、きわめて軽量(電池込みで114g)、HotSync用のシリアルポートを搭載している。

製品情報

<http://www.ask-corp.co.jp/palm/battpac.htm>

## ボイスレコーダー

## goVox for PalmV



問い合わせ先：アスク(03-5215-5650)

価格：オープンプライス

対応機種：WorkPad c3、Palm 、Palm x

「goVox for PalmV」は、Palm やIBM WorkPad c3のフリップカバーを外して、その代わりに装着して使うタイプのデジタルボイスレコーダー。ちょっとしたメモなどをワンタッチで録音・再生することができる。バッテリーは内蔵。最大99個のメッセージを録音できるが、合計録音時間は最大8分まで。メモ程度の録音に向いている。

製品情報

<http://www.ask-corp.co.jp/palm/govoxv.htm>

## goVox



問い合わせ先：アスク(03-5215-5650)

価格：オープンプライス(実売6800円前後)

対応機種：WorkPad 30J

WorkPad30Jのトップカバーを外し、goVoxをWorkPad30Jに取り付けて使うデジタルボイスレコーダー。Workpad 30Jのシリアルポートやバッテリーを使わずに、音声の録音・再生が可能。名前や電話番号

などちょっとしたメモとして利用できる。  
最大録音可能メッセージ数は99個で、トータル録音時間は8分。

#### 製品情報

<http://www.ask-corp.co.jp/palm/govox.htm>

### デジタルカメラ

#### PalmPix Camera



問い合わせ先：コダック  
(03-5644-5050)

価格：オープンプライス(実売2万円前後)  
対応機種：WorkPad、WorkPad c3、  
Palm、V

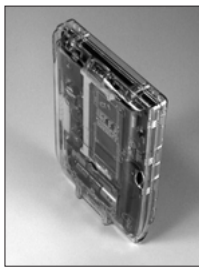
PalmPix Cameraを使うと、Palmが、30万画素のデジタルカメラとして利用できる。会議中にボードに書かれたデータや各種現場状況の撮影などに利用でき、ビジネスの効率を大幅にアップできる。操作が簡単なうえ、コンパクトで軽量なので、どこにでも自由に持ち運べる。Palmとは、シリアル、IrDAで接続できる。撮影画像は、Palm本体の液晶モニターで、確認できる。PCへの画像転送は、HotSyncボタンを押すだけ。Palmで使用するためには、Palm Dock社製アダプターを使用する必要がある。

#### 製品情報

<http://www.kodak.co.jp/digital/PalmPix/index.shtml>

### リプレースメントケース

#### クールクリア「PCCXP3」



問い合わせ先：アスク(03-5215-5650)  
価格：オープンプライス  
対応機種：Palm、Palm x、Palm e、WorkPad 30J

PalmシリーズやIBM WorkPad 30Jの本体をカラフルにするリプレースメントケース(取替用ケース)。詳細な説明書が付属している。ただし、メーカー保証などの対象外になるため、交換はオウリスクで行う必要がある。ほかに、CoolSolidColors、CoolClearColors、CoolClearGraphiteなどのリプレースメントケースもある。

#### 製品情報

<http://www.ask-corp.co.jp/palm/clearcolor.htm>

#### cocobolo wood case



問い合わせ先：Vis-a-Vis  
(<http://www.visavis.co.jp/>)  
価格：2万9800円  
対応機種：WorkPad 30J、Palm、Palm x、Palm e

原産地が中南米のココボロという木材を使用したWorkPad、Palm xで利用可能な木製のケース。木を削りだして作っているため、木の質感がそのまま表現されている。

る。木目もひとつひとつ違い、世界に1台のPalmを満喫できる。木製のスタイラスも付属しているため、スタイラスによって、質感を損なうことがなく、木へのこだわりを感じることができる。すべて職人による手作り。シリアル部分は金属加工が施されているため、クレードルとの抜き差しの際に、木が削れるということはない。赤外線通信のための窓も用意されている。メーカー保証などの対象外となるため、交換はオウリスクで行う必要がある。

#### 製品情報

<http://www.visavis.co.jp/shop/goods/cocobolo/cocobolo.html>

### ウルトラハードケース for WorkPad30J / Palm



問い合わせ先：国立商店  
(0422-70-6280)  
価格：1万8000円  
対応機種：WorkPad 30J、Palm

ウェスタン系革製品と銀製品の製作が得意な職人さんが製作する革製ケースで、素朴でシンプルな作りが特徴。2.7mm厚の多脂牛革(渋鞣の牛革)を使用し、全行程ハンドメイド。小さな銀のボタンは、シルバー925で、一から削り出して刻印を打ち付けたもの。厚みは2.7mm。サイズは、約143×95×27mm。色は、黒と茶色。ウルトラハードケース for WorkPad c3/Vもある。

#### 製品情報

[http://www.kawaya.com/shopping/uh\\_case/uh\\_case.html](http://www.kawaya.com/shopping/uh_case/uh_case.html)

## オーソドキシ



問い合わせ先：Vis-a-Vis  
 ( <http://www.visavis.co.jp/> )  
 価格：2万8000円～4万8000円  
 対応機種

革製品のオーダーメイド専門店オーソドキシ社の革製品をVis-a-Visでは、独自に扱っている。ケースの素材となる革は、タンニンなめし系で高級感が高い。色は3色(ワイン、キャメル、グリーン)。オーダーメイドなため、注文から3週間程度かかる。

## 製品情報

<http://www.visavis.co.jp/shop/CaseRev/orthodoxee.html>

## THE C.E.O



問い合わせ先：アスク(03-5215-5650)  
 価格：オープンプライス  
 対応機種：Palm 、Palm 、Palm 、Visorほか

三つ折タイプで、右利きでも左利きでも使うことができる。クレジットカード入れ、定期券入れ、ペンホルダー付き。マジックテープで機器を固定するようになっているが、Palm はマジックテープが不要。素材は皮革で、内側のサイズは、14×8.9×2.5cm。色は、Boardroom Black、Executive

Tan、Black-on-black、Tan-on-blackの4色。

## 製品情報

<http://www.ask-corp.co.jp/palm/ceo.htm>

## パームグローブソフトケース



問い合わせ先：パーム コンピューティング インフォメーションセンター  
 (0120-564-380)  
 価格：4480円  
 対応機種：Palm x、Palm

Body Glove社が、ウェットスーツ素材の一部を使ってデザインしたケース。防水性に優れ、免許証や名刺などを収めるポケットも付いている。カラーは、Black、Yellow、Royal Blue、Olive、Teal、Purpleの6色がラインアップされている。

## 製品情報

<http://www.palm-japan.com/catalog/P3/P3-3C10286U.html>

## Palm xジッパー付きレザーケース



問い合わせ先：パーム コンピューティング インフォメーションセンター  
 (0120-564-380)  
 価格：7980円  
 対応機種：Palm x

スタイリッシュなイタリア製レザーを使

い、高い品質と安全性を兼ね備えたジッパー付きのレザーケース。

## 製品情報

<http://www.palm-japan.com/catalog/P5/P5-3C10433U.html>

## Palm xレザーベルトクリップケース



問い合わせ先：パーム コンピューティング インフォメーションセンター  
 (0120-564-380)  
 価格：3380円  
 対応機種：Palm x

ベルトにクリップで留められるようになっている柔らかい黒革のケース。保護プレートとパッドが付いていて安全性も確保されている。Palm cベルトクリップ付きレザーケース(4480円)もある。

## 製品情報

<http://www.palm-japan.com/catalog/P5/P5-10407U.html>

## Palm xエグゼクティブカバーバック



問い合わせ先：パーム コンピューティング インフォメーションセンター  
 (0120-564-380)  
 価格：3380円  
 対応機種：Palm x

Palm xにスライドさせて取り付けができるカバー。黒と茶の2点セットがある。

#### 製品情報

<http://www.palm-japan.com/catalog/P5/P5-10408U.html>

### Palm xデラックスレザーケース



問い合わせ先：パーム コンピューティング インフォメーションセンター

(0120-564-380)

価格：1万2800円

対応機種：Palm x

財布とケースがひとつになったレザーケース。クレジットカード、名刺、メモ帳、紙幣、コインが入るオールインワン設計。

#### 製品情報

<http://www.palm-japan.com/catalog/P5/P5-10406U.html>

### Palm xスリムレザーケース



問い合わせ先：パーム コンピューティング インフォメーションセンター

(0120-564-380)

価格：4300円

対応機種：Palm x

画面保護機能も付いたスリムなレザーケ

ース。Palm cスリムレザーケース(3980円)もある。

#### 製品情報

<http://www.palm-japan.com/catalog/P5/P5-10405U.html>

### Palm xハードケース



問い合わせ先：パーム コンピューティング インフォメーションセンター

(0120-564-380)

価格：5980円

対応機種：Palm x

センターレールにPalm xをスライドさせて固定する頑丈なアルミ製ハードケース。

#### 製品情報

<http://www.palm-japan.com/catalog/P5/P5-10410U.html>

### スタイラス

### すたぼQ



問い合わせ先：シンプルコム  
(<http://simple.727.net/pen/>)

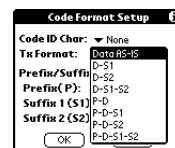
価格：2280円

対応機種：Visor、Palm

すたぼQは、スタイラスとボールペン、リセットピンとして利用することができる。球を回転させるとボールペンが、ペン先を外すとリセットピンが出てくる。アルミ削りだしという特殊な製品で、色はブラック、シルバー、ブルーがある。すでに計画分の生産は完了して市場在庫のみとなっている。からQ(1980円)もある。Palm にはO-ring(無料)というゴム製リングを付けるとぴったり取り付けすることができる。

### バーコードリーダー

### Symbolバーコードレーザースキャナ SpringモジュールCSM150



問い合わせ先：オリンパスシンボル  
(03-3348-0213)

価格：未定

対応機種：Visor

VisorのSpringボードスロットに差し込むだけでアプリケーションが起動する。とてもスリムなデザイン。ショッピングリストを作り、作成したリストを最寄りのショップに送信することで、必要な商品を自宅まで届けてくれるショッピングツールなどを構築することもできる。10月上旬発売予定。画面はデモソフトの画面。

#### オリンパスシンボル

<http://www.symboljapan.co.jp/>